OLYMPUS®

オリンパス光学工業株式会社

〒163-8610　東京都新宿区西新宿1の22の2　新宿サンエービル

アクセスポイント（製品に関するお問い合わせ）

札　幌	011-231-2338	金　沢	076-262-8259
仙　台	022-218-8437	大　阪	06-6252-0506
新　潟	025-245-7343	高　松	087-834-6180
東　京(八王子)	0426-42-7499	広　島	082-222-0808
松　本	0263-36-2413	福　岡	092-724-8215
静　岡	054-253-2250	鹿児島	099-222-5087
名古屋	052-201-9585	沖　縄	098-864-2548

※上記のアクセスポイントまで電話をかけていただければ、オリンパスカスタマーサポートセンターに転送されます。アクセスポイントまでの電話料金はお客様のご負担となりますので、ご了承ください。なお、調査のため、回答までにお時間をいただくことがありますのでご了承ください。

営業時間　10：00～17：00（土・日曜、祝日及び弊社定休日を除く）

※オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jp/ でデジタルカメラおよび関連製品の情報を提供しております。

国内サービスステーション（修理受付窓口）

※土・日曜、祝日および年末年始は原則として休みます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)1931
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北4条東1丁目2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区中央1丁目13-4 泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
新　潟	〒950-0087	新潟市東大通り2の4の10　日本生命新潟ビル	Tel.025(245)7337
松　本	〒390-0815	松本市深志1の2の11　松本昭和ビル	Tel.0263(36)5331
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
金　沢	〒920-0961	金沢市香林坊1の2の24　千代田生命金沢ビル	Tel.076(262)8257
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6991
高　松	〒760-0007	高松市中央町11の11　高松大林ビル	Tel.087(834)6166
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0001	福岡市中央区天神1の14の1　日本生命福岡ビル	Tel.092(761)4466
鹿児島	〒892-0846	鹿児島市加治屋町12の7　日本生命加治屋町ビル	Tel.099(225)1105
沖　縄	〒900-0015	那覇市久茂地3の1の1　日本生命那覇ビル	Tel.098(864)5396

VT1620-02

OLYMPUS®　デジタルカメラ　CAMEDIA E-10　取扱説明書

CAMEDIA E-10

取扱説明書

■このたびは、オリンパス デジタルカメラをお買い上げいただき、ありがとうございます。
■ご使用前にこの説明書をお読みください。
■大切なもの（海外旅行）などをお撮りになる前には、必ず試し撮りをして、正常に機能することをお確かめください。

OLYMPUS®

CAMEDIA E-10をお買い上げいただきありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みになり、安全に正しくお使いください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

オリンパス光学工業株式会社

○本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはオリンパスカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
○本書の内容は、万全を期して作成していますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がありましたらご連絡ください。
○本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。
○本製品の不適当な使用によって、万一傷害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
○本製品の故障、オリンパス指定外の第三者による修理、その他の理由によって生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
○本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。
この装置は、家庭環境で使うことを目的としていますが、この装置をラジオやテレビジョン受信機に近接して使うと、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書にしたがって正しく取り扱ってください。
飛行機内では、離発着時の使用を避けてください。
この製品指定のケーブルを使わないと、VCCI基準の限界値を超えることがあります。必ず、指定のケーブルを使ってください。

カメラファイルシステム規格とは、日本電子工業振興協会(JEIDA)で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

最初にかならず
お読みいただきたい
ページ

もっと使いこなしたい方に
お読みいただきたいページ

困ったときに
お読みください

まず、ここをお読みください。

つぎに、ここを読みながら、準備して、使ってみてください。初めての方でもすぐに撮影できます。ズームやマクロ、フラッシュの使い方もここで。

撮ってみたいテーマからお読みください。

もっと個性的な撮り方をしたいとき、自分でカメラをコントロールしたいとき、オートではうまくいかないときにお読みください。

撮った画像を見たいとき、整理したいときにお読みください。

プリントの準備をしたいとき、画像をパソコンに読み込みたいときにお読みください。

うまくいかないときや故障したときに。

もくじ

もくじ

撮影　色、画質　97

撮影　その他　111

再生　撮った画像を見る　137

●は、押しながらダイヤル（メインダイヤルかサブダイヤル）を回すボタン

メインダイヤルとサブダイヤル

メインダイヤルとサブダイヤルはいつも同じ働きをします。使いやすいほうを使ってください。
ただし、モードダイヤルがMのときだけは、メインダイヤルは絞り値、サブダイヤルはシャッタースピードの設定に使います。

液晶モニタボタン→P.37
押すと液晶モニタがつき、もう一度押すと消えます。撮影モード（P、A、S、M）のときすばやく二回押すと再生モードになり、もう一度押すと戻ります。
メニューボタン→P.174
押すとメニューが表示されます。
OKボタン→P.174
十字ボタン→P.174
メニューを使うときは、十字ボタンで緑の選択枠を動かし、OKボタンで決定します。
液晶モニタ→P.9
液晶モニタボタンを押すと、P、A、S、Mモードでは、ファインダと同じ画像、再生モードでは、撮った画像が表示されます。
メニューボタンを押すとメニューが表示されます。
液晶モニタロック解除ボタン→P.37
液晶モニタを引き出して角度を変えたいときに◀のほうへ押します。
消去ボタン→P.51
プロテクトボタン→P.50
INFOボタン● →P.9、68、138
押しながらダイヤルを回すと、撮影情報表示が切り替わります。ヒストグラム表示モードの場合は、押すとヒストグラムの表示/非表示が切り替わります。

シャッターボタン
→P.38
AF窓
→P.64
ワンタッチホワイトバランスボタン
→P.101
リモコン受信窓/
セルフタイマシグナル
→P.113、115
ストラップ
取付け部
→P.21
レンズ
バッテリホルダ
→P.23
三脚穴

●コントロールパネル

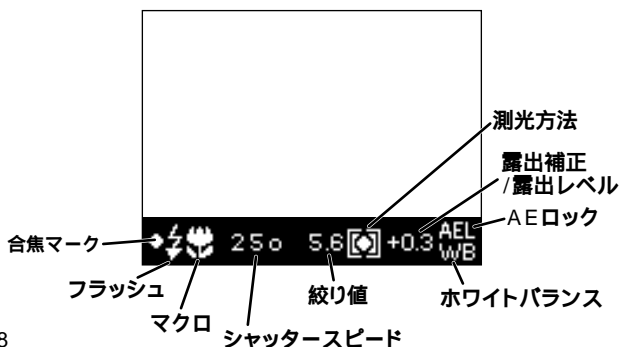
注意

- シャッターボタンを半押しする(軽く押す)と、ファインダ内表示が点灯します。指を離すと約8秒後に消えます。
- 電源を入れ、半押しするまでは、絞り値やシャッタースピード、露出レベルの値は「-」で表示されています。
  半押しして指をはなすと、約8秒後に「-」の表示にもどります。

●ファインダ

●液晶モニタ(撮影するときの表示)

下部に表示される情報は、INFOボタンを押すと、情報表示→撮影距離表示→表示なし、の順に切り替わります。

測光方法
露出補正/露出レベル
AEロック
合焦マーク
250 5.6 +0.3 AEL WB
フラッシュ
マクロ
シャッタースピード
絞り値
ホワイトバランス

●撮影距離→P.68
●再生するときの表示→P.138

このカメラの特長

高画質

約400万画素の高画質CCD
高性能4倍ズームレンズ、F2～2.4、EDレンズ、非球面レンズ、全面マルチコート
安定した色再現性
デジタルESPによるバランスのとれた評価測光と、スポット測光、中央重点測光
低輝度、低コントラストをカバーするデュアルオートフォーカスシステム

機動性

約60ミリ秒以下のレリーズタイムラグ*[1]、連写は秒間3コマで最大4コマまで可能
マクロ撮影時でも、ズーム全域で、最短20cm*[2]まで近接して撮影可能
5種類の電池に対応
アルミダイキャストの頑強なボディー
スマートメディア、コンパクトフラッシュ（TypeI、TypeII準拠。マイクロドライブ非対応）

*[1] フォーカスロック後、シャッターボタンを全押ししてから撮影までの時間　*[2] レンズ先端からの距離

操作性

設定をすばやく変えられるボタンレイアウト
リアルタイムにピントが確認できるフォーカシングスクリーン付きファインダ
フォーカスリングでピントの微調整ができるマニュアルフォーカス
シャッタースピード、絞り値などの撮影情報もファインダに表示
ウエストレベル対応の可動液晶モニタ

拡張性

充実したコンバージョンレンズシステム
大量枚数の撮影や長時間再生を可能にするパワーバッテリホルダキット
半押し（1st）、全押し（2nd）対応のリモートケーブル
市販フラッシュ用シンクロ接点、ホットシューによる汎用フラッシュシステム対応
かんたんにパソコンと接続できるUSB対応

取扱説明書の読みかた

この取扱説明書では、下図のように操作を説明します。

ここにあげたページは例です。これと同じページは、本文中にはありません。このページを見て操作しないでください。

安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

電池使用上のご注意

次のことをお守りいただかないと、電池の液漏れ、発熱、発火、破裂や感電、やけどの原因となります。

⚠危険

1. ニッケル水素電池は、専用のオリンパス製電池と充電器をご使用ください。
2. ＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
3. 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊やアルカリ液の飛散が生じ危険です。
4. ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
5. 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み等に直接接続しないでください。
6. 火中への投下や、加熱をしないでください。
7. 電池の液が目に入った場合は、失明の原因になります。こすらずにすぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。

⚠警告

1. 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
2. 電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがのおそれがあります。
   このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
   ショート、分解をしないでください。
   古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
   ＋－を逆にして装着・使用しないでください。
3. 外装シール（絶縁被膜）を、一部、または全部はがしている電池や、外装シールが破れている電池は絶対に使わないでください。このような電池を使うと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になります。市販されている電池の中にもこのようなものがありますが、絶対に使わないでください。
4. ニッケル水素電池の充電が所定充電時間を超えても完了しない場合は、充電を中止してください。
5. 液漏れしたり、変色、変形その他異常を見つけたときは使用しないでください。
6. 電池を誤って飲まないよう乳幼児の手の届かぬ場所で保管及び使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。
7. 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に障害を起こす原因になります。
8. カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。

⚠注意

1. オリンパス製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ「CAMEDIA（キャメディア）」専用です。他の機器に使用しないでください。
2. 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。
3. 乾電池と充電式電池、および容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
4. 充電式電池は必ず4本（機種によっては2本）同時に充電してご使用ください。
5. 充電式電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。

⚠危険

6. 長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ、発熱により、火災やけがの原因になります。
7. 液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店またはオリンパスサービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
8. 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など高温の場所で使用・放置しないでください。
9. 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。

- 電池をはずした状態で、カメラ内部をさわらないでください。
- 汗や油汚れは接続不良の原因となります。汚れは乾いた布でしっかりと拭き取ってください。

  電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使うときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使ってください。
- アルカリ電池は、電池の銘柄、製造日からの保証期間、使用温度によって内部抵抗、容量に差があるので、ニッケル水素電池やリチウム電池に比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温では使えません。
- ニッケル水素電池は充電できますが、化学反応によりエネルギーを供給するため特性は徐々に劣化します。充電回数は約３００回です。（使用条件により変動します）
- ニッケル水素電池、ニッカド電池を使うときは、必ず指定された充電器で4本すべての電池を同時にかつ完全に充電してからお使いください。

  購入したてや、未使用のまま1か月以上たったニッケル水素電池は、電池特性により完全に充電できないことがありますが、充放電を繰り返すうちに回復します。
- ニッケル水素電池、ニッカド電池を使うときは、電池、充電器など説明書をよく読んで、正しくお使いください。

その他取り扱い上のご注意

⚠警告

1．人（とくに乳幼児）の近くでフラッシュを発光しないこと

フラッシュを人に向けて至近距離で発光しないでください。目に近づけて発光すると、視力に回復不可能な傷害をきたすおそれがあります。とくに乳幼児に対して1m以内の距離で発光しないでください。

2．ファインダで太陽や強い光を見ないこと

日光や強い光に向けてこの製品を使わないでください。目に回復不可能な傷害をきたすおそれがあります。

3．可燃性ガスや爆発性ガスがあるおそれがあるところでは使わないこと

可燃性ガスや爆発性ガス等が大気中に存在するおそれのある場所で使わないでください。引火、爆発の原因になります。

4．幼児、子どもの手の届くところに放置しないこと

この製品を幼児、子どもの手の届く範囲に放置しないでください。以下のような事故が発生するおそれがあります。

誤ってストラップを首に巻き付け、窒息する。

電池や小さな付属品を飲み込む。（万一飲み込んだら、すぐに医師に相談してください）

目の前でフラッシュが発光し、視力に回復不可能な程の傷害を起こす。

カメラの動作部でけがをする。

5．湿気やほこりの多い場所に保管しないこと

湿気やほこりの多い場所にカメラを保管しないでください。火災や感電の原因になります。

6．フラッシュを手で覆って発光しないこと、連続発光後はフラッシュに触れないこと

フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。また、連続発光後、発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。

7．水に落としたり、内部に水が入ったとき

万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、すぐに電池を抜き、販売店またはオリンパスサービスステーションに相談してください。火災や感電の原因になります。

⚠注意

1．異臭、異常音がする、煙が出るなどの異常が起きたら

やけどに注意しながらすぐに電池を取りはずし、最寄りのサービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因になります。

2．この製品の分解、改造はしないでください。

電池の発熱や感電やけが、周囲が汚れる原因になります。

3．濡れた手で操作しないでください。

感電の危険があります。

4．異常に温度が高くなるところには置かないでください。

部品が劣化したり、火災の原因になることがあります。

5．カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っ掛かったりしないように注意してください。

けがや事故の原因になることがあります。

お取り扱いについて

●この製品には精密な電子部品が組み込まれています。次のような場所で、この製品を使用または保管した場合、動作不良や故障の原因となりますので絶対に避けてください。

・直射日光下や夏の海岸など
・高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
・砂、ほこり、ちりの多い場所
・火気のある場所
・冷暖房器、加湿器のそば
・水に漏れやすい場所
・振動のある場所
・自動車の中

●レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。CCDの褪色・焼きつきを起こすことがあります。
●カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
●電気接点部には触れないでください。
●三脚に取り付けるとき、カメラを回して取り付けないでください。
●別売のコンバージョンレンズを使うときは、ゆるみのないようにしっかりとレンズに固定してご使用ください。
●レンズに無理な力を加えないでください。
●海外では、地域によってビデオ出力や充電器(別売)のケーブルなどが使えないことがあります。

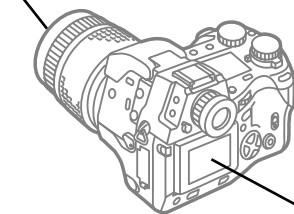
液晶モニタとコントロールパネルと、それらのバックライトについて

●コントロールパネル、液晶モニタのバックライトの蛍光管には寿命があります。画面が暗くなったり、ちらつき始めたら当社サービスステーションにお問い合わせください。(保証期間外の修理は有料になります)
●バックライトは、低温になると点灯に時間がかかったり、変色したりすることがあります。寒冷地で使うときは、温めながらお使いください。常温に戻ると回復します。

このカメラの液晶モニタは精密度の高い技術で作られていますが、いつも点灯する画素や点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度によって、色や明るさにむらが生じることがあります。これらは、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。

お手入れと保管

お手入れ

レンズ
レンズの表面のほこりは、市販のブロワーブラシか柔らかい刷毛で取り除いてください。汚れがひどいときは、カメラ用のレンズクリーニングペーパーやレンズクリーニングクロスなどで、レンズに傷をつけないように拭き取ってください。

液晶モニタ
乾いたきれいな布などを使って拭いてください。

保管

●表面に水分がついていない状態で保管してください。

●防虫剤は使わないでください。

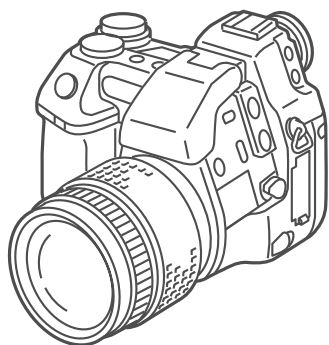
●長時間使わないときは、電池をはずしてください。ただし、1か月以上電池をはずしたままにすると、日付が出荷時の設定に戻ります。日付の設定をしなおしてから使ってください。

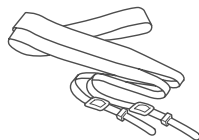
●長時間使わないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前に動作の点検をすることをおすすめします。

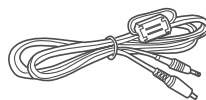
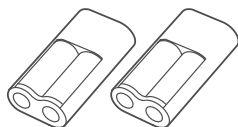
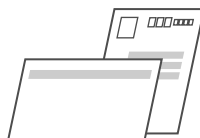
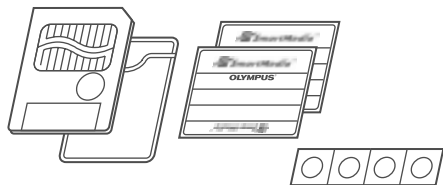
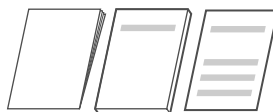
準備をしましょう

はじめて使うときは、まず、箱の中身を確認し、ストラップを取り付け、電池を入れましょう。
この章では、付属している電池以外の電池の入れかたや、ACアダプタ（別売）の使いかたも説明しています。

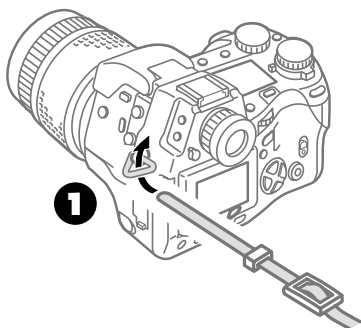
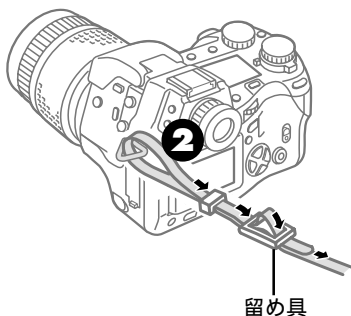
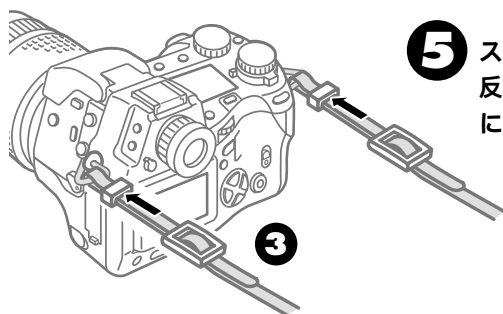
箱の中を確認する

付属品がそろっていることを確認してください。万一、付属品が不足していたり、破損しているときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ本体

レンズキャップ

ストラップ

レンズフード

ビデオケーブル

リチウム電池パック CR-V3（2本）
（当社製 LB-01）

愛用者登録ハガキ
保証書

8MBスマートメディア（1枚）
スマートメディア用静電気防止ケース
スマートメディア用ラベル（2枚）
スマートメディア用ライトプロテクトシール（4枚）

使い方早わかりガイド
取扱説明書（本書）
スマートメディア取扱説明書

ストラップを取り付ける

カメラ本体にストラップを取り付けます。

1. ストラップの端をカメラ本体のストラップ取付け部に通します。
2. 図の矢印にしたがって、ストラップの端を留め具に通します。
3. 留め具をストラップ取付金具側に寄せます。
4. ピンと引いて、抜けないことを確認します。
5. ストラップの反対側の端を、カメラ本体の反対側のストラップ取付け部に、同じように取り付けます。

注意

ストラップは上の図にしたがって正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けかたによってストラップがはずれ、本体を落とすなどした場合、損害など一切の責任は負いかねますのでご了承ください。

電池を入れる、家庭用電源につなぐ

次の5種類の電池を使うことができます。また、家庭用電源(AC-100V)を使うこともできます。家庭用電源を使うときは、専用ACアダプタ(別売)が必要です。

電池の種類	セットする本数	充電
リチウム電池パック CR-V3(付属しています)	2本	不可
単3ニッケル水素(Ni-MH)電池(別売)	4本	可
単3アルカリ電池	4本	不可
単3ニッカド(Ni-Cd)電池	4本	可
リチウムポリマ電池(別売)(パワーバッテリホルダも必要)	1セット	可

異なる種類の電池を混ぜて使わないでください。
単3マンガン電池、単3リチウム電池は使えません。
単3アルカリ電池は、電池の銘柄、製造日からの保証期間、使用温度(特に低温)によって性能のバラツキが大きく、電池寿命(撮影枚数)が極端に短い場合があります。単3ニッケル水素電池やリチウム電池パック、リチウムポリマ電池のご使用をおすすめします。

電池寿命の目安

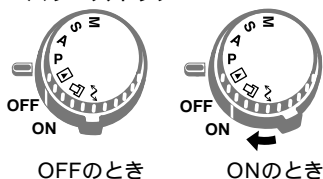
電池の寿命は、電池の種類、メーカー、カメラの使用条件などによって異なります。下表の数値は参考値であり、その性能を保証するものではありません。

電池の種類	撮影できる枚数*1
リチウム電池パック CR-V3	約500枚
単3ニッケル水素(Ni-MH)電池(B-01E/B-03NH16)	約200枚

以下の条件では、撮影をしなくても電力を消費するので、撮影できる枚数が減少することがあります。
- ・シャッター半押しやフォーカスリングでピント合わせ動作をくり返す。
- ・ズーム動作をくり返す。
- ・液晶モニタを点灯し続ける。
- ・パソコンとの接続時。

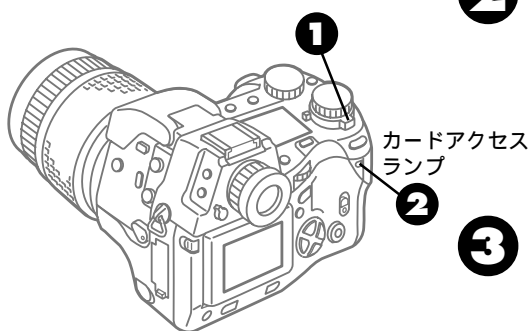
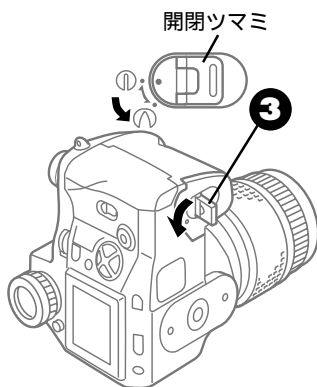
*1撮影できる枚数の試験条件
2枚連続撮影〜10分放置のくり返し。(常温25°C)フラッシュ発光50%、各撮影につきズーム1往復。(再生、パソコン接続なし)

●リチウム電池パック CR-V3（付属）

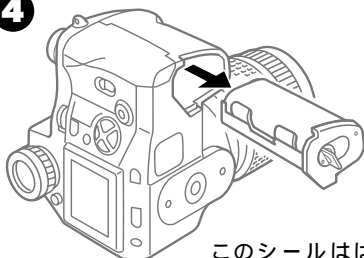
リチウム電池パック CR-V3を2本セットします

1 パワースイッチの白い線がOFFに合っていることを確認します。

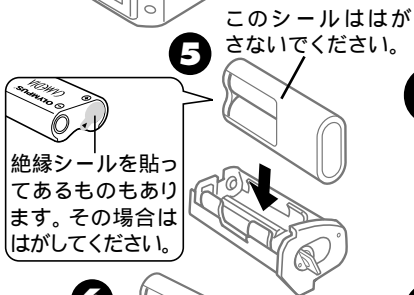
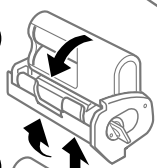
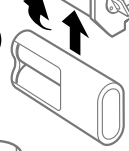
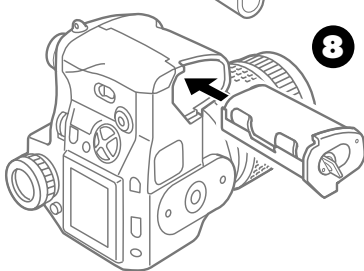
ONに合っているときは、OFFにしてください。

2 カードアクセスランプが消えていることを確認します。

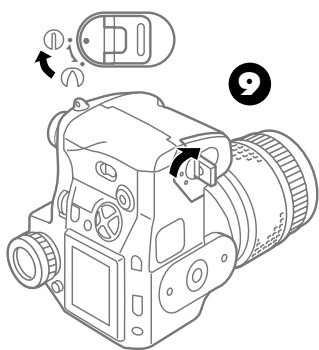
点滅しているときは、消えるまで待ってください。

3 バッテリホルダの開閉ツマミを起こして、図の矢印にしたがって に合うまで回します。

注意

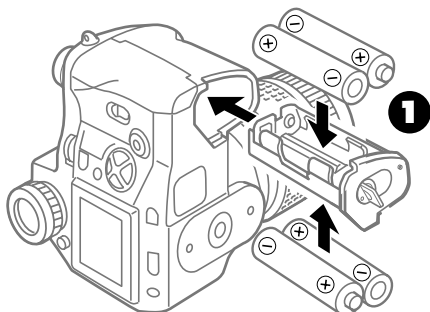
パワースイッチがＯＮになっているときにバッテリホルダを取り出すと、設定内容や日時がリセットされたり、撮影した画像が記録されなかったり、記録済の内容が破損されるおそれがあります。
OFFになっていることを確認してください。

パワースイッチ

4 バッテリホルダを取り出します。

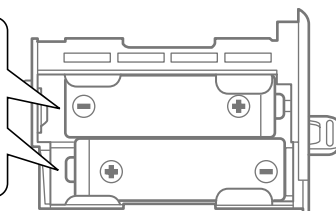
5 電池を図のように立ててバッテリホルダに入れます。

6 電池を、矢印の向きに倒して、カチッと音がするまで押します。
電池を逆向きに入れると途中までしか倒せないので、そのときは、取り出して正しい向きに入れなおしてください。

7 同じようにして、バッテリホルダの反対側に、もうひとつの電池を入れます。

8 バッテリホルダをカメラに戻します。

9 バッテリホルダを軽く押し込みながら、開閉ツマミを ⊖ に合うよう回し、倒します。

次は、「使ってみましょう」(→P.29)へ進み、撮影してみましょう。

●単3ニッケル水素電池(Ni-MH)(別売)、単3アルカリ電池(LR-6)、単3ニッカド電池(Ni-Cd)

必ず、同じ種類の電池を4本入れてください。

ニッケル水素電池、ニッカド電池は、カメラに入れる前に充電しておきます。

リチウム電池パック CR-V3（→P.23）と同じ手順でバッテリホルダに電池を入れて、カメラに入れます。

（→P.23）

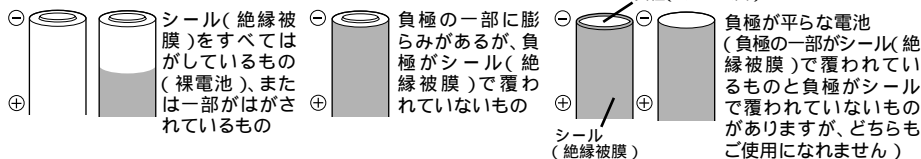
電池をバッテリホルダに入れるときは、電池の向きに注意してください。

⚠警告

外装シール（絶縁被膜）を、一部、または全部はがしている電池や、外装シールが破れている電池は絶対に使わないでください。このような電池を使うと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になります。市販されている電池の中にもこのようなものがありますが、絶対に使わないでください。

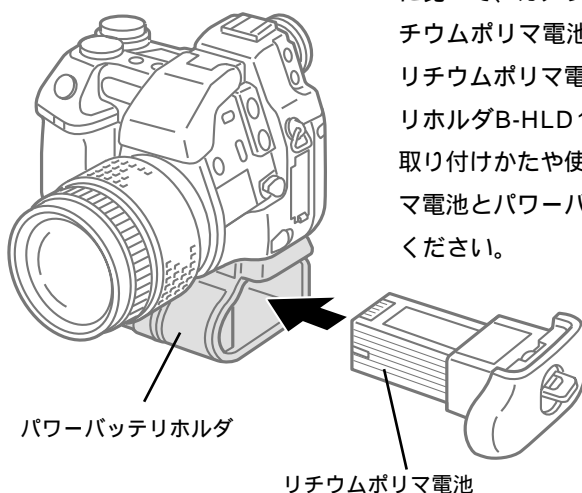
つぎの形状の電池は使えません。

シール（絶縁被膜）をすべてはがしているもの（裸電池）、または一部がはがされているもの

負極の一部に膨らみがあるが、負極がシール（絶縁被膜）で覆われていないもの

負極が平らな電池（負極の一部がシール（絶縁被膜）で覆われているものと負極がシールで覆われていないものがありますが、どちらもご使用になれません）

●リチウムポリマ電池B-１０LPB（別売）

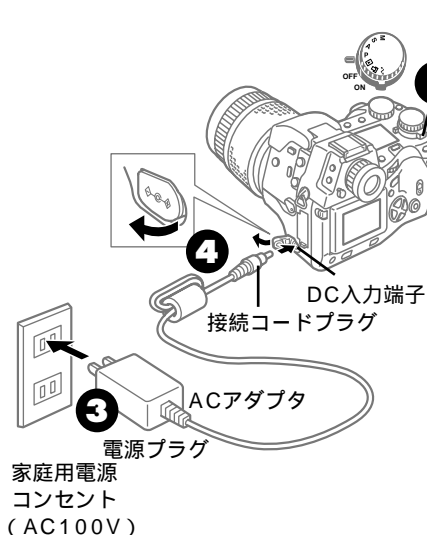
リチウムポリマ電池（別売）を使用すると、他の電池に比べて、カメラを長時間使うことができます。リチウムポリマ電池は充電可能です。
リチウムポリマ電池を使うためには、パワーバッテリホルダB-HLD１０（別売）が必要です。
取り付けかたや使いかたについては、リチウムポリマ電池とパワーバッテリホルダの取扱説明書をご覧ください。

パワーバッテリホルダ

リチウムポリマ電池

電池を入れたまま専用ACアダプタを接続する場合のご注意

通常、専用ACアダプタはカメラの電池よりも電圧が高いため、専用ACアダプタをカメラに接続すると、カメラは、専用ACアダプタから電力を供給され電池を消耗することはありません。
リチウムポリマ電池は専用ACアダプタよりも電圧が高いため、専用ACアダプタをカメラに接続しても、リチウムポリマ電池から電力を供給されてしまいます。リチウムポリマ電池使用時に、専用ACアダプタを接続するときは、電池の消耗を防ぐためにリチウムポリマ電池を抜いてお使いください。

●専用ACアダプタ(別売)を使って家庭用電源につなぐ

別売の専用ACアダプタ(C-7AC)を使って、家庭用電源(AC 100V)を利用できます。

1. **パワースイッチの白い線がOFFに合っていることを確認します。**
   ONに合っているときは、OFFにしてください。
2. **カードアクセスランプが消えていることを確認します。**
3. **ACアダプタの電源プラグを家庭用電源コンセントに差し込みます。**
4. **カメラの左側面の下部にある⊖-●-⊕ マークのフタを開け、DC入力端子に接続コードプラグを差し込みます。**
   ACアダプタは、長時間接続すると少し熱を持ちますが、故障ではありません。

⚠警告

●ACアダプタの種類
専用のACアダプタ(C-7AC、EIA規格・極性統一型プラグ付)以外のACアダプタは絶対に使わないでください。カメラ本体や電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。**専用以外のACアダプタの使用によって生じた障害は保証できません**ので、あらかじめご了承ください。

●電源
必ずAC100Vを使用してください。

●異常が起きたとき
万一、ACアダプタやコードが熱くなっていたり、焦げ臭かったり、煙が出たりするなど、異常が発生したら、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店か当社サービスステーションに相談してください。
ACアダプタのコードに、傷、断線があるときやプラグに接触不良があるときは、すぐにお買い上げの販売店に相談してください。

●接続と取りはずし
ACアダプタの接続コードの抜き差しは、カメラの電源が切れていることを確認してから行ってください。濡れた手で抜き差ししないでください。
接続するときは、最初に電源プラグをコンセントに差し込み、次に接続コードプラグをカメラに差し込み、電源を入れてください。電源プラグは完全に差し込んだ状態で使ってください。
取りはずすときは、まず、電源を切り、接続コードプラグをカメラから抜き、次に電源プラグをコンセントから抜いてください。必ずACアダプタ本体を持って抜いてください。コードを無理に引っ張ったり、折り曲げたり、ねじったり、継ぎ足したりしないでください。
使わないときは、必ず電源プラグをコンセントからはずしてください。

●海外での使用
専用ACアダプタ(C-7AC)は日本国内用です。海外では使用できません。

使ってみましょう
（撮影と再生の基本）

ここでは、カードを入れて、撮影し、再生するまでの操作を順番に説明します。
基本的な方法だけを説明しますので、高度な撮りかたについては、後の章をご覧ください。

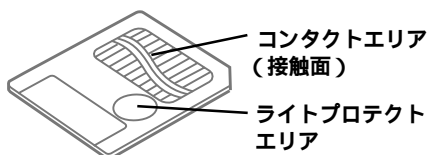
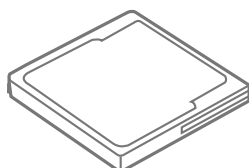
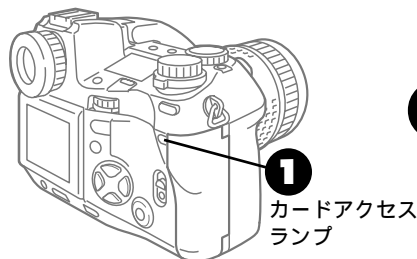
カードを入れる

スマートメディア、コンパクトフラッシュは、撮影した画像を記録するための、フィルムにあたるものです。この取扱説明書では、これらを「カード」と呼びます。

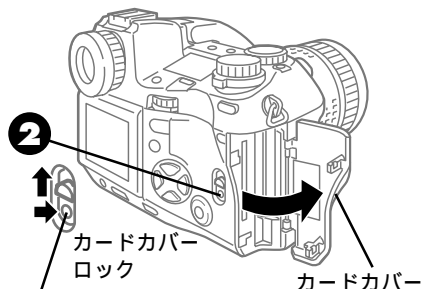
スマートメディアとコンパクトフラッシュは、両方セットすることも、どちらか片方だけセットすることもできます。どちらかを入れないと撮影できません。

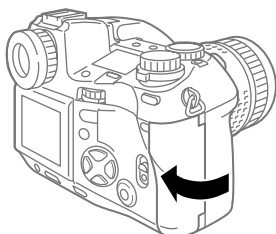
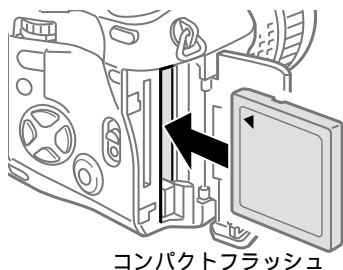
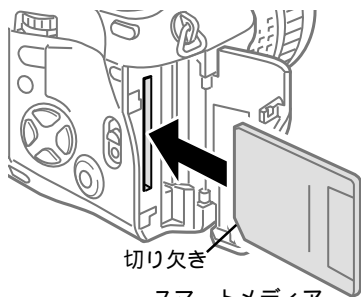
カードを持つときは、コンタクトエリア（接触面）に触れないように注意してください。

また、カードは精密機器なので、無理な力や衝撃を与えないでください。

市販のスマートメディアやコンパクトフラッシュを使うときは、必ずこのカメラでフォーマットしてください。（→P.152）

スマートメディア（SM）（付属）
オリンパス製か市販の3V（3.3V）カードを使えます。5Vカードは使えません。

コンパクトフラッシュ（CF）（別売）
「LEXAR MEDIA」コンパクトフラッシュをお使いいただくと、パソコンへの画像の取り込みも専用接続ケーブルで簡単にできます。

1 カードアクセスランプが消えていることを確認します。

点滅しているときは、消えるまで待ってください。

カードアクセスランプが点滅しているときにカードカバーを開けると、カードやカードに記録した画像が壊れることがあります。

2 カードカバーロックのボタンを押しながら、上にずらします。

カードカバーが開きます。

3 カードを入れます。

●スマートメディア

コンタクトエリア(接触面)に触れないように、切り欠きが下になるように持ち、手前の挿入口に差し込みます。(スマートメディアの端が挿入口から2mm程度見える状態になるまで差し込みます。)
奥側の挿入口に差し込まないように注意してください。端子を傷めることがあります。
(取り出しかたは、左下参照)

●コンパクトフラッシュ

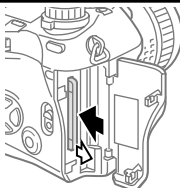
矢印が描かれた面を手前にして、奥の挿入口に、軽く突き当たるまで差し込みます。
まっすぐに差し込んでください。無理に押し込むとコンパクトフラッシュが壊れることがあります。
(取り出しかたは、左下参照)

4 カードカバーを、カチッとロックがかかるまで閉じます。

スマートメディアの取り出しかた

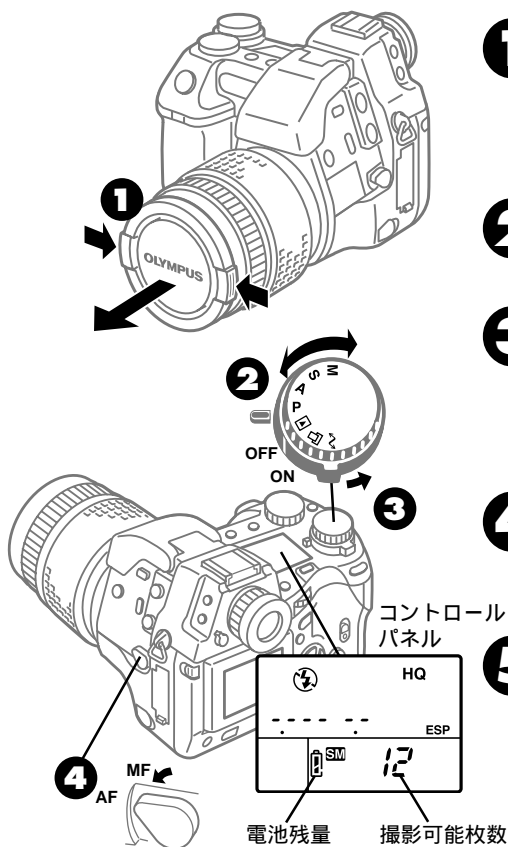
スマートメディアを一度奥に押し込んでからはなすと、スマートメディアが手前に出て、取り出せるようになります。

カードを両方入れたとき

スマートメディアとコンパクトフラッシュを両方入れたときは、どちらを使うかを指定してください。(→P.121)

コンパクトフラッシュの取り出しかた

イジェクトボタンを起こして押すとコンパクトフラッシュが出てきます。
イジェクトボタンを強く押すとコンパクトフラッシュが勢い良く飛び出すことがあるので注意してください。

モードを選び、電源を入れる

カメラの電源を入れましょう。

1. **レンズキャップがついているときは、はずします。**
   図の矢印のように、両側のつまみを指で押してはずします。

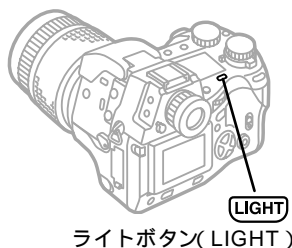
2. **モードダイヤルを回して、P（プログラムモード）を ▭ に合わせます。**

3. **パワースイッチを回して、白い線をONに合わせます。**
   電源が入り、コントロールパネルに電池残量や撮影可能枚数が表示されます。

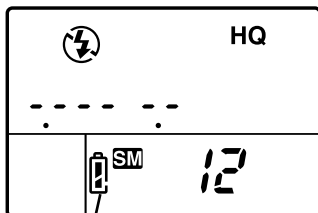
4. **フォーカスモードスイッチを、左図の矢印の方向に回して、AF（オートフォーカス）に合わせます。**

5. **はじめて使うときは、日付と時刻を設定します。**
   （日付、時刻の設定方法→P.126）

暗くてコントロールパネルが見えにくいとき

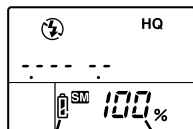
LIGHT（ライトボタン）を押してください。8秒間、コントロールパネルのバックライトがつきます。

ライトボタン（LIGHT）

電池残量を確認する

コントロールパネル

カメラの電源を入れると、電池の残量は次の表のように表示されます。電池交換の目安にしてください。
残量が少ないときは、新しい電池に交換してください。ニッケル水素電池やニッカド電池、リチウムポリマ電池は充電してください。
長期の旅行や大切な行事の撮影の前には、必ず電池の残量を確認しておきましょう。

電池残量の表示		表示の意味と対処
	が点灯する。 電源を入れたときに、一定の時間ついたあと、自動的に消えます。	電池の残量は十分です。撮影できます。
	が点滅する。（コントロールパネルの他の表示は点灯）	もうすぐ電池がなくなります。新しい電池と交換してください。 撮影はできますが、画像を記録できない場合があります。
	が点滅する。（コントロールパネルの他の表示は消灯） 一定の時間点灯したあと、コントロールパネルの表示が全部消えます。	電池の残量がなくなりました。新しい電池と交換してください。

リチウムポリマ電池のとき

リチウムポリマ電池を使っているときは、電池残量が%でも表示されます。

電池残量が%で表示されます。パワースイッチをONにしてから3秒間だけ表示されます。

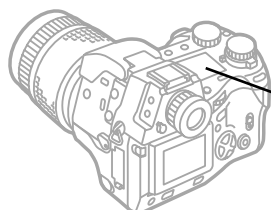
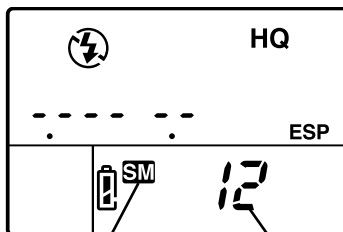
電源を切っていないのに、コントロールパネルの表示が消えたとき

撮影できる状態で何も操作しないまま一定の時間が過ぎると、電池の消耗を抑えるためにコントロールパネルの表示が消えます。（→P.128）シャッターボタンの半押しなどのボタン操作をすると、通常の状態に戻ります。コントロールパネルの表示が消えたまま1時間たつと、自動的に電源が切れます。パワースイッチをOFFにしてからONに戻すと、再び電源が入ります。

注意

・カードアクセスランプの点滅中にズームリングやフォーカスリングを操作すると、電池残量表示が点滅することがあります。電源を入れなおすと正しい残量を表示します。
・電池の特性によって、低温時は性能が低下して電池の寿命が通常より短くなることがあります。

撮影可能枚数を確認する

電源を入れると、あと何枚撮れるか(撮影可能枚数)がコントロールパネルに表示されます。「12」と表示されていれば、あと約12枚撮ることができます。

カードに記録できる画像の枚数(参考値)

画質	記録画素数（出荷時設定）	圧縮率（出荷時設定）	ファイルサイズ（参考値）	カードに記録できる枚数（参考値）	
				8MB	32MB
TIFF	2240×1680ピクセル（FULL）	1/1	約11.3MB	0枚	約2枚
SHQ	2240×1680ピクセル（FULL）	1/2.7	約2.8MB	約2枚	約11枚
HQ	2240×1680ピクセル（FULL）	1/8	約950KB	約8枚	約34枚
SQ	1280×960ピクセル（SXGA）	1/8	約300KB	約27枚	約110枚

コントロールパネルでTIFFが点滅しているときはRAWデータ撮影モードです。（→P.131）
このときのファイルサイズは約7.6MBになります。カードに記録できる枚数は約4枚(32MBカード使用時)です。

撮影した画像をパソコンで使うとき

画像のファイル名の付けかたを選んでください。（→P.154）

その他のカードにおける撮影可能枚数の目安

カードの容量をファイルサイズで割るとおおよその撮影可能枚数を計算することができます。(ただし、デジタルカメラは、圧縮率や、メモリ管理方式等による不定要因がたくさんあるため厳密な枚数予測はできません。あくまでも目安であることをご了承ください)

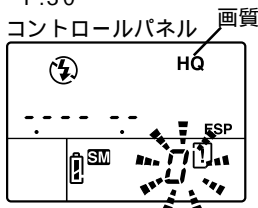
注意

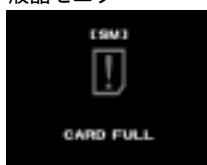
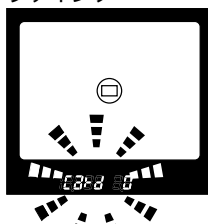
- 撮影可能枚数が999枚を越えているときは、「999」と表示されます。
- 撮影可能枚数は、画質モードを変更したり、プリント予約を行ったりすると、変化します。
- 被写体によってデータ量が異なるため、表示されている撮影可能枚数よりも多く撮影できることがあります。また、撮影後に撮影可能枚数が減らなかったり、1コマ消去しても撮影可能枚数が増えないこともあります。
- スマートメディアとコンパクトフラッシュは、同じ容量でも記録できる枚数が異なることがあります。また、コンパクトフラッシュは、表記されている容量が同じでも、実際の容量が多少違うことがあるので、記録できる枚数も異なることがあります。

撮影可能枚数が表示されないとき

●コントロールパネルに「0」と!が点滅表示されたとき

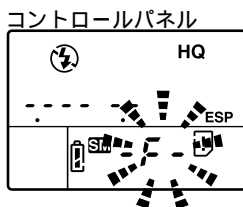
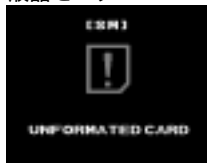
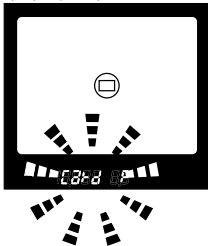
カードに空きがありません。次のいずれかの方法で、撮影できるようにしてください。

- スマートメディアとコンパクトフラッシュの両方を入れているときは、記録するカードを切り替える。→P.121
- カードに保存されている不要な画像を消す。→P.51
- よりファイルサイズが小さい画質に変える。→P.103
- セットしているカードを、新しいカードや空きがあるカードと交換する。→P.30

コントロールパネル　画質

液晶モニタ

ファインダ

●コントロールパネルに「-F-」と!が点滅表示されたとき

カードがフォーマットされていないか、カードが壊れています。次のいずれかの方法で撮影できるようにしてください。

- フォーマットする。
  フォーマットすると、そのカードに記録されている画像などがあった場合、すべて消去されます。フォーマットするには、十字ボタンの◁を押し、OKボタンを押します。しばらくすると、「NO PICTURE」と表示され、撮影できるようになります。
- セットしているカードを、他のカードと交換する。→P.30
- スマートメディアとコンパクトフラッシュを両方入れているときは、記録するカードを切り替える。→P.121

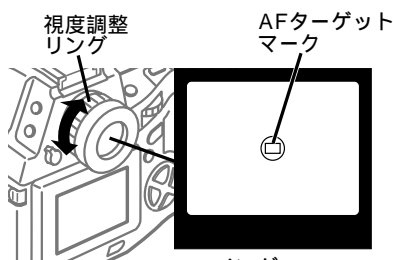
コントロールパネル

液晶モニタ

ファインダ

●上記以外で!が点滅表示されたとき

「エラー表示一覧」を見て、対処してください。→P.190

カメラを構える

カメラを被写体(撮ろうとする人や物や風景)に向けて、構えてみましょう。

●ファインダをのぞいて撮る方法

カメラの構えかた

よこ位置

たて位置

1 ファインダを自分の視度に合わせます。

ファインダをのぞいて、AFターゲットマークを見てください。

AFターゲットマークが鮮明に見えないときは、視度調整リングを図のように回して、鮮明に見えるようにします。

2 カメラを被写体に向けて構えます。

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしめます。

レンズ、フラッシュ、AF窓に、指やストラップなどがかからないように注意してください。

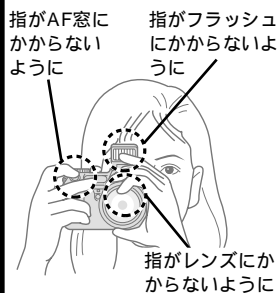
3 構図を決めます。

ファインダに見えている範囲より、やや広い範囲が撮影されます(視野率約95%)。

悪い例

指がAF窓にかからないように

指がフラッシュにかからないように

指がレンズにかからないように

ファインダから被写体が見えないとき

●レンズキャップがついていませんか?

はずしてください。

●アイピースシャッターが閉じていませんか?

ファインダの左下のアイピースシャッターレバー(→P.6)を上げます。

ファインダから見える被写体が暗いとき

●電源は入っていますか?

パワースイッチの白い線を、一度OFFに合わせてから、ONに合わせてください。

●液晶モニタを見て撮る方法

1 ◎(液晶モニタボタン)を押します。
液晶モニタにファインダと同じ映像が表示されます。(ただし、ファインダをのぞいて撮る方法よりも電池を消耗します)

2 ファインダから光が入らないように、アイピースシャッターレバーを下げます。

3 液晶モニタロック解除ボタンを◁の方向に押します。
液晶モニタの上部が1cmほど出てきます。

4 液晶モニタを上に向けたいときは、下部を持って引き出します。

5 カメラを被写体に向けて構えます。
カメラが動かないように構えます。
レンズ、フラッシュ、ＡＦ窓に指やストラップなどがかからないように注意してください。

6 液晶モニタを見て構図を決めます。
液晶モニタに見えている範囲が撮影されます。
❸の状態でも撮影できます。ハイアングルでの撮影に利用できます。

液晶モニタに被写体が映らないとき

●◎(液晶モニタボタン)を押しましたか?
◎ボタンを押してください。

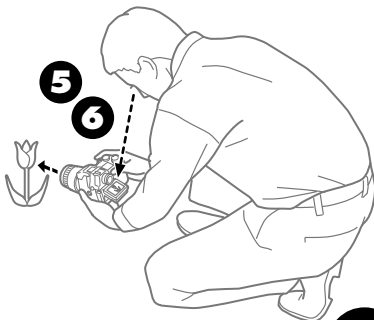
●レンズキャップがついていませんか?
はずしてください。

●スリープ状態になっていませんか?
電源を入れたままでカメラを放置していると電源が切れた状態(スリープ状態)になります。シャッターボタンをそっと途中まで押してみてください。

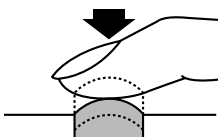
●電源は入っていますか?
パワースイッチの白い線をONに合わせてください。

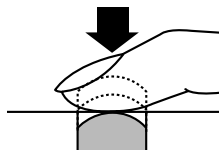
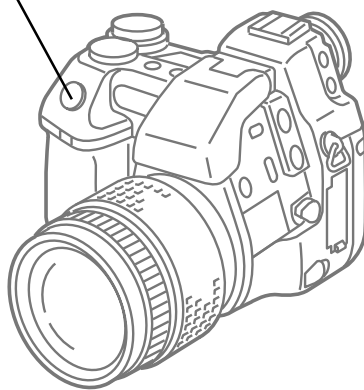
●モードダイヤルは撮影モード(P、A、S、M)に合っていますか?
撮影モード(P、A、S、M)のいずれかに合わせてください。

注意

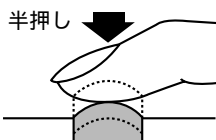
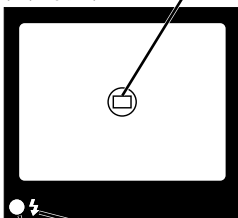
液晶モニタを見て撮影するときは、必ずアイピースシャッターレバーを下げてください。ファインダから光が入って画像が白っぽくなることがあります。

シャッターボタンを押す

シャッターボタンは、指先ではなく、指の腹で静かに押してください。強く押すと、カメラが動き、画像がぶれる原因になります。指だけを動かすのではなく、カメラを握りこむようにするのも一つの方法です。
シャッターボタンを押した状態には、「半押し」と「全押し」の2種類があります。

半押し（軽く途中まで押した状態）

この状態では撮影されません。
ピント合わせと測光が行われ、ピントが合うと、ファインダ内で●が点灯します。
半押ししている間はピントと露出が固定されます。（AE/AFロック）

全押し（半押しから最後まで押し切った状態）

シャッターが切れ、撮影されます。

シャッターボタンを全押ししてから撮影開始までの時間について

シャッターボタンを全押ししてから実際に撮影が開始されるまでの時間は約60msecです。
ただし、液晶モニタにファインダの映像を表示させているときは、約100〜60msecの間で変化します。
また、フラッシュの使用時はフラッシュのプリ発光により約200msecの遅れが加わります。

●シャッター音の設定→P.122

ピントが合うと点灯し、ピピッと音がします。ピントが合わないと点滅します。
マニュアルフォーカス(MF)にしたときは、表示されません。

被写体が暗く、フラッシュが必要なときに点滅します。

カードアクセスランプ

フラッシュボタン

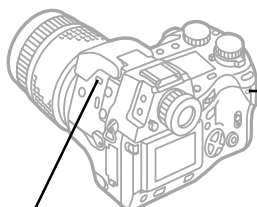
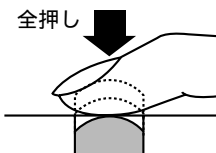
❶ シャッターボタンを半押しします。

ピントが合うと、ピピッと音がして、左図のように●が点灯します。
半押ししたまま、❷の操作に進んでください。

●が点滅するときは、ピントが合っていません。いったん、シャッターボタンから指をはなし、AFターゲットマークを合わせる位置を少し変えてから、もう一度❶の操作を行ってください。
⚡が点滅するときは、被写体が暗いのでフラッシュボタンを押して、フラッシュを起こしてください。

❷ シャッターボタンを全押しします。

撮影され、カードへの書き込みが始まります。書き込んでいる間は、カードアクセスランプが点滅します。

つづけて撮影したいときは、❶の操作からくり返してください。カードへの書き込み中でも、4枚まで続けて撮影できます。

半押ししないで一気に全押しする撮りかた

半押ししないで、一気に全押ししても、撮影できます。このときは、全押ししたときから実際に撮影されるまでに、ピント合わせのための時間がかかり、思ったタイミングで撮影できないことがあります。

撮影直後に▯が点灯したとき

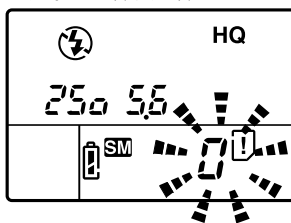
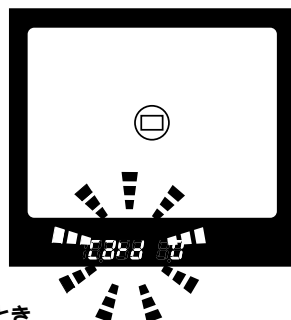
コントロールパネルに▯が点滅している場合、撮影直後に点灯に変わることがあります。正常に撮影されなかった可能性がありますので、新しい電池に交換して再生(P.46、137)し、撮影した画像が記録されていることを確認してください。

●ファインダにメッセージが表示される

ファインダに「Card 0」という表示が点滅しているとき

カードが画像でいっぱいになると、ファインダに「Card 0」と表示され、それ以上撮影できなくなります。
画像を消去してカードに空きができると撮影できるようになります。

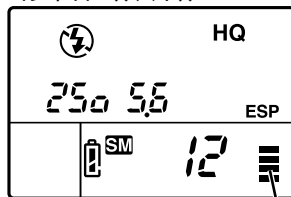
→「画像を1枚だけ消す(1コマ消去)」P.51
「パソコンに読み込む」P.167
「画像を全コマ消去する」P.150

コントロールパネル

ファインダ

ファインダに「Card」という表示が点滅しているとき

→「エラー表示一覧」P.190

●メモリゲージが4つ点灯しているとき

カードへの書き込み中です。メモリゲージが1つ消えると、撮影できるようになります。しばらくお待ちください。
カード(スマートメディア、コンパクトフラッシュ)の状態や画質モードの設定によって、カードへの書き込み時間は変わります。

コントロールパネル

メモリゲージ

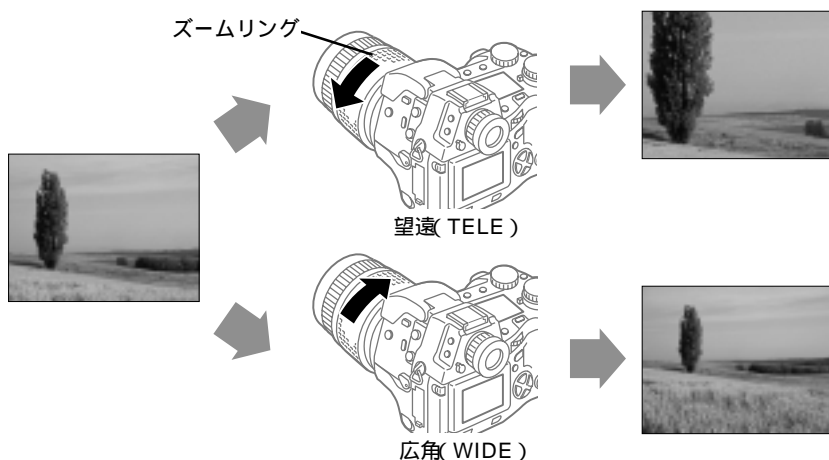
●ピントが合わない（ファインダ内の●が点滅する、撮った画像のピントが合っていない）

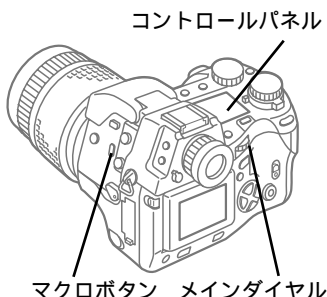
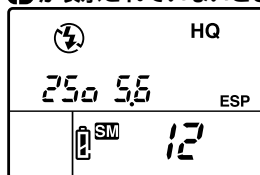
オートフォーカス（AF）に設定されていないときは、オートフォーカスに設定してください（→P.32）。シャッターボタンを半押しにするとほとんどの被写体に自動的にピントが合います。
しかし、ピント合わせが難しい被写体の場合は、ファインダ内で●が点滅し、ピントが合っていない画像になることがあります。
その場合は、次のどちらかの方法でピントを合わせてください。

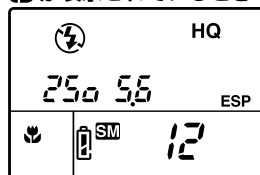
・●が点灯するように、AFターゲットマークを合わせる位置を少しずらして、もう一度シャッターボタンを半押ししなおす。
・マニュアルフォーカス（MF）にして手動でピントを合わせる。

●ピントの合わせかた→「撮影 距離/ピント」P.63
●マニュアルフォーカス→P.68

●拡大して撮影する（ズーム）

ズームリングを左に回すと被写体が拡大されます（望遠）。右に回すと広い範囲が写るようになります（広角）。

●60cmより近いものを撮影する（マクロ）

被写体が60cmより近くにあるときは、（マクロボタン）を押しながらメインダイヤルかサブダイヤルを回し、コントロールパネルにが表示された状態で、撮影します。
（はファインダにも表示されます）

が表示されていないとき

∞から60cmまでの被写体に自動的にピントが合います。

が表示されているとき

約60cmから20cm（レンズの先端からの距離）までの被写体に自動的にピントが合います。

撮影距離と撮影範囲

もっとも望遠にして20cmまで近づくと、ほぼ名刺大の範囲（約76mm×約57mm）を撮影できます。

ズーム	撮影距離	撮影範囲（参考値）
もっとも広角にしたとき（WIDE端）	60cm	629mm（横）× 465mm（縦）
	20cm	234mm（横）× 172mm（縦）
もっとも望遠にしたとき（TELE端）	60cm	176mm（横）× 132mm（縦）
	20cm	76mm（横）× 57mm（縦）

マクロエクステンションレンズ プロf＝35mm（MCON-35）を使えば12cmまで近づくことができ、もっとも望遠（TELE）にすると、49mm（横）×37mm（縦）の範囲を撮影できます。

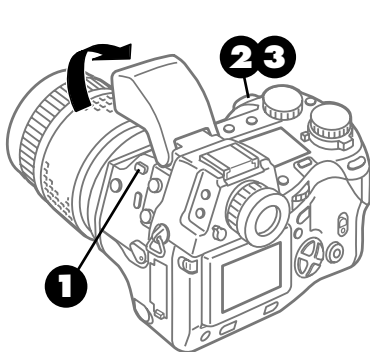
撮影距離とディストーション

画像はレンズによってわずかに歪んで撮影されます。これをディストーション（歪曲収差）といいます。広角にして被写体に近づくほどディストーションは大きくなります。

注意

カードアクセスランプの点滅中にズームリングやフォーカスリングを操作すると、電池残量の表示が点滅することがあります。電源を入れなおすと正しい残量を表示します。

フラッシュを使って撮影する

被写体が暗いと、シャッターボタンを半押ししたときに、ϟ（ファインダ内左下）が間欠的に点滅します。このようなときは、フラッシュを使って撮影してください。
また、フラッシュを使うと、逆光での撮影でも被写体を明るくすることができます。
フラッシュ充電中はϟが点滅し、充電が完了するとϟが点灯します。充電中は撮影できないので、ϟが点灯の状態になるまで待ってください。

1 ϟ（フラッシュボタン）を押します。
内蔵フラッシュがポップアップします。

2 シャッターボタンを半押しします。
ϟが点灯します。
フラッシュ充電中はϟが点滅し、充電が完了するとϟが点灯します。

3 シャッターボタンを全押しします。
被写体の明るさによって、フラッシュが発光し、撮影されます。

フラッシュが光らないとき

フラッシュが起き上がっていても、被写体が明るければフラッシュは発光しません。
●明るいときに発光させるには→P.56、86

注意

発光部の加熱と劣化を防ぐため、連続発光は30回までで中断し、10分以上休ませて、発光部を冷ましてください。また、発光部を汚したまま発光を続けると、発光部が劣化することがあるのでご注意ください。

●フラッシュで撮影できる距離

ISO	もっとも広角にしたとき（WIDE端）	もっとも望遠にしたとき（TELE端）
AUTO	**0.6〜8.9m**	**0.5〜7.4m**
80	0.6〜6.3m	0.5〜5.2m
160	0.9*1〜8.9m	0.7*2〜7.4m
320	1.3*1〜12.5m	1.0*2〜10.4m

*1 A（絞り優先モード）で絞りを6.3以上に絞れば、0.6mまで撮影できます。

*2 A（絞り優先モード）で絞りを6.3以上に絞れば、0.5mまで撮影できます。

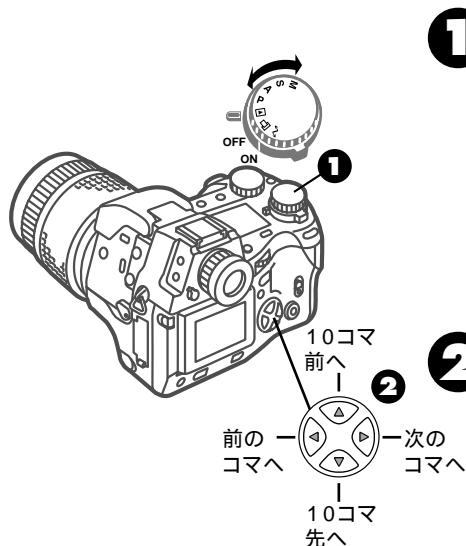
この範囲より近いと、全体に明るくなりすぎたり、部分的に影ができたり（けられ）します。
この範囲より遠いと、光が届かなくなり、全体に暗くなります。
感度（ISO値）を上げるとより遠くまで撮影できますが、上げるほど画像にノイズが発生しやすくなります。ISO（→P.83）がAUTOのときは、ISOが80から160まで自動的に変更されます。

●フラッシュのくわしい使いかた→「撮影 フラッシュ」P.85

注意

上の表は、レンズフードやコンバージョンレンズを取り付けていないときのものです。レンズフードやコンバージョンレンズを取り付けるとけられるので、内蔵フラッシュと併用しないでください。

撮った画像を見る（再生）

撮影した画像を液晶モニタで見てみましょう。
撮影した画像を1枚ずつ見ることができます。再生した画像を拡大したり、記録されている複数の画像をインデックス表示（一覧表示）にしてみることもできます。

1 モードダイヤルを（再生モード）に合わせます。

再生モードになり、最後に撮った画像が液晶モニタに表示されます。
モードダイヤルが、撮影モード（P、A、S、M）であれば、かわりに（液晶モニタボタン）をすばやく2回押しても再生モードにできます。

2 他の画像を表示するときは十字ボタンを使います。

◁：前のコマの画像を表示
▷：次のコマの画像を表示
△：10コマ前の画像を表示
▽：10コマ先の画像を表示

●1枚ずつ自動的に再生するには（スライドショー）→P.140

撮影したいときは（撮影モードに戻りたいとき）

●モードダイヤルが ▶（再生モード）のとき
シャッターボタンを押しても撮影できません。
モードダイヤルを、撮影モード（P、A、S、M）のどれかにしてください。

●モードダイヤルが撮影モード（P、A、S、M）のとき
そのままシャッターボタンを押しても撮影できます。
（液晶モニタボタン）を押すと、液晶の表示が消え撮影モードに戻ります。

再生モードに切り替わらないとき

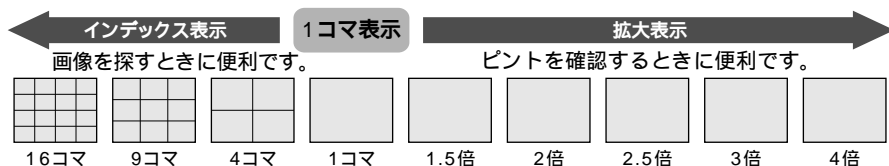
カードアクセスランプが点滅している間（カードへの書き込み中）は、モードダイヤルを ▶ に切り替えても、再生モードに切り替わりません。カードアクセスランプが消えると再生モードになります。

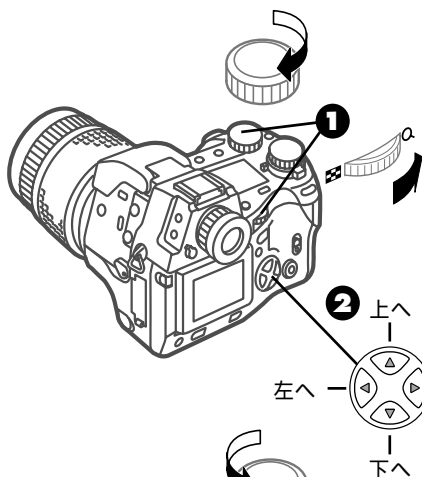
液晶モニタの表示が消えたとき（電源が切れたとき）

何も操作をしないで一定の時間（→P.128）が経過すると自動的に電源が切れます。シャッターボタンを半押しにするなど、何かボタン操作をすると再び電源が入ります。

注意

液晶モニタを強く押さないでください。画面ににじみが残って、画像が正しく表示されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。

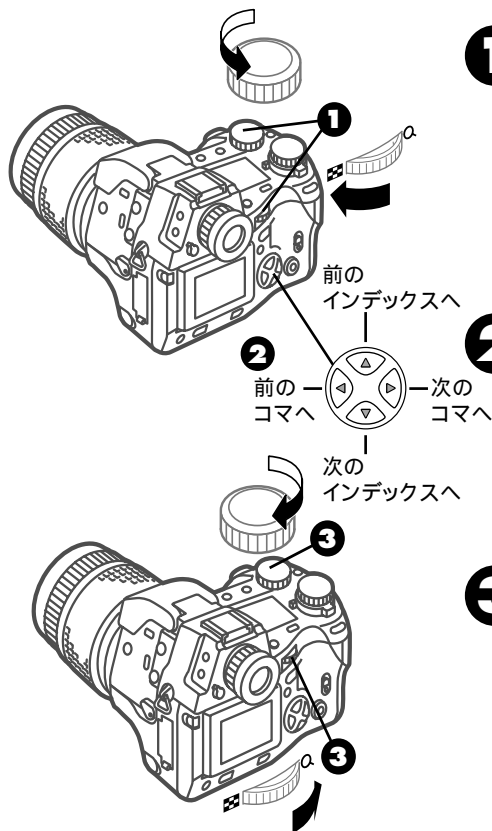
▶（再生モード）のときは、メインダイヤルまたはサブダイヤルを使って、表示している画像を拡大したり、複数の画像をインデックス表示（一覧表示）することができます。

●拡大表示

▶（再生モード）にして、メインダイヤルを🔍側に（またはサブダイヤルを図の方向に）回すと、表示されている画像が拡大されます。

1 **メインダイヤルを🔍側に（またはサブダイヤルを図のように）回します。**
画像が拡大して表示されます。

2 **画像の別の部分を表示するには、十字ボタンを使います。（スクロール）**
△：上へスクロール
▽：下へスクロール
◁：左へスクロール
▷：右へスクロール

3 **他の画像を表示するときは、等倍表示（1コマ表示）に戻るまで、メインダイヤルを⊞側に（またはサブダイヤルを図のように）回してから、十字ボタンで表示したい画像を選択します。**

●インデックス表示（一覧表示）

▶（再生モード）にして、メインダイヤルを▦側に（またはサブダイヤルを図の方向に）回すと、複数の画像を一覧表示することができます。

1 メインダイヤルを▦側に（またはサブダイヤルを図のように）回します。

液晶モニタの画面が分割されて、画像が4コマ表示され、選択されている画像が緑の選択枠で囲まれます。
さらに回すと、9コマ、16コマと表示される画像が増えます。

2 他の画像を表示するときや、他の画像を選択するときは、十字ボタンを使います。

△：前のインデックスを表示
▽：次のインデックスを表示
◁：前のコマの画像を選択
▷：次のコマの画像を選択

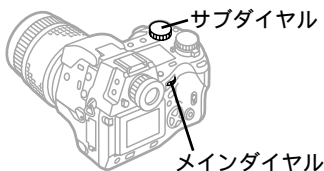
3 1コマ表示に戻すには、メインダイヤルを🔍側に（またはサブダイヤルを図のように）回します。

選択されていた画像が1コマ表示されます。

メインダイヤルとサブダイヤル

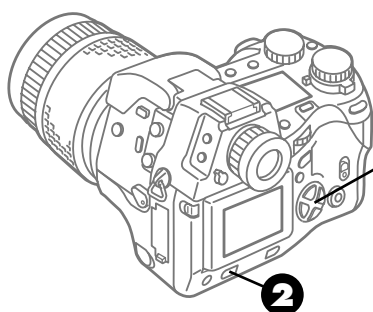
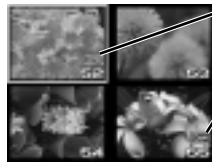
メインダイヤルとサブダイヤルはいつも同じ働きをします。使いやすいほうを使ってください。
ただし、モードダイヤルが**M**（マニュアルモード）のときだけは、メインダイヤルは絞り値、サブダイヤルはシャッタースピードの設定に使います。

サブダイヤル

メインダイヤル

リモコン（別売）による操作

リモコンRM-1（別売）でも、拡大表示、1コマ表示、インデックス表示の切り替えができます。リモコンのマニュアルを参照してください。

誤って消さないようにする（プロテクト）

残しておきたい画像を誤って消去しないように、プロテクト（消去禁止）をかけることができます。
プロテクトをかけた画像は、パソコンに取り込むと読み取り専用ファイル（リードオンリー）になります。

1 「撮った画像を見る（再生）」（→P.46）にしたがって、プロテクトをかけたい画像を表示します。
インデックス表示（一覧表示）しているときは、十字ボタンを押して、緑の選択枠をプロテクトしたい画像に移動します。

2 （プロテクトボタン）を押します。
プロテクトがかかると、画面にが表示されます。

プロテクトを解除するには

プロテクトをかけた画像を表示し、もう一度（プロテクトボタン）を押すとプロテクトが解除されます。

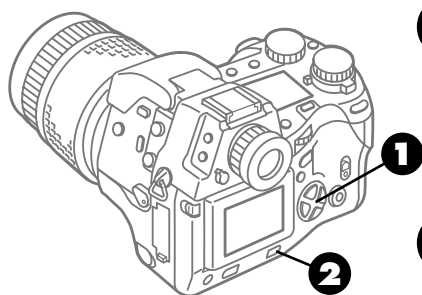
カードに記録したすべての画像を消えないようにしたいとき

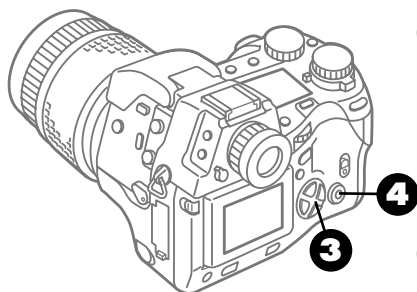
スマートメディアにライトプロテクトシールを貼ると、カードにプロテクトをかけることができます。くわしくは、スマートメディアの取扱説明書を参照してください。

注意

プロテクトをかけても、カードをフォーマットすると画像は消去されます。

画像を1枚だけ消す（1コマ消去）

カードに記録されている画像は、1枚ずつ消すことができます。画像を消してカードに空きができると撮影可能枚数が増えます。
DCF形式（このカメラの画像記録方式）でも、それ以外の形式でも消すことができます。

1 「撮った画像を見る（再生）」（→P.46）にしたがって消したい画像を表示します。
インデックス表示（一覧表示）しているときは、十字ボタンを押して、緑の選択枠を消したい画像に移動します。

2 （消去ボタン）を押します。
液晶モニタにYESとNOが表示されます。

3 十字ボタンの◁を押し、緑の選択枠をYESに移動します。
消去を中止するときは、NOに緑の選択枠がついた状態のまま、OKボタンを押すか、もう一度ボタンを押します。

4 OKボタンを押します。
カードアクセスランプが点滅し、画像が消去されます。

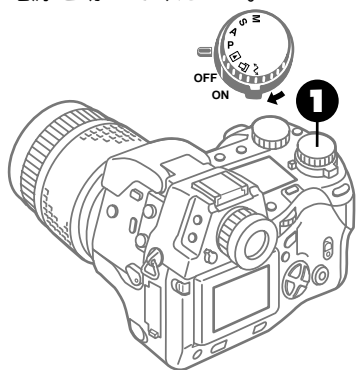
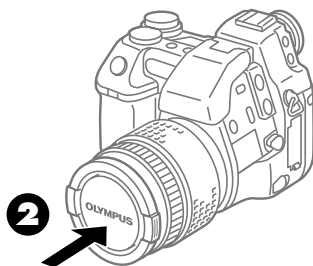
画像を消すことができないとき

プロテクト（→P.50）がかかっている画像は消すことができません。消したいときは、プロテクトを解除してください。
プロテクトされているサムネールのファイルなどがあるときや、スマートメディアにライトプロテクトシールが貼られているときも消せません。

カードをくり返し使うには

画像を保存してからカードの中身を消せば、カードはくり返し使えます。大切な画像は、消す前にパソコンにコピーしておきましょう。
●カードに入っている画像を一度に全部消すには→P.150

電源を切る

操作が終わったら、電源を切ります。
使わないときは、こまめに電源を切りましょう。
電源を切らなくても、自動的にスリープ状態（電池節約状態）になるか、電源が切れます。（スリープ状態→P.128）
電池を入れ換えたり、バッグなどに入れるときは、不用意にカメラが動作しないように電源を切ってください。

1 パワースイッチの白い線をOFFに合わせます。
電源が切れます。
画像をカードに記録しているとき（カードアクセスランプが点滅しているとき）は、記録が終わってから電源が切れます。

2 レンズキャップを取り付けます。
はずすときと同じように、両側のつまみを指で押しながらキャップをレンズに取り付けます。

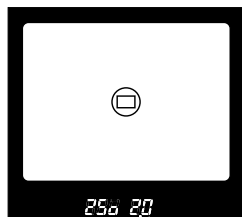
注意

カードアクセスランプが点滅している間はカードカバーを開けたり、電池や専用ACアダプタを抜かないでください。
カメラの動作中に電源が切れると、設定モードや日時がリセットされたり、撮影した画像がカードに記録されなかったり、記録済の内容が破壊されるおそれがあります。

場面別 撮影のしかた

いろいろな撮影シーン別に、どのようなことに気をつけて撮影すればよいか、どうすればより意図に近い表現ができるかなどを紹介します。

◉ポートレートを撮る(開放撮影で背景をぼかす)

人物写真(ポートレート)の撮影では、背景をぼかして被写体が浮かび上がるような撮影技法を用いることがあります。背景をぼかして被写体を浮かび上がらせるためには、絞りを開けて撮影します。

ファインダ
絞り値

絞り値が小さい(絞りが開く)ほど、ピントの合う範囲が狭くなるので、背景がぼやけます。ファインダで絞り値を確認しながら撮影しましょう。
モードダイヤルを**A**(絞り優先モード)に合わせると、メインダイヤルかサブダイヤルで絞り値を設定できます。
絞り値は、次の範囲で設定できます。

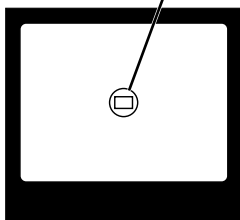
もっとも望遠にしたとき　F2.4〜F11
もっとも広角にしたとき　F2.0〜F11

→「絞り値を設定して撮る」P.72

広角で撮るよりも望遠で撮るほうが背景をぼかすことができます。
背景と被写体の間にできるだけ距離をあけて撮影しましょう。

◉ポートレートを撮る(逆光で撮る)

人物撮影で被写体の後ろから光を当てると、髪の毛が光を反射して光って見えます。この方法で撮影すると被写体の輪郭が光ってきれいに撮影することができます。顔が暗くなってしまうので、露出を補正したり、フラッシュを使用します。

スポット測光エリアマーク
ここを人物の顔に合わせる

ファインダ

逆光のときには、カメラは逆光であることを認識して、逆光に適した露出に自動的に調整します。
人物が暗くなってしまうときは、露出補正をするか、スポット測光に切り替えて人物の顔を測光するとよいでしょう。
また、フラッシュを使う方法もあります。

→「露出を補正する」P.79
→「測光の方法を選ぶ」P.78
→「強い影を弱めたり、日陰の人物を撮る」P.56

レンズに直接光が当たってフレアやゴーストなどが発生することがあるので、レンズフードを取り付けて撮影してください。

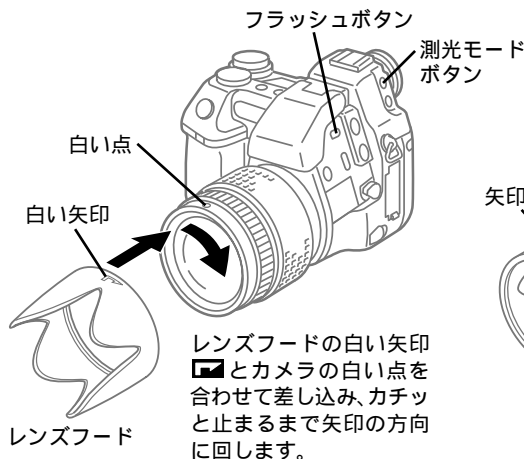
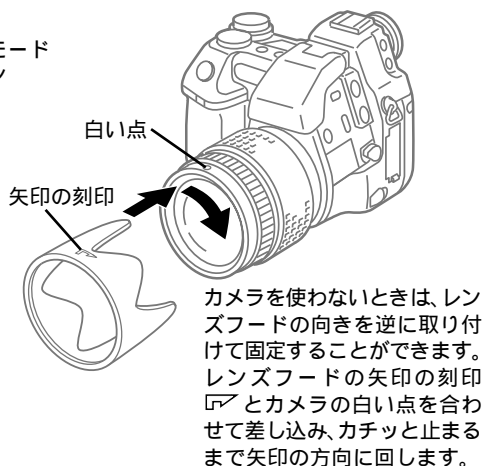
レンズフードの取り付けかた

フラッシュボタン
測光モードボタン
白い点
白い矢印
レンズフード

レンズフードの白い矢印 とカメラの白い点を合わせて差し込み、カチッと止まるまで矢印の方向に回します。

カメラを使わないとき

白い点
矢印の刻印

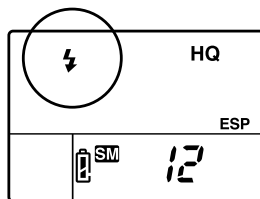
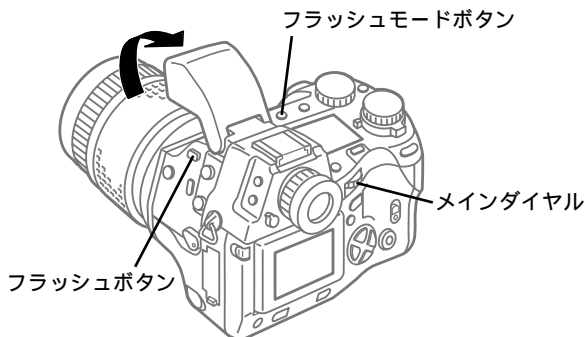
カメラを使わないときは、レンズフードの向きを逆に取り付けて固定することができます。
レンズフードの矢印の刻印 とカメラの白い点を合わせて差し込み、カチッと止まるまで矢印の方向に回します。

◉強い影を弱めたり、日陰の人物を撮る（日中シンクロ）

じゅうぶんに明るいとき（ファインダで⚡が点滅していないとき）でも、フラッシュを使うと、強い影を弱めたり、日陰の人物をきれいに撮ったりすることができます。

背景が被写体より明るいと、被写体が暗くなるか、背景が白くとんでしまいます

フラッシュを使うと、被写体と背景の両方を適正な明るさで撮影できます

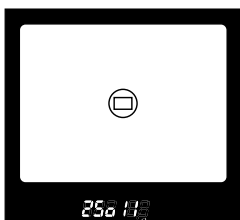
光が強くて陰影がくっきり出すぎるときは、フラッシュを強制発光にすることで陰影を弱めることができます。
また、背景が被写体より明るいと、背景が明るくなりすぎたり、被写体が暗くなりすぎたりすることがあります。
こういうときは、昼間でもフラッシュを強制発光にして被写体を明るくすることで、被写体と背景の両方をきれいに写すことができます。
どちらの場合も、目にフラッシュの光が映り込むと（キャッチライト効果）、生きいきとした表情になります。

➔「フラッシュモードを選ぶ」P.86

⚡（フラッシュボタン）を押して、フラッシュを起こし、⚡（フラッシュモードボタン）を押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを回します。コントロールパネルに⚡が表示された状態にすると、フラッシュは強制発光になります。

◉記念写真を撮る（人物と背景にピントを合わせる）

観光地で人物と背景を撮るときなど、近くの被写体と背景の両方にピントを合わせたいときは、絞り値を大きくします（絞り込みます）。

モードダイヤルを**A**（絞り優先モード）に合わせて、メインダイヤルを回し、絞り値を大きく（たとえば、11に）して撮ってください。絞り値を大きくすると（絞り込むと）、ピントの合う範囲が広くなります。

→「絞り値を設定して撮る」P.72

あまり明るくないときは、絞り値を大きくするとシャッタースピードが遅くなり、手ぶれしやすくなります。三脚を使ったり、木や街灯などにカメラを押しつけて撮るなど、手ぶれしないように工夫してください。

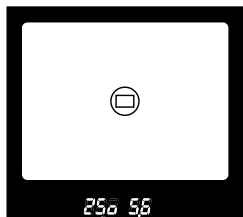
もっともピントを合わせたい部分が中央にないとき

→「被写体が中央にないときは（フォーカスロック）」P.65

◉動いている物を撮る

走っている人や車などを撮るときは、シャッタースピードを変えることによって、描写のしかたを変えることができます。

シャッタースピードを速く(1/500)
動いているものが止まっているように写ります

シャッタースピードを遅く(1/15)
動いているものが流れるように写ります

ファインダ

シャッタースピード
250は1/250秒、2 "は2秒の意味です

シャッタースピードを速くすると、顔の表情や一瞬の動作などをとらえることができます。
逆に、シャッタースピードを遅くすると、動きのある絵柄になります。
滝や川なども、シャッタースピードを速くして飛沫までくっきりととらえたり、遅くして水の流れを表現したりすることができます。
シャッタースピードを自分で設定したいときは、モードダイヤルを**S**(シャッタースピード優先モード)にして、メインダイヤルかサブダイヤルを回して、シャッタースピードを調節します。

➔**「シャッタースピードを設定して撮る」P.74**

また、連写を使えば、次々に変わる表情を連続してとらえることができます。

➔**「連写する(連続して撮影する)」P.112**

◉草花や昆虫をアップで撮る（クローズアップ撮影）

マクロ（🌷）にすると、被写体に20cmまで近づいて撮ることができます。望遠にすれば、さらにクローズアップしてとらえることができます。

マクロ（広角）で撮った画像

マクロ（望遠）で撮った画像

🌷（マクロボタン）を押しながら、メインダイヤルかサブダイヤルを回して、コントロールパネルに🌷が表示された状態にして撮ってください。

もっとも望遠にして20cmまで近づくと、ほぼ名刺大の範囲（約76mm×約57mm）を撮影できます。

➔「60cmより近いものを撮影する（マクロ）」P.42

クローズアップ撮影時は、手ぶれをしやすいのでカメラをしっかりと構えるように気をつけてください。

また、風などによる被写体ぶれもあるので、できるだけ高速シャッターで撮影するほうがよいでしょう。

フラッシュを使う場合は、撮影条件によってはレンズ鏡筒の影がでることがありますのでご注意ください。

クローズアップ撮影時は、液晶モニタを引き出して構図を確認すると便利です。

➔「液晶モニタを見て撮る方法」P.37

本格的なクローズアップ撮影には、マクロエクステンションレンズ プロf=35mm（MCON-35）（別売）をご使用ください。

➔「コンバージョンレンズ（別売）を使う」P.133

ピントが合わないとき

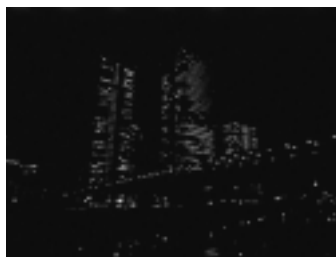
→「オートフォーカスでピントを合わせる」P.64

開いていく花の連続写真を撮る

インターバル撮影で、開いていく花など、ゆっくり変化していくものを、自動的に連続撮影することができます。

→「一定時間ごとに自動的に撮影する」P.118

◉夜景を撮る

夜景などの暗い被写体を撮るときは、カメラを三脚などに固定して、低速シャッター（1/2秒〜数秒）で撮影します。

自動露出で撮った夜景

低速シャッターで撮った夜景

自動露出モード（P、A）のとき、フラッシュが開いていると、シャッタースピードは1/30秒より遅くならないので、夜景がきれいに写りません。夜景を撮るときはフラッシュを閉じてください。フラッシュを閉じるとシャッタースピードが2秒までのびます。
さらに暗い夜景をとるときは、M（マニュアルモード）にしてください。シャッタースピードを8秒まで設定できます。さらにシャッターを開けたいときは、バルブ（bulb：約30秒リミッター付き）に設定してください。
手ぶれを防ぐため、三脚のご使用をおすすめします。

➜「絞り値とシャッタースピードを設定して撮る」P.76

スポット測光では夜景の光の点そのものに露出が合ってしまうことがあるので、デジタルESP測光か中央重点測光に設定しましょう。

➜「測光の方法を選ぶ」P.78

感度を上げると明るく撮れますが、画像が粗くなりがちなので、感度を変えて試してみてください。

➜「感度を変える」P.83

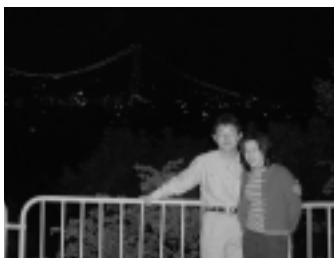
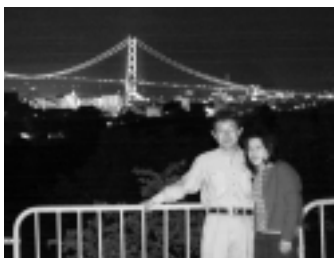
ピントが合わないときは、マニュアルフォーカスで合わせてください。

➜「フォーカスリングでピントを合わせる（マニュアルフォーカス）」P.68

色がきれいに出ないとき

ホワイトバランスを5500Kにしてください。
→「プリセットホワイトバランスで撮影する」P.102

◉夜景を背景にして人物を撮る（スローシンクロ）

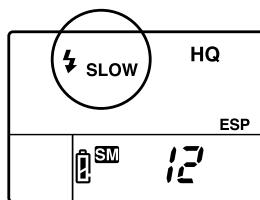
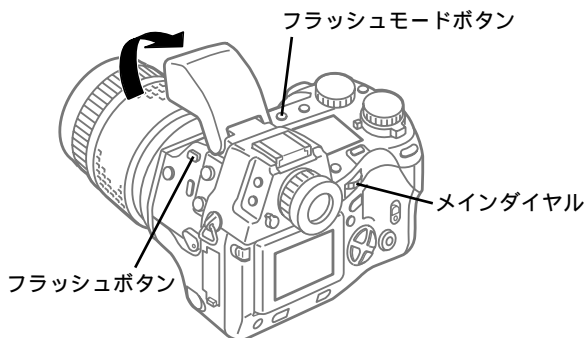
夜景を背景にして人物を撮るときは、人物をフラッシュで照らし、背景は低速シャッターで、それぞれをきれいに撮影します。これをスローシンクロ撮影といいます。

フラッシュモードをオート発光にすると、夜景はきれいに写りません

スローシンクロ撮影にすると、夜景と人物の両方を写すことができます

モードダイヤルをP（プログラムモード）かA（絞り優先モード）にします。(ϟ)（フラッシュモードボタン）を押したままメインダイヤルかサブダイヤルを回し、ϟと SLOW をコントロールパネルに表示させます。

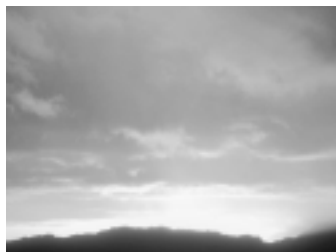
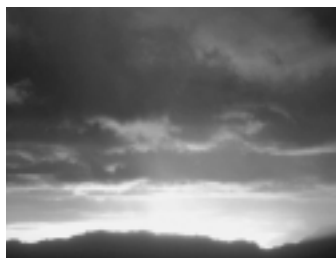
スローシンクロ撮影にすると、シャッタースピードは2秒までのびます。

手ぶれを防ぐため、三脚のご使用をおすすめします。

フラッシュが発光した後も撮影は続けられています。被写体になる人には、フラッシュが発光してもすぐには動かないように、あらかじめお願いしておきましょう。シャッターが閉じて、再びファインダから被写体が見えるようになるか、カードアクセスランプが点滅を始めるまでは、カメラを動かさないでください。

➔「フラッシュモードを選ぶ」P.86

コントロールパネル

◉夕焼けや花火を撮る

ホワイトバランスをプリセット値で指定すると、夕焼けの雰囲気をより強く出したり、花火の色をきれいに捉えることができます。

オートホワイトバランスで撮ると夕焼けらしく写りません

プリセットホワイトバランス(5500)にすると自然な色を表現できます

花火の色もプリセットホワイトバランスで調整できます

オートホワイトバランスでは、夕焼けの色や花火の色を基準の色(白)にしてしまうため、夕焼けが赤く写らなかったり、花火の色がきれいに出なかったりすることがあります。
このような場合は、WB(ホワイトバランスモードボタン)を押しながら、メインダイヤルかサブダイヤルを回し、コントロールパネルに5500(晴天)と表示させてから撮影します。
「6500」(曇天)にセットするとより赤味がまし、「3700」(電球雰囲気)にすると赤味が減ります。
ホワイトバランスのプリセット値は7種類用意されています。色を再現するだけでなく、意図的に色調を変えて、雰囲気のある画像にすることもできます。

→「プリセットホワイトバランスで撮影する」P.102

花火を撮るときは、ピントが合いにくいので、フォーカスモードレバーをMF(マニュアルフォーカス)に合わせて、フォーカスリングでピントを合わせてください。

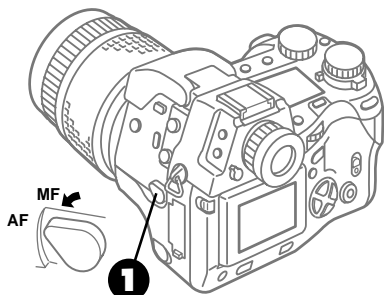
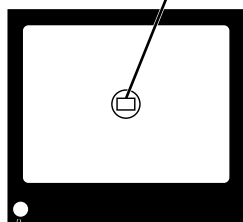
→「フォーカスリングでピントを合わせる(マニュアルフォーカス)」P.68

撮影　距離/ピント

このカメラにはオートフォーカス（AF）とマニュアルフォーカス（MF）の2つのピント合わせの方法があります。
ここでは、それぞれの設定のしかたと使いかたを説明します。

オートフォーカスでピントを合わせる AF

P A S M

オートフォーカス(AF)にすると、AFターゲットマークの部分に自動的にピントが合います。ピントが合うと、ファインダ内の●が点灯します。

AFターゲットマーク
この位置にあるものにピントが合います。

ピントが合うと点灯し、ピピッと音がします。

1 フォーカスモードスイッチを、左図の矢印の方向に回して、AF(オートフォーカス)に合わせます。

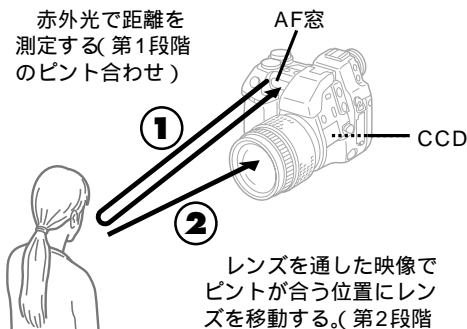
2 ファインダをのぞき、被写体にAFターゲットマークを合わせます。
液晶モニタを見て撮影するときは、被写体が中央に来るようにします。

3 シャッターボタンを半押しします。
ピントが合うとピピッと音がして、ファインダ内の左下に●が点灯します。
(●が点滅するとき→P.66)

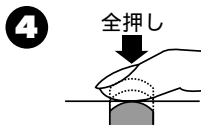
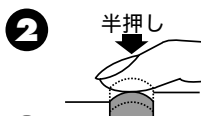
4 シャッターボタンを全押しします。
撮影されます。

オートフォーカスのしくみ

AF窓から、被写体に赤外光をあてて距離を測り、レンズをピント位置に動かしたあと、CCD(レンズを通して被写体の映像を受け取る部分)で正確なピント合わせを行います。ピントが合うと、ファインダ内の●が点灯します。
CCDのピント合わせが苦手な、暗い被写体やコントラストがない被写体は赤外光だけでピント合わせを行います。
マクロモード(🌷)、コンバージョンレンズ装着モード(◫)のときは、CCDだけでピント合わせを行います。

①赤外光で距離を測定する(第1段階のピント合わせ)

②レンズを通した映像でピントが合う位置にレンズを移動する。(第2段階のピント合わせ)
ピントが合うと●は点灯

●被写体が中央にないときは（フォーカスロック）

被写体がAFターゲットマークから外れるとき（中央にないとき）は、まず被写体にAFターゲットマークを合わせてシャッターボタンを半押しし、そのままシャッターボタンをはなさずに構図をなおして撮影します。
このように、シャッターボタンを半押ししてピントを固定することをフォーカスロックといいます。

1. 被写体（ピントを合わせたいもの）にＡＦターゲットマークを合わせます。
2. シャッターボタンを半押しします。
ピントが合うと、ピピッと音がしてファインダの左下の●が点灯します。
3. シャッターボタンを半押ししたまま、撮影したい構図までカメラを動かしましします。
4. シャッターボタンを全押しします。

注意

AF窓は、ピント合わせに使われます。指などでふさぐとピント合わせの時間が余計にかかったり、ピントが合わなくなったりします。ふさがないでください。

●ピントが合いにくい被写体のとき

このカメラは、自動的にピントを合わせるオートフォーカスを搭載しており、ほとんどの被写体に対してオートフォーカスが可能ですが、次のような被写体にはオートフォーカスではピントが合いにくいことがあります。
CCDによるピント合わせでピントが合わないと、シャッターボタンを押したときに、ファインダ内左下の●が点滅をつづけます。この状態でもシャッターボタンを押すと撮影できます。

被写体にコントラストがないとき

明暗がくっきりした模様がないとピントが合いにくいことがあります。

中央に極端に明るいものがあるとき

中央付近に極端に明るいものがあるとピントが合いにくいことがあります。

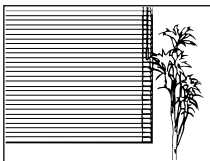
遠いものと近いものが混在しているとき

距離が違うものが混在していると、どちらにピントを合わせていいかわからず、ピントを合わせることができません。

街灯、ビルの窓などの点光源

夜間の街灯やビルの窓などの点状の光源のある風景はピントが合いにくいことがあります。

このようなときは、被写体(ピントを合わせたいもの)と同じ距離にあるものにフォーカスロック(→P.65)をし、構図を元に戻して撮影します。
また、マニュアルフォーカス(MF)に切り替えて、手動でピント合わせをする方法もあります。
(マニュアルフォーカス→P.68)

縦線がない被写体

横線だけでは、オートフォーカスは機能しません。カメラをたて位置にしてフォーカスロックし、よこ位置に戻してシャッターボタンを全押ししてください。

動きの速い被写体

動きの速い被写体にはピント合わせが間に合わないことがあります。あらかじめ撮影したい被写体と同じ距離にあるものでフォーカスロックしてから撮ってください。（おきピン）

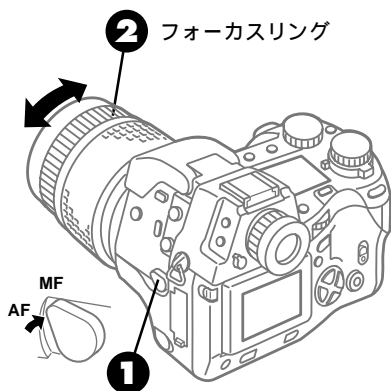
ガラス窓ごしの撮影や光沢のある物の撮影

ガラス窓ごしの撮影や、金属面などの光沢のある物の撮影では、ピントが合いにくいことがあります。このようなときは、マニュアルフォーカス（MF）に切り替えて、手動でピントを合わせてください。

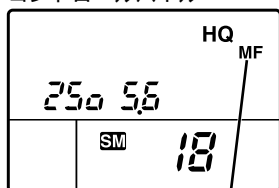
逆光状態の被写体

逆光撮影のときは、ピントが合いにくいことがあります。このようなときは、マニュアルフォーカス(MF)に切り替えて、手動でピントを合わせてください。

フォーカスリングでピントを合わせる（マニュアルフォーカス）MF

マニュアルフォーカス（MF）に切り替えると、手でフォーカスリングを回して、∞から20cm（レンズ先端から）まで、ピントを合わせることができます。

1 フォーカスモードスイッチを、左図の矢印の方向に回して、MF（マニュアルフォーカス）に合わせます。
コントロールパネルの右上にMF（マニュアルフォーカス）と表示されます。

2 ファインダか液晶モニタを見ながら、フォーカスリングを回してピントを合わせます。

コントロールパネル

MF（マニュアルフォーカス）マーク

液晶モニタ（撮影距離が1m以内の場合の表示）

液晶モニタ（撮影距離が1m以上の場合の表示）

撮影距離（現在ピントが合っている距離）
INFO（INFOボタン）を押して表示したり消したりすることができます。

フォーカスリングのしくみ

このカメラでマニュアルフォーカスにしているときは、フォーカスリングの回転方向と回転量をカメラが読み取り、フォーカスレンズをモーターで駆動します。
撮影距離の表示が20cm（最至近）や∞（無限遠）になっても、フォーカスリングがあてつくことはありません。さらに回すことができますが無効です。撮影距離は20cmや∞のままです。

注意

マクロ（🌷）に設定されている場合、マニュアルフォーカス（MF）にするとマクロ（🌷）は自動的に解除されます。

撮影　明るさ（露出）
絞りとシャッタースピード

カメラは、絞りとシャッタースピードの組み合わせで露出を調節します。同じ露出でも、絞りを開けてシャッタースピードを速くしたり、絞り込んでシャッタースピードを遅くすることができます。絞りを変えるとピントが合う範囲が変わります。シャッタースピードを変えると、動きの速い被写体を止まって見えるように撮影したり、意図的に被写体をぶらして動感を出したりすることができます。
ここでは、露出に関連するさまざまな機能の使いかたを説明します。

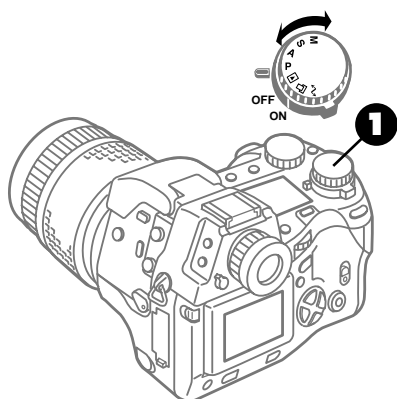
撮影モードを選ぶ

撮影には4つのモードがあります。撮影の方法や状況に合わせて選んでください。

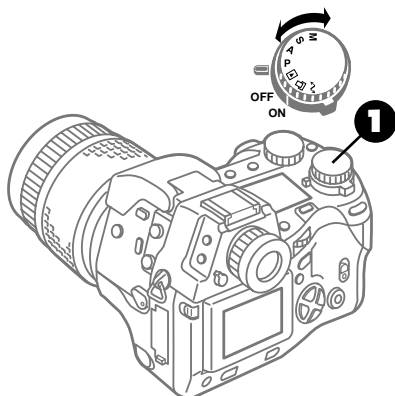
P（プログラムモード）
被写体の明るさに応じて、絞り値とシャッタースピードが自動的に設定されます。
シャッターボタンを押すだけで、簡単に撮影できます。

A（絞り優先モード）
絞り値を自分で決めて撮ることができます。シャッタースピードは、被写体の明るさに応じて自動的に設定されます。
絞り値を小さくすることによって、背景をぼかしたり、逆に大きくすることによって手前から遠くまでピントを合わせることができます。

S（シャッタースピード優先モード）
シャッタースピードを自分で決めて撮ることができます。絞り値は、被写体の明るさに応じて自動的に設定されます。
シャッタースピードを速くすることによって動きを止めたり、逆に遅くすることによって流動感を出すことができます。

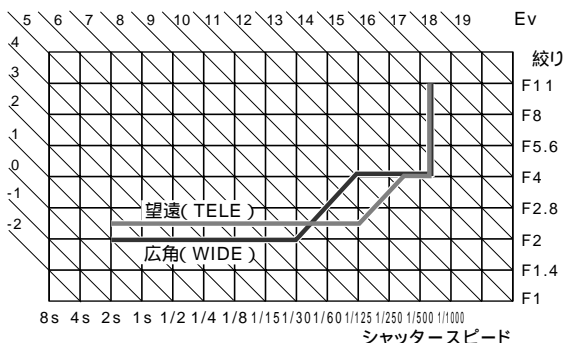
M（マニュアルモード）
絞り値とシャッタースピードを、撮影目的に合わせて自分で決めて撮ることができます。
適正露出かどうかはファインダ内の露出レベルで確認します。長時間露出（bulb）もこのモードで設定できます。

1 **モードダイヤルを回して、選びたいモードに合わせます。**

自動的に設定される絞り値とシャッタースピードで撮る P

モードダイヤルをP（プログラムモード）にすると、被写体の明るさに応じてカメラが自動的に絞り値とシャッタースピードを設定するので、露出の調節をしないで撮影することができます。

1 モードダイヤルを、P（プログラムモード）合わせます。

2 撮影します。

P（プログラムモード）の絞りとシャッタースピード

P（プログラムモード）のときは、被写体の明るさに応じて、このグラフのように絞りとシャッタースピードが調節されます。

露出を変えたいときは

P（プログラムモード）では、自動的に適正な露出になりますが、さらに明るくしたいときや暗くしたいときは ☒（＋/－ボタン）を使って露出補正を行ってください。

●露出補正→P.79

絞り値を設定して撮る A

モードダイヤルを、A（絞り優先モード）にすると絞り値を設定して撮影できます。
絞りは、レンズを通して入る光の量を調節するもので、絞りの開き具合は絞り値で表します。絞り値は、絞りを開くほど小さくなり、絞り込むほど大きくなります。
絞りを開くと明るさが不足する条件でも必要な量の光を取り込めますが、ピントの合う範囲は狭くなります。人物だけを強調して背景をぼかしたポートレートを撮るときは、この効果を使います。
逆に、背景にもピントを合わせたいときは、絞りを絞り込みます。

絞りを開く

絞りを開く（絞り値を小さくする）と背景がぼけます

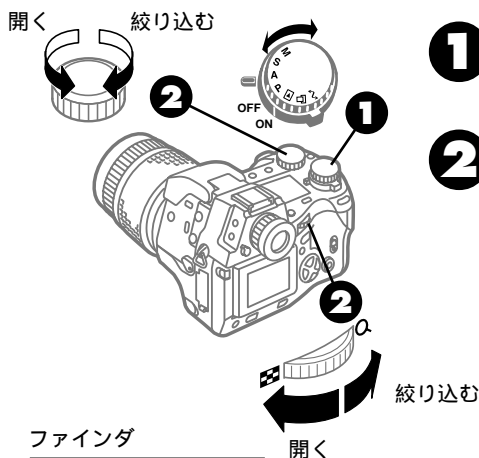
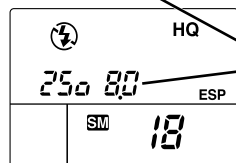
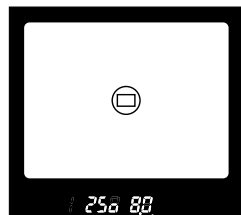
絞り込む

絞り込む（絞り値を大きくする）と被写体にも背景にもピントが合います

絞り値とシャッタースピードが微妙に連動しない

明るさによって絞り値の設定を変えてもシャッタースピードが変わらないことがあります。
表示される絞り値は光学的な絞り口径の値ですが、シャッタースピードは適正露出となるようにCCDの感じる明るさに基づいて計算された値です。そのため、明るさによって絞り値の設定を変えてもシャッタースピードが変わらないことがありますが故障ではありません。

画像に明るい縦線が入るとき

撮影画面内に太陽やその反射光などの非常に明るい輝点があると起きやすいCCD特有の現象（スミア）です。これを防ぐためには、撮影画面内に明るい輝点を入れないか、思い切って絞り込むか、NDフィルタを装着するなどの方法があります。

1 **モードダイヤルをA（絞り優先モード）に合わせます。**

2 **メインダイヤルかサブダイヤルを図のように回して、絞り値を変えます。**

ダイヤルを回すごとに1/3段刻みで絞り値が変わります。

絞り値は、ファインダ、コントロールパネルに表示されます。

設定できる絞り値はズームによって変わります。

	設定できる絞り値
もっとも広角にしたとき（WIDE端）	2.0～11
もっとも望遠にしたとき（TELE端）	2.4～11

カメラの制御範囲をこえると表示が点滅します。

速い秒時でシャッタースピードが点滅するとき

明るすぎます。絞りを絞ってください。それでも点滅するときは、ISO感度を下げるか、NDフィルター（光量調節用）をご使用ください。

遅い秒時でシャッタースピードが点滅するとき

暗すぎます。絞りを開いてください。それでも点滅するときは、ISO感度を上げるか、フラッシュをご使用ください。

3 **撮影します。**

注意

手動で設定した絞り値は、モードを変えたり、電源を切ったりしても記憶されています。再びこのモードに戻すと設定した絞り値に戻ります。

カメラが自動的に設定した絞り値は記憶されません。

シャッタースピードを設定して撮る S

S

モードダイヤルを**S**(シャッタースピード優先モード)にすると、被写体の動きの速さに合わせてシャッタースピードを設定し、撮影することができます。
スポーツシーンなどで被写体の動きを写しとめたり(高速シャッター)、逆に動きを流してぶれを表現する(スローシャッター)などの撮影に使います。
スローシャッターのとき、動いている被写体に合わせて、カメラを振りながら撮影し、背景を流して被写体の動きを表現する技法(流し撮り)もあります。

高速シャッター

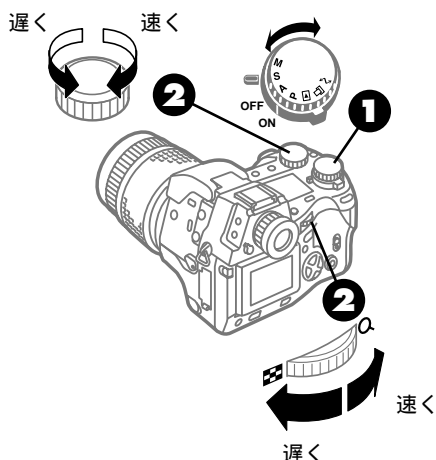
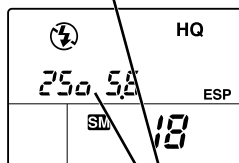
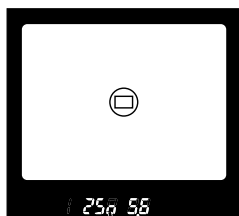
シャッタースピードを速くすると、動いているものが止まっているように写ります

シャッタースピードを遅くすると、動いているものが流れるように写ります

手ぶれ防止のために

ズームで拡大して撮影すると小さなカメラのぶれでも画像がぶれる原因になります。
一脚や三脚のご使用をおすすめします。

注意

シャッタースピードを、1/250秒以上にするとフラッシュの効果を得られないことがあります。
手動で設定したシャッタースピードは、モードを変えたり、電源を切っても記憶されています。再びこのモードに戻すと、設定したシャッタースピードに戻ります。
カメラが自動的に設定したシャッタースピードは保存されません。

シャッタースピード
1秒以下のときは、秒数の分母が表示されます。たとえば1／200秒であれば「200」と表示されます。
1秒以上のときは、秒数と「"」が表示されます。たとえば、2秒であれば、「2"」と表示されます。

1 モードダイヤルを、S（シャッタースピード優先モード）に合わせます。

2 メインダイヤルかサブダイヤルを図のように回して、シャッタースピードを変えます。

ダイヤルを回すごとに1/3段刻みでシャッタースピードが変わります。
1/640秒〜2秒のシャッタースピードを選べます。
シャッタースピードは、ファインダとコントロールパネルに表示されます。

カメラの制御範囲を超えると表示が点滅します。

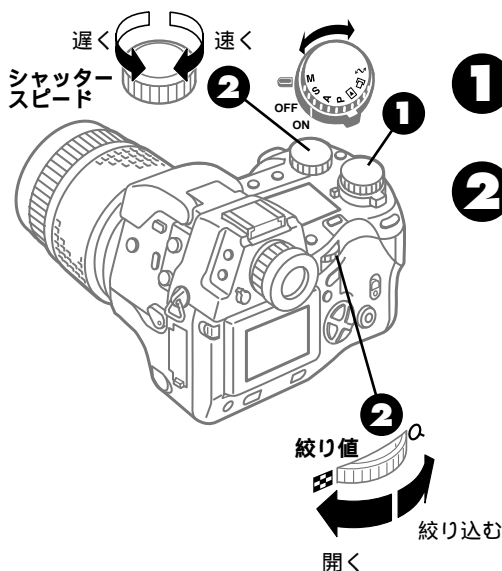
絞り値が最小絞り（値がもっとも大きい）で点滅するとき
明るすぎます。シャッタースピードを速くしてください。それでも点滅するときは、ISO感度を下げるか、NDフィルター（光量調節用）をご使用ください。

絞り値が開放絞り（値がもっとも小さい）で点滅するとき
暗すぎます。シャッタースピードを遅くしてください。それでも点滅するときは、ISO感度を上げるか、フラッシュをご使用ください。

3 撮影します。

絞り値とシャッタースピードを設定して撮る M

M

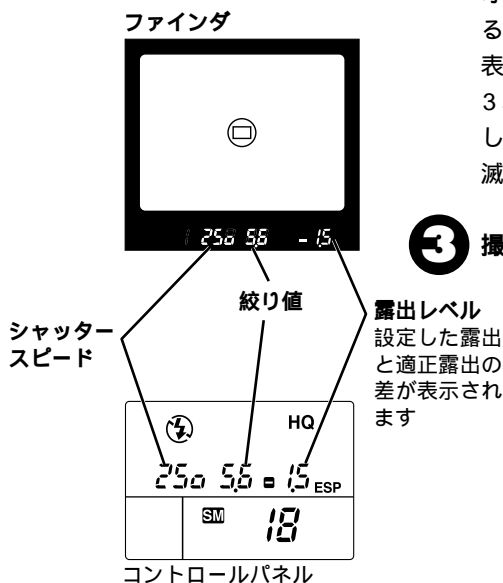
モードダイヤルを**M**(マニュアルモード)にすると、絞りとシャッタースピードの両方を設定して撮影することができます。
長時間露出撮影モード(bulb[バルブ])も、このモードで設定します。
ただし、長時間露出は約30秒までで、これをこえると自動的に露出を終了しシャッターを閉じます。

1 **モードダイヤルを M(マニュアルモード)に合わせます。**

2 **メインダイヤルを回して絞り値を、サブダイヤルを回してシャッタースピードを変えます。**
ダイヤルを回すごとに1/3段刻みで絞り値とシャッタースピードを変えることができます。
1/640秒~8秒とbulbのシャッタースピードを選べます。bulbに設定すると、シャッターボタンを押している間だけシャッターが開いたままとなる長時間露出撮影モード(bulb：最長約30秒)になります。

注意

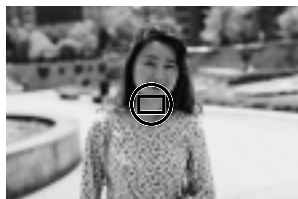
手動で設定した絞り値やシャッタースピードは、モードを変えたり、電源を切ったりしても記憶されています。再びこのモードに戻すと、設定した絞り値やシャッタースピードに戻ります。

露出レベル
ファインダ内とコントロールパネルの露出レベルに＋の数値が表示されるときは露出オーバー（明るい）で、－の数値が表示されるときは露出アンダー（暗い）です。±0と表示されるときは、露出が適正です。
3 段以上露出オーバーのときは＋が点滅し、3段以上露出アンダーのときは－が点滅します。

3 撮影します。

測光の方法を選ぶ ESP [中央重点] [スポット]

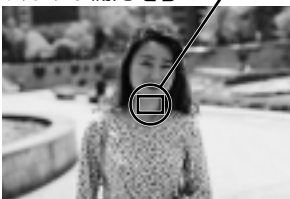
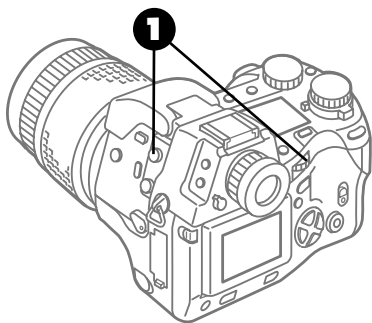
P A S

被写体の明るさを測る方法を選びます。
デジタルESP測光、中央重点測光、スポット測光の3つの測光方法があります。
出荷時には、デジタルESP測光に設定されています。

デジタルESP測光 ESP

画面全域の測光情報にもとづいて、明るさだけではなく、明るさのパターンに合った露出を決定します。

中央重点測光 [中央重点]

中央部のスポット測光エリアマークの直径の約3倍(ファインダ視野の約11%)の範囲に重点をおいて画面全域を測光して露出を決定します。

スポット測光 [スポット]

中央部のスポット測光エリアマーク(ファインダの視野の約1.2%)の範囲だけを測光して露出を決定します。

1 カメラ左上の[中央重点](測光モードボタン)を押したままメインダイヤルかサブダイヤルを回して、設定したい測光のマークを表示させます。

	ファインダの表示	コントロールパネルの表示
デジタルESP測光	表示なし	ESP
中央重点測光	[中央重点]	[中央重点]
スポット測光	[スポット]	[スポット]

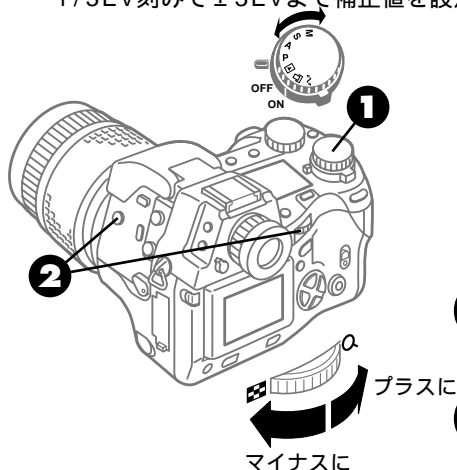
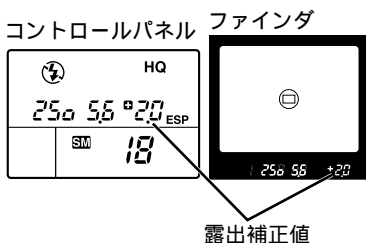
2 撮影します。

中央と周辺の明るさに大きな差があるとき

中央と周辺の明るさに大きな差があるときや、周辺部に極端に明るさが違うものがあるときは、デジタルESP測光では適切な露出にならないことがあります。このようなときは、中央重点測光またはスポット測光に切り替えて測光ポイントを特定したり露出補正をかけるなどして露出を決めてください。
背景が明るく、人物が暗くなるときは、フラッシュを使うことをおすすめします。

露出を補正する [+/-]

P A S

モードダイヤルでP(プログラムモード)、A(絞り優先モード)、S(シャッター優先モード)にしている場合、カメラが自動的に調整する露出より明るくしたいときや、暗くしたいときは、[+/-](＋/－ボタン)で露出補正を行います。
また、白い被写体を白く撮影したいときは、明るく補正するとより実際に近い画像にできます。
1/3EV刻みで±3EVまで補正値を設定できます。

1. モードダイヤルを、PかAかSに合わせます。
2. [+/-](＋/－ボタン)を押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを図のように回します。
   補正値は、ファインダとコントロールパネルに表示されます。
   液晶モニタを見て撮影するときは(→P.37)、±2EVまでの明るさの変化を液晶モニタで確認できます。
3. 撮影します。

フラッシュの発光量も補正したいとき

フラッシュの発光量は、自動的には補正されません。
●フラッシュの発光量を補正するには→P.90

注意

露出補正値は、電源を切っても記憶されています。
次に使うときは、露出補正値を0に戻してください。

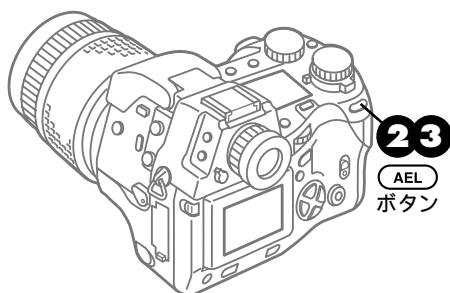
露出を固定(ロック)する(AEロック)AEL

P A S

通常はシャッターボタンの半押しでピント合わせと測光が行われ、AF(ピント)とAE(露出)が同時に固定されます。

シャッターボタンより先にAEL(AEロックボタン)を押すと、そのときの構図で露出を固定することができます。

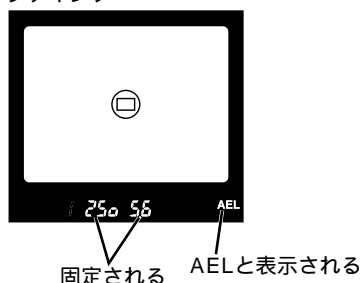
AELボタンを押した状態でシャッターボタンを押すと、AFのみ行われ露出は変わりません。逆に、シャッターボタンを半押しした状態でAELボタンを押すと、ピントはそのままで構図を変えて露出を再設定することができます。

露出は、AELボタンを押している間だけ保持され、はなすと解除されます。

1 **露出を合わせたいものにカメラを向けます。**

2 **AELボタンを押したままにします。**

露出が固定され、ファインダにAELと表示されます。

この状態でシャッターボタンを半押しするとピントも固定されます。

3 **AELボタンを押したまま、撮影します。**

同じ露出でさらに撮影したいときは、AELボタンを押したまま、次の撮影をします。

シャッターボタンを半押ししているとき

AELボタンを押すと、シャッターボタンの半押しによる露出は解除され、AELボタンを押したときの露出になります。

逆にシャッターボタンを半押ししたままAELボタンをはなすとシャッターボタンの半押しによる測光が行われ、露出が更新されます。

露出を変えて3枚撮る(オートブラケット撮影) BKT

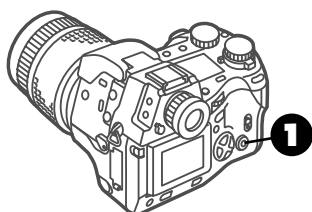
P A S

モードダイヤルでP(プログラムモード)、A(絞り優先モード)、S(シャッター優先モード)にしているとき、メニューでオートブラケット撮影に設定すると自動的に露出を変えて撮影することができます。
適切な露出の画像、暗くした(アンダー)画像、明るくした(オーバー)画像の順に3枚が撮影されます。

適正露出の画像

暗くした(アンダー)画像

明るくした(オーバー)画像

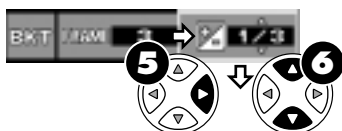
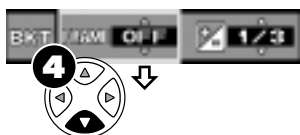
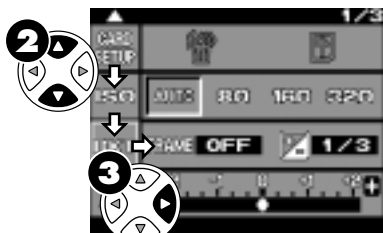
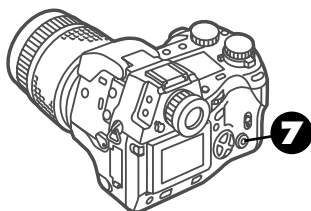
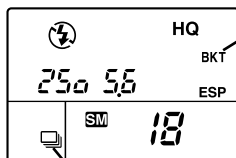
露出を変える刻みは1/3EV、2/3EV、1EVの中から選べます。

1 (メニューボタン)を押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

2 十字ボタンの▽または△を押して緑の選択枠をBKTまで移動します。

3 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠をFRAMEの欄に移動します。

4 十字ボタンの▽を押して、OFFを3(撮影枚数)に変更します。
オートブラケット撮影が設定されます。
OFFに戻すと解除されます。

5 十字ボタンの▷を押し、緑の選択枠を の欄に移動します。

6 十字ボタンの▽または△を押して、露出を変える刻みを設定します。
露出を変える刻みは1/3EV、2/3EV、1EVの中から選べます。

コントロールパネル

オートブラケット撮影に設定すると表示されます。

連写モード
オートブラケット撮影に設定すると自動的に連写モードになります。

7 OKボタンを押します。

これでオートブラケット撮影に設定されました。コントロールパネルにBKTと（連写）が表示されます。オートブラケット撮影に設定すると自動的に連写モードになります。（1コマ撮影にするには、DRIVE（ドライブボタン）を押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを回し、コントロールパネルのを消します）
OKボタンをもう一度押すとメニューが消えます。

8 撮影します。

連写モードのときは、シャッターボタンを1回全押しすると、露出を変えながら連続して3枚撮影されます。
1コマ撮影の状態にすると、全押しするごとに露出を変えて1枚ずつ撮影できます。

オートブラケット撮影を設定できないモード

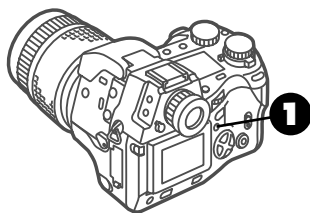
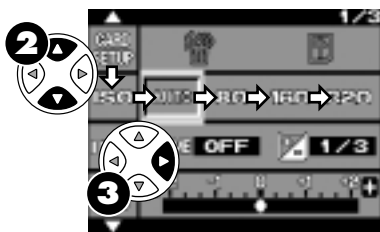
下記の場合はオートブラケット撮影は解除され設定できません。
- **M**（マニュアルモード）のとき
- フラッシュボタンを押してフラッシュを起こしたとき
- 専用外部フラッシュFL-40を装着したとき

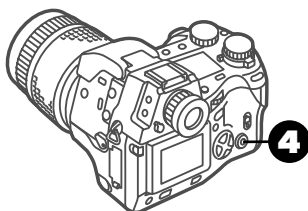
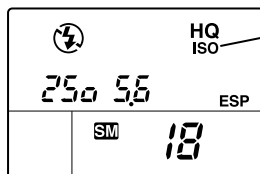
注意

- **P**（プログラムモード）のときはシャッタースピードと絞りが、**A**（絞り優先モード）のときはシャッタースピードが、**S**（シャッタースピード優先モード）のときは絞りが変化します。
- シャッタースピード、絞り値は露出補正された値が表示されます。
- オートブラケット撮影（→P.81）と露出補正（→P.79）が同時に設定されている場合は、両方の補正値が加算されます。
- オートブラケット撮影の設定は電源を切っても記憶されています。オートブラケット撮影の途中で電源を切っても、再度電源を入れれば、残りのオートブラケット撮影を継続できます。
- 連写モードのときはシャッターボタンから指をはなすといったん停止し、再度押しなおすと残りのオートブラケット撮影を継続できます。
- オートブラケット撮影が設定されていると、、は選択できません。選択するためにはメニューでオートブラケット撮影を解除してください。
- セルフタイマ、リモコンが設定されているときにオートブラケット撮影を設定すると、セルフタイマ、リモコンは自動的に解除されます。

感度を変える ISO

P A S M

感度を設定することができます。感度はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算した値の80、160、320から選ぶことができます。
感度を上げるほど暗くても撮影できるようになりますが、画質が粗くなることがあります。画質の低下を防止するために、AUTOまたは80でのご使用をおすすめします。
AUTOにすると被写体を照らすフラッシュの発光量が十分でない場合にのみ自動的に感度が上がります。通常は80で撮影されます。

1 （メニューボタン）を押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

2 十字ボタンの▽または△を押して、緑の選択枠をISOに移動します。

3 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を設定したい感度に移動します。

4 OKボタンを押します。
感度が設定され、緑の選択枠がISOに移動します。
もう一度OKボタンを押すとメニューが消えます。
AUTO以外を選んだときは、コントロールパネルにISOと表示されます。

コントロールパネル

撮影　フラッシュ

この章では、フラッシュモードの設定やフラッシュの発光量の補正、外部フラッシュを使った撮影について説明します。
（フラッシュの基本的な使いかた→P.44）

フラッシュモードを選ぶ

P A S M

フラッシュモードを選ぶことで、いろいろなフラッシュ撮影を行うことができます。

●フラッシュモードの特徴

オート発光
暗いときや逆光のときに、自動的に光量を調節して発光します。
暗いときは、手ぶれを防ぐために、シャッタースピードが約1/30秒(最長)に固定されて、フラッシュが発光します。
逆光のときは、明るさに応じて発光します。

スローシンクロ SLOW
後幕シンクロ 2nd-CURTAIN
イルミネーションなどの夜景を背景に人物をフラッシュ撮影すると、背景がまっ暗になってしまいます。スローシンクロにすると、シャッタースピードは背景の暗さに対応して2秒まで(ISO80のとき)のびるため、背景も写すことができます。
シャッタースピードが長くなると、手ぶれや被写体ぶれが起きやすくなるので、三脚のご使用をおすすめします。
2nd-CURTAINが表示されていないとき(先幕シンクロ)は、フラッシュはシャッターが開いたときに光ります。2nd-CURTAINが表示されているとき(後幕シンクロ)は、シャッターが閉じる直前に光ります。
夜間の走っている車はスローシンクロ(後幕シンクロ)で撮ると、最初(シャッターが開いたとき)に車のライトが写り、最後(シャッターが閉じる直前)にフラッシュで車が写るので、車の後ろにライトの筋が伸びた自然な画像になります。
Sモードにしてシャッタースピードを遅くすると、効果がはっきりと出ます。

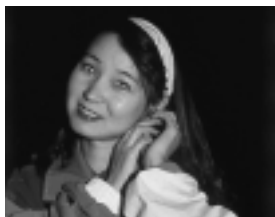
後幕シンクロで撮ると、車のライトの筋が後ろに伸びる

強制発光

明るさにかかわらず、必ずフラッシュが光ります。逆光で顔が暗く写ってしまうときや木陰などで顔にかかった影を柔らげるときや、蛍光灯などの人工照明の色づきを押さえるときなどに使います。
被写体が非常に明るい場合は、フラッシュの効果が現れにくくなります。露出補正をするか、適正露出で写したい部分をスポット測光(→P.78)で測光しなおして撮影してください。

赤目軽減発光

目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくするため、フラッシュが光る前に10数回の予備発光を行います。実際に撮影されるのはシャッターボタンを全押ししてから約1秒後なので、撮影が終わるまでカメラをしっかりと構えていてください。
次のようなときは、赤目軽減の効果が現れにくくなります。また、個人差もあります。

・フラッシュを正面から見ていないとき
・予備発光を見ていないとき
・被写体とカメラが離れているとき

目が赤く写っている例

(フラッシュモードボタン)を押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを右に回すと、コントロールパネルの表示が下表の矢印の順に変わります。(左に回すと逆の順に変わります)

P(プログラムモード)、A(絞り優先モード)のときに選べるフラッシュモード

コントロールパネルの表示	フラッシュモード	赤目軽減	発光のタイミング	暗いとき・逆光のとき自動発光	どんなときでも発光
(表示なし)	オート発光	—	先幕シンクロ	○	—
(赤目軽減マーク)	オート発光(赤目軽減)	○	先幕シンクロ	○	—
(赤目軽減マーク)(フラッシュマーク) SLOW	スローシンクロ(赤目軽減)	○	先幕シンクロ	○	—
(フラッシュマーク) SLOW	スローシンクロ	—	先幕シンクロ	○	—
(フラッシュマーク) SLOW 2nd-CURTAIN	スローシンクロ(後幕シンクロ)	—	後幕シンクロ	○	—
(フラッシュマーク)	強制発光	—	先幕シンクロ	—	○

S(シャッタースピード優先モード)、M(マニュアルモード)のときに選べるフラッシュモード

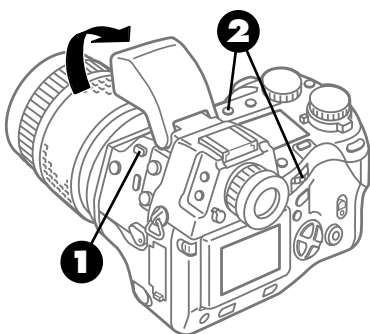
コントロールパネルの表示	フラッシュモード	赤目軽減	発光のタイミング	暗いとき・逆光のとき自動発光	どんなときでも発光
(赤目軽減マーク)(フラッシュマーク)	強制発光(赤目軽減)	○	先幕シンクロ	—	○
(フラッシュマーク) 2nd-CURTAIN	強制発光(後幕シンクロ)	—	後幕シンクロ	—	○
(フラッシュマーク)	強制発光	—	先幕シンクロ	—	○

注意

P、Aのときのフラッシュモード	S、Mのときのフラッシュモード
オート発光	→ 強制発光
スローシンクロ	→ 強制発光
スローシンクロ(後幕シンクロ)	→ 強制発光(後幕シンクロ)
オート発光(赤目軽減)	→ 強制発光(赤目軽減)
スローシンクロ(赤目軽減)	→ 強制発光(赤目軽減)
強制発光	→ 強制発光

P、Aのときに設定したフラッシュモードは、撮影モードをS、Mに変えると自動的に上のように変わります。

S、Mのときのフラッシュモード	P、Aのときのフラッシュモード
強制発光	→ 強制発光
強制発光(後幕シンクロ)	→ スローシンクロ(後幕シンクロ)
強制発光(赤目軽減)	→ オート発光(赤目軽減)

S、Mのときに設定したフラッシュモードは、撮影モードをP、Aに変えると自動的に上のように変わります。

1 **⚡（フラッシュボタン）を押します。**
フラッシュがポップアップします。
（フラッシュが起きていないときは、フラッシュモードを変更できません）

2 **⚡（フラッシュモードボタン）を押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを回し、設定したいフラッシュモードをコントロールパネルに表示させます。**

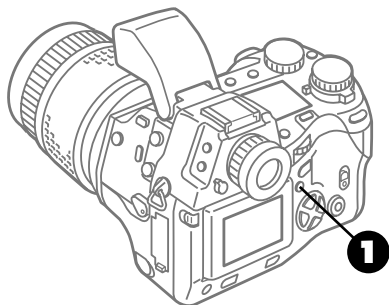
3 **撮影します。**

フラッシュを使わないとき

夕焼けや夜景など、フラッシュが届かないものを撮るときや、美術館などフラッシュを使えないときは、フラッシュを閉じて撮影してください。外部フラッシュを接続しているときは、外部フラッシュの電源を切るか、接続をはずしてください。外部フラッシュによっては、外部フラッシュの電源を切っても、撮影時に光るものがあるのでご注意ください。

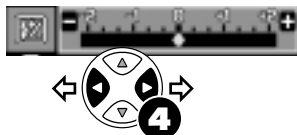
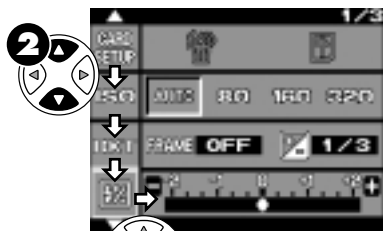
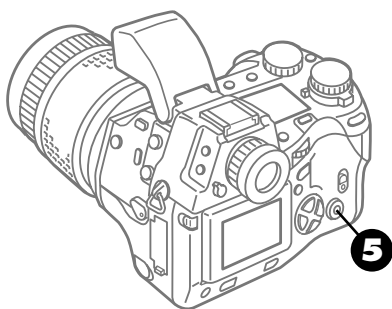
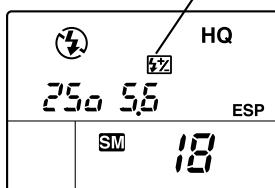
フラッシュの発光量を補正する

P A S M

フラッシュの発光量は、被写体の明るさや反射率・距離などに応じてカメラ側で自動的に決めます。そのため被写体によっては明るすぎる画像になったり、暗すぎる画像になったりします。フラッシュの発光量を補正することで、これらを防ぐことができます。シャッタースピードが速いときは、補正の効果があまり出ないことがあります。

1. (メニューボタン)を押します。
   液晶モニタにメニューが表示されます。

2. 十字ボタンの▽または△を押し、緑の選択枠を に移動します。

3. 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を の右の目盛りに移動します。

4. 発光量を増やしたいときは十字ボタンの▷を、減らしたいときは十字ボタンの◁を押します。
   1回押すたびに1/3EV刻みで補正値が変わります。－2EV～＋2EVの範囲の値を選べます。

コントロールパネル

5 ⓞⓚボタンを押します。

補正値が設定され、緑の選択枠が に移動します。
補正値を0以外にすると、コントロールパネルに が表示されます。
（この設定は、電源を切っても保持されますのでご注意ください。補正を解除する場合は補正値を0に戻します）
もう一度ⓞⓚボタンを押すとメニューが消えます。

6 撮影します。

専用外部フラッシュと内蔵フラッシュを併用するとき

カメラに取り付けた専用外部フラッシュは自動的に「TTL-AUTO」に設定され、内蔵フラッシュと同じように発光量が補正されます。
専用外部フラッシュを「MANUAL」に切り替えると、専用外部フラッシュの発光量のみ補正されなくなります。(内蔵フラッシュは補正されます)

専用外部フラッシュFL-40(別売)を使って撮影する

P A S M

専用外部フラッシュFL-40は、発光量が大きく、内蔵フラッシュでは光が届かないような遠くの被写体を照らすことができます。また、照射方向も変えられるので、バウンス撮影など多彩なフラッシュ撮影ができます。
専用外部フラッシュは、カメラ上部のホットシューに取り付けて使うか、フラッシュブラケット(別売)と組み合わせて使います。
フラッシュの発光量補正や発光モードは内蔵フラッシュと同じ操作で選ぶことができます。(→P.90)

●専用外部フラッシュだけを使う

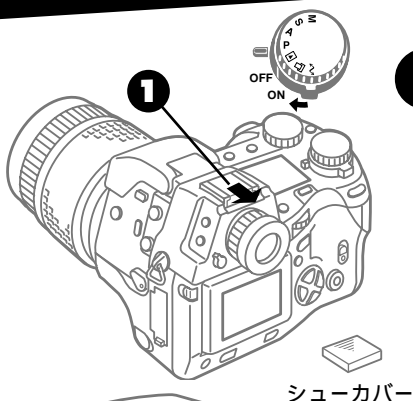
内蔵フラッシュが起きている場合は、閉じます。

●内蔵フラッシュと専用外部フラッシュを併用する

専用外部フラッシュをバウンスさせ、内蔵フラッシュで人物の目に光を入れたり(キャッチライト効果)することができます。
併用時の内蔵フラッシュは、専用外部フラッシュ発光量に対して約半分の割合の補助光源として発光します。バウンス撮影で外部フラッシュの光を反射させて使うと、外部フラッシュの光量が不足して、フラッシュ撮影による撮影可能範囲内でも露出が不足することがあります。

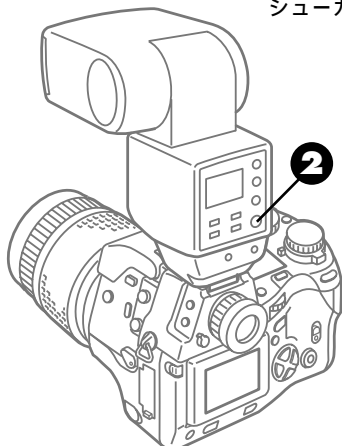
専用外部フラッシュのモード設定

専用外部フラッシュを取り付けると、専用外部フラッシュは自動的に「TTL-AUTO」に設定され、発光量はカメラによって自動的に調節されます。
カメラのモードダイヤルを**M**(マニュアルモード)にすると専用外部フラッシュの設定をMANUALに切替えることができます。専用外部フラッシュでガイドナンバーを設定して、カメラ側で絞り値を設定して撮影することもできます。

このカメラの撮影モード	専用外部フラッシュのモード
P	TTL-AUTOのみ
A	
S	
M	TTL-AUTO MANUAL

シューカバーをはずして、専用外部フラッシュFL-40を取り付けます。

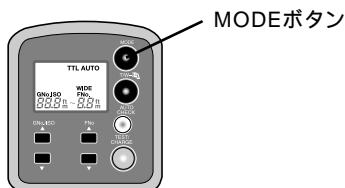
シューカバーはカメラの背面に向けてスライドさせてはずします。専用外部フラッシュの取り付けかたは、専用外部フラッシュFL-40の取扱説明書をご覧ください。

シューカバーはなくさないように保管し、専用外部フラッシュを取り外したあとは、もう一度取り付けてください。

カメラや専用外部フラッシュの電源が入った状態で取り付けると、専用外部フラッシュが誤って発光することがあります。

専用外部フラッシュの電源を入れます。

内蔵フラッシュも併用するときは、(フラッシュボタン)を押してフラッシュを起こします。使わないときは、内蔵フラッシュを閉じます。

カメラのフラッシュモード(→P.86)を選びます。

撮影します。

近くの被写体を撮るとき

1.5m以内の被写体を撮るときは、明るくなりすぎたり(白飛び)部分的に影になる(けられ)ことがあります。発光量を補正するか内蔵フラッシュだけで撮ることをおすすめします。

専用外部フラッシュを発光させたくないとき

専用外部フラッシュの電源を切ってください。

市販の外部フラッシュについて

市販の外部フラッシュは、ホットシュー、またはシンクロ接点に接続できるものであれば、使うことができます。（専用外部フラッシュのように、カメラから発光量の調整をすることはできません）
正しい撮影のために、次の事項にご注意ください。

●使用できる市販の外部フラッシュの条件

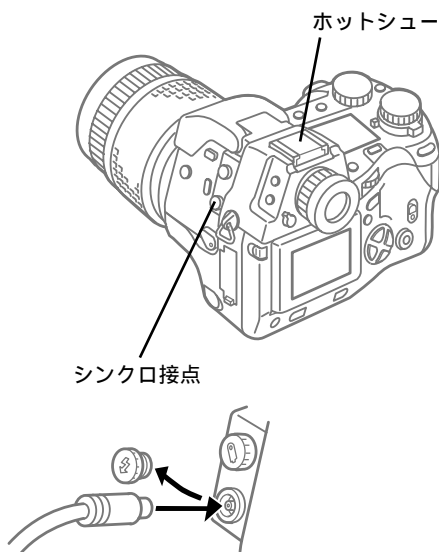
1．**フラッシュの照射角度はカメラの撮影範囲より広いものをお使いください**
このカメラの焦点距離は35mmフィルム換算で35mm～140mmです。使用する焦点距離より広い範囲の照射角度が必要になります。
焦点距離全域で使用できるためには35mm以上をカバーする必要があります。できれば、照射範囲に余裕をもたせるためにフラッシュの照射範囲を広げるワイドアダプタが付属しているものをおすすめします。
2．**フル発光時の発光時間が5msecよりも短いものをお使いください**
リングフラッシュなど、発光時間が長いものは、発光の途中でシャッターが閉じてしまい、暗く撮影されることがあります。
3．**FL-40以外の通信機能付きフラッシュは使用しないでください**

●市販の外部フラッシュでの設定

1．**フラッシュオート（外部フラッシュ自身による調光）で使うとき**
フラッシュオートで使うときは、外部フラッシュのオートF値とISO値をカメラの絞り値とISO値に合わせてください。
撮影条件によっては適正露出にならないこともあります。このような場合は、カメラの絞り値、もしくはISO値をシフトさせるか、外部フラッシュのオートF値とISO値をシフトするなどして調整してください。（カメラ側のフラッシュ発光量補正は市販の外部フラッシュには無効です）
2．**外部フラッシュでガイドナンバーを指定して使うとき**
ガイドナンバーと撮影距離とISO値から計算して、カメラの絞り値を設定してください。

FL-40以外の外部フラッシュを使うときの注意点

⚡がついていても、専用以外の外部フラッシュは撮影のたびに必ず発光します。発光させたくないときは、外部フラッシュの電源を切ってください。電源を切っても発光するものは、接続をはずしてください。
外部フラッシュの発光量は、外部フラッシュ側で調節する必要があります。また、撮影時の状況やフラッシュの種類、カメラの設定などによって撮影結果が異なります。専用以外の外部フラッシュを用いて撮影した画像については、保証できませんのでご了承ください。

●市販の外部フラッシュを使う

1 外部フラッシュをホットシューに取り付けるか、または、カメラのシンクロ接点でカメラと接続します。

2 カメラのモードダイヤルをM（マニュアルモード）に合わせます。

シャッタースピードと絞り値を設定します。シャッタースピードを遅くするとぶれて撮影されることがあります。

3 市販の外部フラッシュをオートモードに設定し、カメラで設定した絞り値とISO感度に合わせます。

撮影条件によっては、適正露出にならないことがあります。フラッシュ側の絞り値またはISO値を変えて試してください。（カメラ側のフラッシュ発光量補正は無効です）

撮影　色、画質

ここでは、撮影した画像の色調や画質の設定について説明します。
画像の色調を変えたいときはホワイトバランス、画像の画素数や圧縮率を変えたいときは画質、画像をくっきりさせたりソフトにしたいときはシャープネスとコントラストを調節します。
また、ヒストグラムで画像の輝度成分を見ることもできます。

自然な色にする（ホワイトバランス） WB

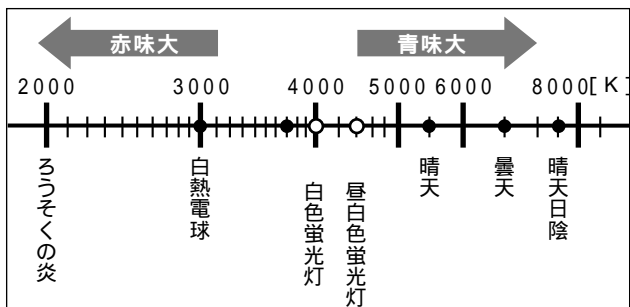
被写体は光源によって色が変わります。たとえば、同じ白い紙でも、太陽光があたっているときと、電球の光があたっているときとでは、色が少し変わります。
これらの被写体の色味を正しく表現したり、人の目に見えているように表現したりするために、ホワイトバランスを調節します。
フィルムを使うカメラでは、光源によってフィルムを使い分けたり、フィルタを使って調節しますが、デジタルカメラではホワイトバランスで調節します。
ホワイトバランスには、3つの設定があります。

オートホワイトバランス
自動的に白い光を判断して、全体の色のバランスを調節します。
ほとんどの場合はこのオートホワイトバランスで十分ですが、画面の中に白に近い色がまったくない場合は、白くないものを白くなるように設定してしまうので、ホワイトバランスが正しく設定されないことがあります。また、白色蛍光灯などの蛍光灯下で撮影する場合は、オートホワイトバランスが十分に効かないことがあります。このようなときは、白いものを用意してワンタッチホワイトバランスでホワイトバランスを設定するか、プリセットホワイトバランスで、光源の色温度を指定してホワイトバランスを指定します。

ワンタッチホワイトバランス
カメラを白紙などの白い物に向けてワンタッチホワイトバランスボタンを押し、ホワイトバランスを設定します。
設定されたホワイトバランスは、プリセットホワイトバランスの値の1つとしてカメラに記憶されます。

プリセットホワイトバランス
光源の色温度でホワイトバランスを設定します。
夕焼けをより赤く撮りたいときや暖かみのある電球色を表現したいときなどにはプリセットホワイトバランスで撮影してください。
さらにプリセットホワイトバランスを積極的に使うことで、様々な色調を楽しむこともできます。

●色温度について

電球のフィラメントのように、物質は温度が高くなるとしだいに光り始め、その光は温度が高くなるにしたがい赤みを帯びた光色から青みを帯びた光色に変化します。このように光の色を絶対温度：K(ケルビン)で表したものを色温度と呼びます。太陽などの自然光源、電球などの人工光源の光色は色温度で表すことができます。
これに対して、蛍光灯など色温度で表すことが不適当な人工光源があります。これらの光色は色温度による色味からは、ずれた色味をしています。この色味のずれ量が小さければ色温度換算することがあり、これを相関色温度といいます。
このカメラのプリセット値のうち、4000Kと4500Kは相関色温度です。厳密な意味での色温度ではありません。蛍光灯下での撮影のときにお使いください。

フラッシュを使うとき

フラッシュを使って撮影するときは、オートホワイトバランスで撮影することをおすすめします。
フラッシュは、プリセットホワイトバランスで撮影するときは、6500Kに設定してください。
また、フラッシュを使った撮影では、条件によって色温度が変わります。撮影したら再生して色味を確認してください。

液晶モニタには

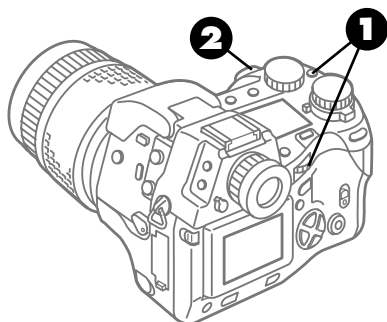
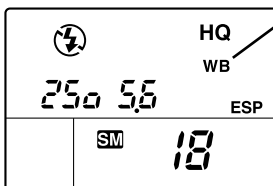
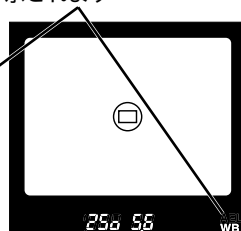
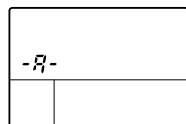
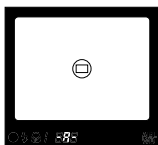
設定したホワイトバランスの処理が施された画像が表示されます。

注意

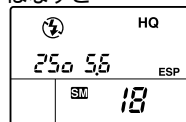
各光源として設定された色温度は目安です。（実際の晴天が5500K、蛍光灯が4000Kにしかならないということではありません）

オートホワイトバランスで撮影する(WB)

P A S M

オートホワイトバランスに設定すると、自動的に白い光を判断して、全体の色のバランスを調節します。

オートホワイトバランスになっていないときに表示されます

コントロールパネル

ファインダ

コントロールパネル　ファインダ

液晶モニタ

(WB)（ホワイトバランスモードボタン）をはなすと

コントロールパネル　ファインダ

1　(WB)（ホワイトバランスモードボタン）を押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを、コントロールパネル、ファインダに「- A -」と表示されるか、液晶モニタに「AUTO　WB」と表示されるまで回します。

2　撮影します。

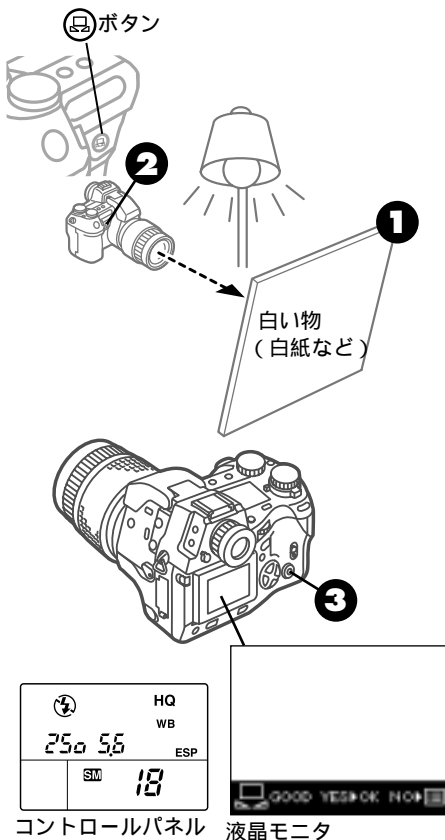
ワンタッチホワイトバランスで撮影する

P A S M

白紙などの白い物を使って、撮影環境に最適なホワイトバランスをカメラに設定してから撮影します。

コントロールパネル　液晶モニタ

注意

設定されたホワイトバランスは、プリセットホワイトバランスの値の1つとしてカメラに記憶されます。電源を切っても消えません。
新たにホワイトバランスを設定すると、古い設定は消えます。

1 カメラを、被写体と同じ光源に照らされている白い物（白紙など）に向けます。
ファインダいっぱいに白い物が入るようにします。
白い物は影にならないよう、光源に向けます。

2 （ワンタッチホワイトバランスボタン）を押します。
測定したホワイトバランスで補正された画像が液晶モニタに表示され、適切な測定ができたときは「GOOD」と表示されます。
白い部分の面積が足りないとき、明るすぎるとき、暗すぎるとき、極端な色味がついているときは、「NO GOOD」と表示されます。

3 液晶モニタの画像が自然な色であれば、OKボタンを押します。
ワンタッチホワイトバランスが設定されます。
自然な色でないときは、（メニューボタン）か（液晶モニタボタン）を押して測定をキャンセルし、1の操作からやりなおします。

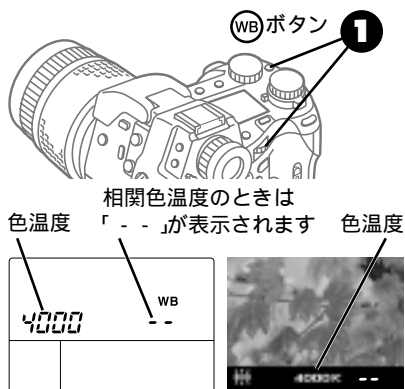
4 撮影したい被写体に向けて、撮影します。

プリセットホワイトバランスで撮影する(WB)

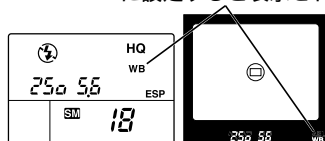
P A S M

ホワイトバランスを光源の色温度（→P.99）で設定することができます。

設定（色温度）	コントロールパネルの表示	液晶モニタに表示されるアイコン	適した撮影シーン
オートホワイトバランス（AUTO、-A-）	-A-	AUTO WB	一般的なほとんどの撮影シーン（画面内に白に近い色が存在する撮影シーン）
3000K	3000 WB		電球に照らされている被写体を撮るとき
3700K	3700 WB		**電球に照らされている被写体を電球の光の雰囲気を出して撮るとき**
4000K	4000 WB		白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
4500K	4500 WB		昼白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
5500K	5500 WB		晴天の日に屋外で撮るとき、**夕焼けを赤く撮るとき、花火を撮るとき**
6500K	6500 WB		曇天の日に屋外で撮るとき
7500K	7500 WB		晴天の日に屋外の日陰で撮るとき
ワンタッチホワイトバランスで設定した色温度（色温度は非表示）	-0- WB		（→P.101）

相関色温度のときは「－－」が表示されます

コントロールパネル

液晶モニタ

オートホワイトバランス以外に設定すると表示されます

コントロールパネル　ファインダ

1 **(WB)（ホワイトバランスモードボタン）を押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを回します。**

コントロールパネル、ファインダのシャッタースピード表示欄に色温度が表示されます。液晶モニタには、表示された色温度で補正した画像が表示されます。

2 **設定したい色温度を表示します。**

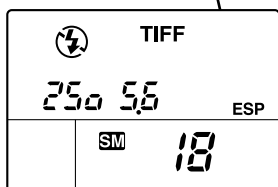
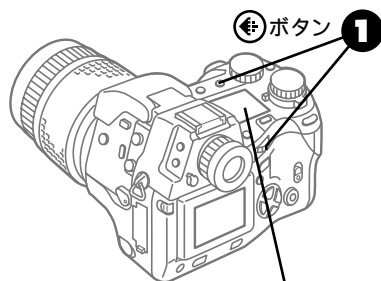
コントロールパネルとファインダにWBと表示されます。

3 **撮影します。**

画質、記録画素数、圧縮率を選ぶ TIFF SHQ HQ SQ

撮影する画像の画質を選ぶことができます。

●画質を選ぶ

画質は、TIFF、SHQ、HQ、SQの4種類の画質名から選択することができます。SQ→HQ→SHQ→TIFFの順に高画質になりますが、画像1枚のファイルサイズは大きくなるので、1枚のカードに記録できる枚数は少なくなります(→P.34)。
また、それぞれの画質名に対応した記録画素数(以下、画素数)と圧縮率の組み合わせを変更することもできます(→P.104)。

コントロールパネル

1 (画質モードボタン)を押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを、コントロールパネルに選びたい画質名が表示されるまで回します。

画質名	記録画素数	圧縮率
TIFF	2240×1680ピクセル	1/1
SHQ	2240×1680ピクセル	1/2.7
HQ	2240×1680ピクセル	1/8
SQ	1280×960ピクセル	1/8

画質(画質名)について

TIFFは非圧縮のTIFFファイルです。
SHQ、HQ、SQはそれぞれ、Super High Quality(超高画質)、High Quality(高画質)、Standard Quality(標準画質)の略語です。

●記録画素数、圧縮率を設定する

メニューで、4つの画質名に対応して設定されている画素数、圧縮率を変えることができます。それぞれの画質の画素数、圧縮率は次の中から選択することができます。

画質	記録画素数	圧縮率
TIFF	2240×1680ピクセル（FULL） （変更できません）	1/1（非圧縮） （変更できません）
SHQ HQ SQ	2240×1680ピクセル（FULL） 1600×1200ピクセル（HALF） 1280×960ピクセル（SXGA） 1024×768ピクセル（XGA） 640×480ピクセル（VGA） の中から選択できます。	1/2.7 1/4 1/8 の中から選択できます。

記録画素数とは

デジタルカメラで撮った画像は、縦横に並ぶ色の点でできています。この色の点を画素（ピクセル）といい、その数が画素数です。2240×1680ピクセルとは、横に2240の画素、縦に1680の画素があることを示します。画素数が多いほど、画質が向上し拡大してもきれいに表示できます。ただし、ファイルサイズが大きくなるので、1枚のカードに記録できる枚数は少なくなります。あとでトリミングしたり、サービスサイズよりも大きなサイズでプリントする場合はできるだけ大きな画素数で撮影しましょう。

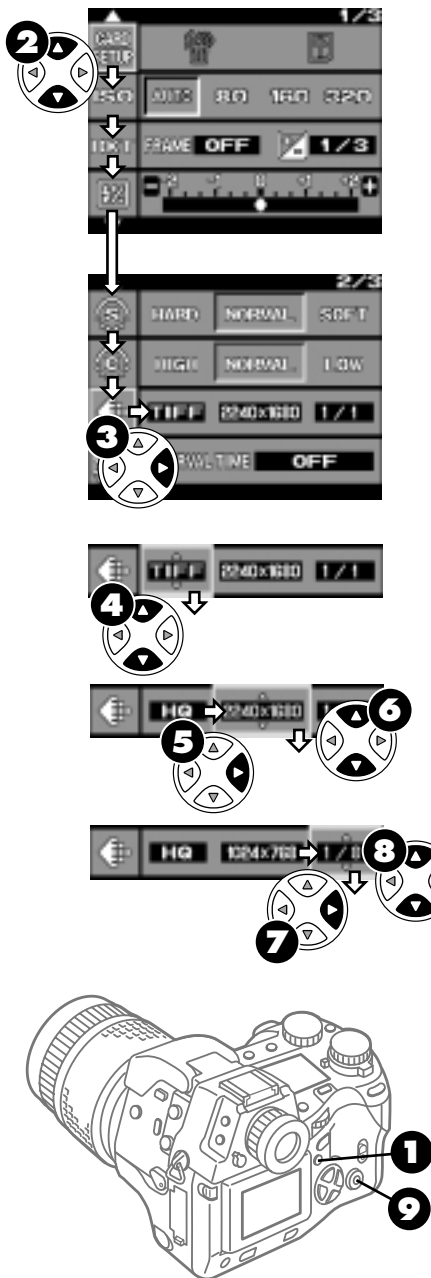
圧縮率とは

JPEG方式の圧縮率を指します。圧縮率が高いほどファイルサイズは小さくなりますが、画質は低下します。1/8以下の圧縮率ではほとんど低下は感じられませんが、低下が気になる場合は1/4や1/2.7などのより小さい圧縮率を選んでください。
圧縮率は、被写体によって変わります。1/2.7、1/4などの数値はあくまで目安で正確な数値ではありません。

記録画素数、圧縮率とファイルサイズ（参考値）

記録画素数＼圧縮率	1/1	1/2.7	1/4	1/8
2240×1680	約11.3MB	約2.8MB	約1.9MB	約950KB
1600×1200	ー	約1.4MB	約1MB	約500KB
1280×960	ー	約900KB	約620KB	約300KB
1024×768	ー	約570KB	約400KB	約210KB
640×480	ー	約230KB	約150KB	約80KB

注意

ファイルサイズが小さくなるほどカード書込み時間は短くなりますが、640×480ピクセルに限っては、画像縮小に時間がかかるため、カード書込み時間は、逆に長くなります。

1 (メニューボタン)を押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

2 十字ボタンの▽または△を押して、緑の選択枠を に移動します。

3 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を画質名に移動します。

4 十字ボタンの▽または△を押して、設定したい画質名を表示します。

5 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を画素数に移動します。

6 画素数を変更するときは、十字ボタンの▽または△を押して、設定したい画素数を表示させます。
圧縮率を変更しないときは、**9**の操作へ移ります。

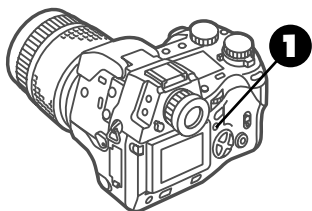
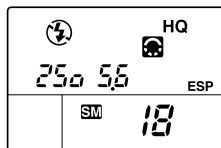
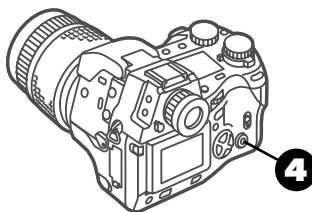
7 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を圧縮率に移動します。

8 十字ボタンの▽または△を押して、設定したい圧縮率を表示させます。

9 OKボタンを押します。
選んだものが設定され、緑の選択枠が に移動します。
もう一度OKボタンを押すと、メニューが消えます。

シャープネス（鮮鋭度）を選ぶ

P A S M

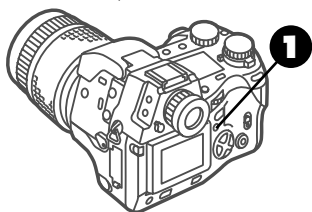
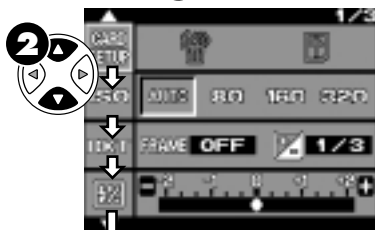
シャープネス（鮮鋭度）の度合いを、HARD、NORMAL、SOFTから用途に応じて選択できます。出荷時はNORMALに設定されています。これはプリント時に輪郭がくっきり出てピントのしっかりした画像になるような設定です。HARDはより輪郭を強調し、よりくっきりとする設定です。
SOFTはあまり輪郭を強調しないもので、パソコンで画像処理をする場合に適しています。

1. （メニューボタン）を押します。
   液晶モニタにメニューが表示されます。
2. 十字ボタンの▽または△を押して、緑の選択枠をに移動します。
3. 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を、HARD、NORMAL、SOFTのうち、設定したいものに移動します。
4. OKボタンを押します。
   選んだものが設定され、緑の選択枠がに移動します。
   もう一度OKボタンを押すとメニューが消えます。
   NORMAL以外に設定したときは、コントロールパネルにが表示されます。

コントロールパネル

注意

HARDに設定すると画像が荒れて見えることがあります。

コントラスト(階調)の強さを選ぶ

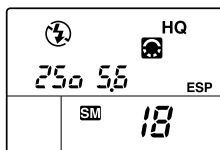
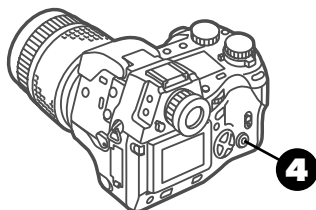
P A S M

コントラスト(階調)の度合いを、HIGH(硬調)、NORMAL(中間調)、LOW(軟調)から好みや用途に応じて選択できます。
HIGHはリバーサルフィルム(スライドフィルム)のようなメリハリの効いた硬い画質になります。(ただし、明るい部分が白く飛んだり、暗い部分が黒くつぶれたりしやすくなります)
LOWは、メリハリは少なくなりますが、パソコンで画像処理をする場合に適しています。
NORMALは、HIGHとLOWの中間です。

1. (メニューボタン)を押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

2. 十字ボタンの▽または△を押して、緑の選択枠をに移動します。

3. 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠をHIGH、NORMAL、LOWのうち、設定したいものに移動します。

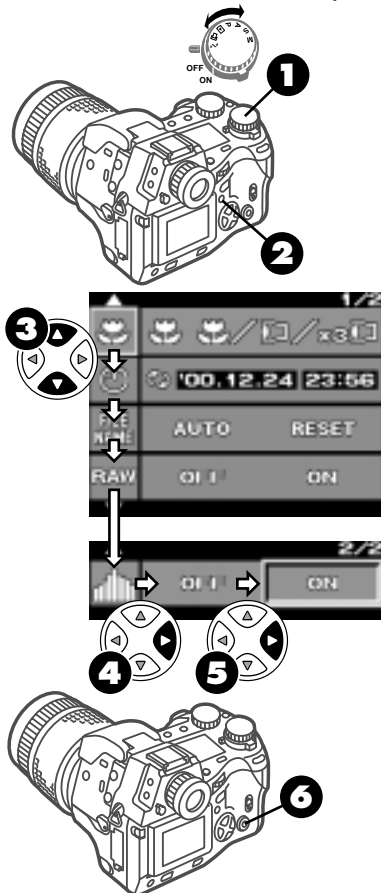
4. OKボタンを押します。
選んだものが設定され、緑の選択枠がに移動します。
もう一度OKボタンを押すとメニューが消えます。
NORMAL以外に設定したときは、コントロールパネルにが表示されます。

コントロールパネル

撮影 色、画質

画像の輝度成分グラフ(ヒストグラム)を表示する

メニューでヒストグラム表示設定をONに設定すると、撮影した画像を再生するときに、輝度成分グラフ(ヒストグラム)を表示できます。

●輝度成分グラフ(ヒストグラム)表示する/しないを設定する

画像再生時に輝度成分グラフ(ヒストグラム)を表示するかどうかを指定します。

1 **モードダイヤルを (カメラ設定/接続モード)に合わせます。**

2 **(メニューボタン)を押します。**
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 **十字ボタンの▽または△を押して、緑の選択枠を に移動します。**

4 **十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を右へ移動します。**

5 **十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠をONに移動します。**
輝度成分グラフを表示しないときは、緑の選択枠をOFFにします。

6 **OKボタンを押します。**
選んだものが設定され、緑の選択枠が に移動します。
もう一度OKボタンを押すと、メニューが消えます。

メニューが表示されないとき

カメラがＵＳＢケーブルでパソコンに接続されていると、メニューが表示されません。カメラからUSBケーブルをはずしてください。

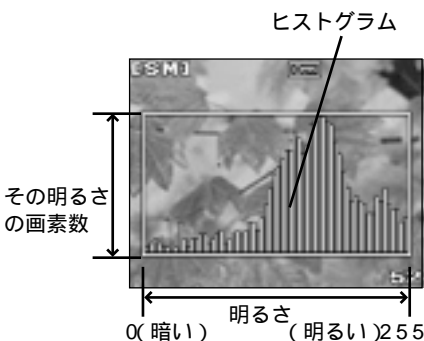
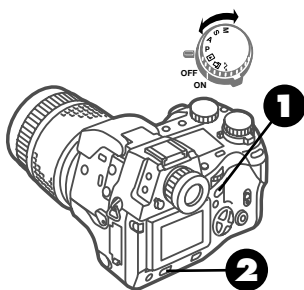
●画像の状態を輝度成分グラフで確認する

画像データが明るい部分にかたよっているとき（白飛び状態）は、露出をマイナスに（暗く）補正し、暗い部分にかたよっているとき（黒つぶれ状態）は、露出をプラスに（明るく）補正して、再度撮影します。

ヒストグラム

その明るさの画素数

明るさ

0（暗い）　（明るい）255

1 モードダイヤルを▶（再生モード）に合わせます。

最後に撮った画像とそのヒストグラムが液晶モニタに表示されます。

（メニューでヒストグラム表示の設定がOFFになっているときは、表示されません）

モードダイヤルが撮影モード（**P**、**A**、**S**、**M**）であれば、かわりに（液晶モニタボタン）を2回すばやく続けて押しても再生モードにできます。

2 INFO（INFOボタン）を押すたびに、ヒストグラムが表示されたり消えたりします。

撮影情報（→P.138）が表示されているときはヒストグラムは表示されません。INFOボタンを押すとヒストグラム表示画面に切り替わります。

ヒストグラムを見て露出を変えて撮影する

このままの状態では露出の変更（露出補正・絞り・シャッタースピードの変更）ができません。

●モードダイヤルが、撮影モード（P、A、S、M）のとき

（液晶モニタボタン）を押すと、撮影モードに戻り、露出を変更できるようになります。

●モードダイヤルが▶（再生モード）のとき

モードダイヤルを撮影モード（**P**、**A**、**S**、**M**）のどれかに合わせます。

注意

インデックス表示中や撮影直後の撮影画像表示中は、ヒストグラムは表示されません。また、拡大表示しても、画像全体のヒストグラムが表示されます。

撮影　その他

ここでは、連写、セルフタイマやリモコンなどを使った撮影、インターバル撮影など便利な機能の使い方を説明します。
また、シャッター音量やビープ音量を変更する、撮影直後にその画像を自動表示する、スリープまでの時間を変更するなど、使用条件に合わせてカメラの動作を変更する方法も説明します。

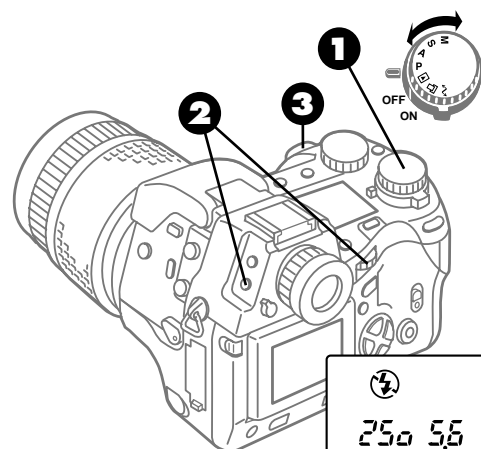
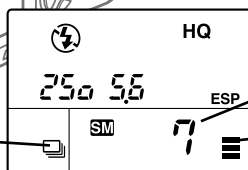
連写する（連続して撮影する）

P A S M

連写に設定すると、シャッターボタンを押し続けている間、連続して4枚まで撮影できます。

1 モードダイヤルを、撮影モード（P、A、S、M）に合わせます。

2 DRIVE（ドライブボタン）を押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを、コントロールパネルに が表示されるまで回します。

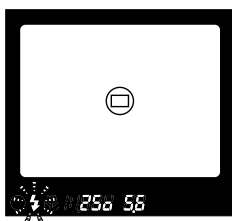
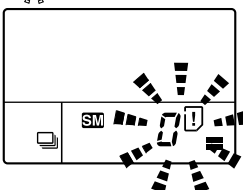
3 撮影します。
シャッターボタンを全押ししている間、連続して撮影されます。シャッターボタンから指をはなすと連写は終わります。連写した枚数はコントロールパネルに表示されます。

コントロールパネル

撮影可能枚数

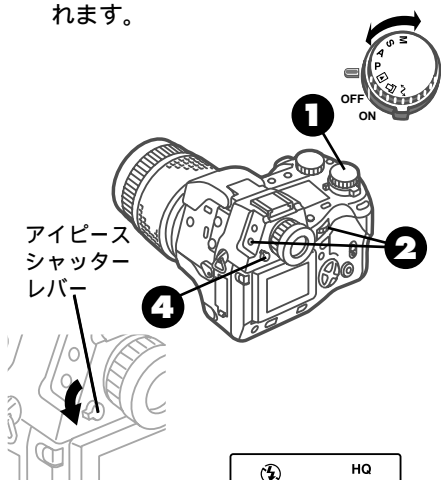
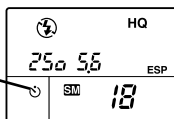
連写に設定すると表示されます

連写した枚数（3枚連写したところ）

シャッターボタンを押しても撮影できないとき

●ファインダで が点滅している
内蔵フラッシュの充電中です。充電が完了するまでお待ちください。充電が完了すると、 がついたままになります。

●撮影可能枚数と が点滅している
カードに空きがなく、撮影できません。空きがあるカードに切り替えるか、交換するか、不要な画像を削除するかしてください。

セルフタイマで撮影する ⏲

P A S M

セルフタイマに設定すると、シャッターボタンを押してから**12秒後**にシャッターが切れます。

セルフタイマに設定すると表示されます

セルフタイマシグナル
シャッターボタンを押すと10秒間光ったあと、2秒間点滅し、シャッターが切れます

1 モードダイヤルを、撮影モード(P、A、S、M)に合わせます。

2 DRIVE(ドライブボタン)を押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを、コントロールパネルに ⏲ が表示されるまで回します。

3 カメラを三脚などに固定し、ピントを合わせ、構図を決めます。
シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。(被写体が構図の中央にないとき→P.65)

4 ファインダから光が入らないようにアイピースシャッターを閉じます。
ファインダ左下のレバーを下げます。(ファインダから光が入ると画像が白っぽくなることがあります)

5 シャッターボタンを全押しします。
セルフタイマシグナルが10秒間光り、その後、2秒間点滅し、シャッターが切れます。
撮影が終了してもセルフタイマモードは解除されません。電源を切ると解除されます。

中止/解除するには

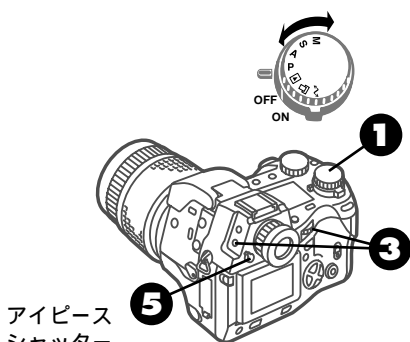
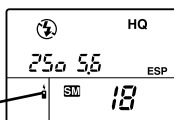
撮影を中止するには、シャッターが切れる前に DRIVE(ドライブボタン)を押します。
セルフタイマモードそのものを解除するには、⏲(セルフタイマ)以外にセットするか、電源を切って入れなおします。

注意

カメラの前でシャッターボタンを押さないでください。ピント合わせはシャッターボタンを半押ししたときに行われるので、カメラの前に立ってシャッターボタンを押すとピントがぼける原因になります。

リモコンRM-1（別売）を使って撮影する

P A S M

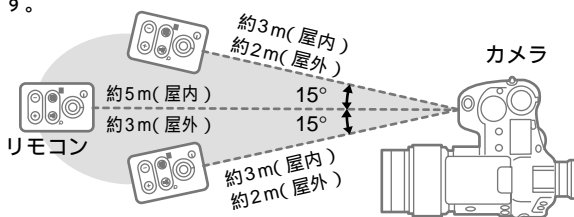
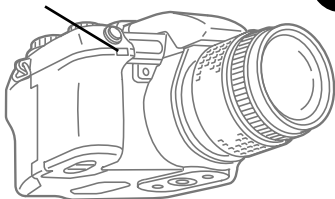
カメラをリモコンモードに設定すると、リモコンRM-1（別売）を使って、カメラから離れて撮影することができます。
リモコンRM-1の送信ボタンを押してから**2秒後**にシャッターが切れます。

1 モードダイヤルを、撮影モード（P、A、S、M）に合わせます。

2 液晶モニタを表示しているときは（液晶モニタボタン）を押して表示を消します。
液晶モニタを表示しているときは、リモコンを使用できません。

3 DRIVE（ドライブボタン）を押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを、コントロールパネルにが表示されるまで回します。

4 カメラを三脚などに固定し、構図を決めます。
（被写体が構図の中央にないとき→P.65）
自分を写すときはAFターゲットマークの場所を覚えておいて、そこに立ってください。

リモコンの有効範囲

リモコンは、有効範囲の中でカメラに向けて使ってください。
リモコン受信窓に太陽などの強い光があたっていたり、蛍光灯やネオンランプや電波を出す機器が近くにあるときは、リモコンの有効範囲が狭くなり、リモコンを受け付けにくくなることがあります。

5 ファインダから光が入らないようにアイピースシャッターを閉じます。
ファインダ左下のレバーを下げます。
（ファインダから光が入ると画像が白っぽくなることがあります）

6 リモコンをカメラに向けて、送信ボタンを押します。
カメラのリモコン受信窓が2秒間点滅し、シャッターが切れます。

つづけて撮影したいときは、もう一度リモコンの送信ボタンを押してください。

送信ボタンを押しても撮影されないときは

●リモコンの電池がなくなっていませんか？
電池の寿命は使用状況や環境で異なりますが、約5年です。
●リモコンは有効範囲の中で使っていますか？
●カメラのリモコン受信窓に強い光があたっていませんか？
●リモコンのチャンネルは合っていますか？
リモコンの取扱説明書をご覧ください。

シャッターボタンで撮影したいときは

（リモコン）が表示されていても、シャッターボタンを押すとシャッターが切れます。

リモコン撮影のヒント

明るいときはリモコン受信窓の点滅が見えにくくなり、撮影されたのかどうか確認できないことがあります。
このようなときは内蔵フラッシュを強制発光モードにしておくとよくわかります。

リモコンモードを解除するには

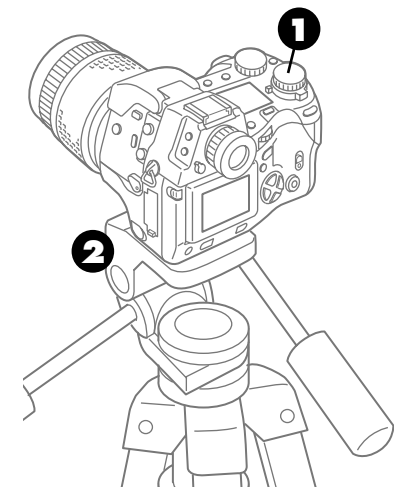
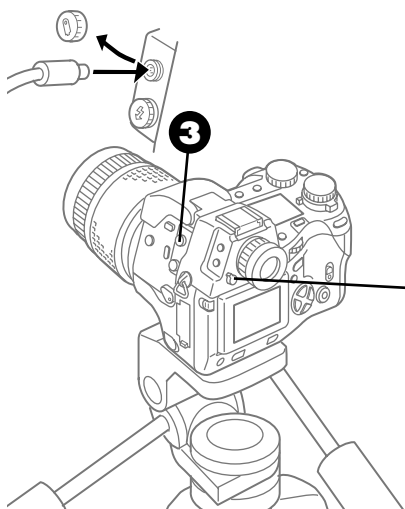
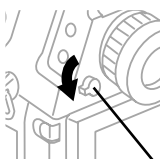
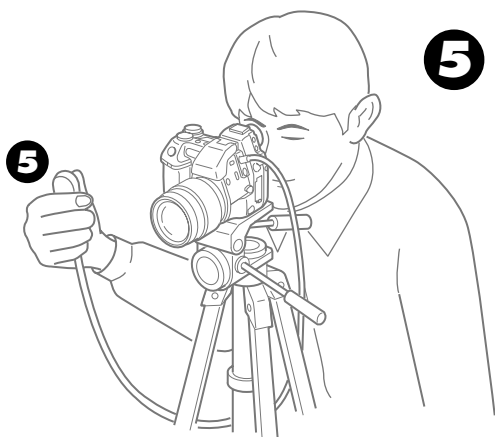
DRIVE（ドライブボタン）を押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを回して、を消して、リモコンモード以外のモードにします。
また、電源を切るとリモコンモードは解除されます。

注意

リモコンは幼児の手が届かないところに保管してください。万一、飲み込んだときは、すぐに医師に相談してください。
リモコンを分解したり加熱したり、火中に投入することは、危険なので、絶対にしないでください。

リモートケーブルRM-CB1(別売)で撮影する

P A S M

リモートケーブルRM-CB1(別売)を使うと、マクロや望遠での撮影や、バルブ撮影などの長時間露出のときに三脚と併用してカメラぶれを防ぐことができます。
カメラのリモートケーブル端子に接続して使います。
半押しや全押しロック(バルブ撮影のためにシャッターボタンを全押しした状態でロックすること)もできます。

1. **モードダイヤルを、撮影モード(P、A、S、M)に合わせます。**
2. **カメラを三脚などに固定し、構図を決めます。**
3. **リモートケーブル端子のキャップをはずして、リモートケーブルを差し込みます。**
   キャップはなくさないようにご注意ください。(リモートケーブル側にキャップ取り付けネジがついています)
4. **ファインダをのぞかないで撮影するときは、光が入らないように、アイピースシャッターを閉じます。**
   ファインダ左下のレバーを下げます。(ファインダから光が入ると画像が白っぽくなることがあります)

5 リモートケーブルのシャッターボタンを押して撮影します。

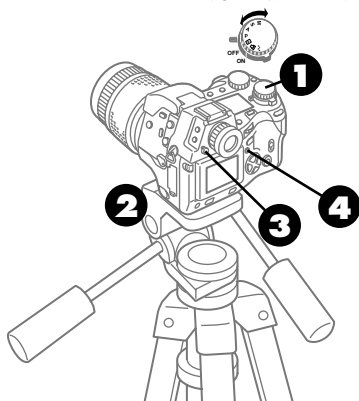
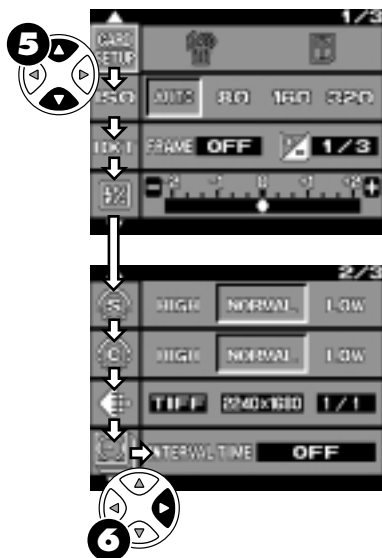
リモートケーブルを接続していても、カメラのシャッターボタンは使えます。

注意

リモートケーブル端子はリモートケーブルＲＭ-ＣＢ１専用です。他のリモートケーブルは使用できません。

一定時間ごとに自動的に撮影する(インターバル撮影)

P A S M

メニューでインターバル時間を設定すると、設定した間隔で自動的に撮影できます。
例えば、インターバル時間を5分に設定して花が開いていく様子などを撮ることができます。
インターバル時間は1分から24時間まで1分刻みで設定できます。(実際の撮影間隔は設定値と若干異なりますのでご注意ください)
電池がなくなったり、カードに空きがなくなるまでインターバル撮影が続きます。途中でやめたいときは電源を切ってください。

1. **モードダイヤルを、撮影モード(P、A、S、M)に合わせます。**
2. **カメラを三脚などに固定し、構図を決めます。**
   必要に応じて、フラッシュ、ズーム、露出、ピントなどの設定をします。
3. **ファインダから光が入らないように、アイピースシャッターを閉じます。**
4. **(メニューボタン)を押します。**
   液晶モニタにメニューが表示されます。
5. **十字ボタンの▽または△を押して、緑の選択枠を に移動します。**
6. **十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を右に移動します。**
   OFFが消えて前回設定した時間が表示されます。

時間　分

インターバル撮影中の画面

インターバル撮影した枚数

パワースイッチをOFFにすると終了

インターバル設定時間

7 撮影する間隔を時間→分の順に設定します。

十字ボタンの△を押すと数字が増え、▽を押すと減ります。

●時間

時間を設定してOKボタンを押します。

⇕が分に移動します。

●分

分を設定してOKボタンを押します。

撮影を始めるかを確認するYES／NOが表示されます。

8 十字ボタンの◁を押して、緑の選択枠をYESに移動し、OKボタンを押します。

撮影が行われ、液晶モニタにインターバル撮影情報（撮影枚数・インターバル設定時間）が約5秒間表示されます。

その後、次の撮影が始まるまでスリープ状態（電池節約状態）になり、すべての表示が消えます。

途中で止めるときは、一度電源を切ってください。

実際の撮影間隔について

メニューで設定するインターバル時間は、スリープ状態になってから次の撮影が開始されるまでの時間です。実際の撮影間隔は、これに次の動作の時間が加算されたものになります。

・露出時間（シャッタースピードによる）
・カード記録時間（画質モードによる。数秒〜数十秒）
・インターバル撮影情報表示時間（約5秒）
・フラッシュ充電時間（フラッシュ撮影時。約7秒）

（1コマ目撮影から2コマ目撮影までの撮影間隔に限り、誤差が大きくなります。2コマ目以降は、上記撮影間隔になります）

途中で画像を見たいとき

インターバル撮影を解除してください。

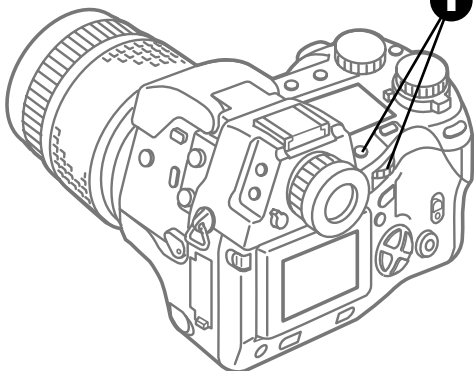
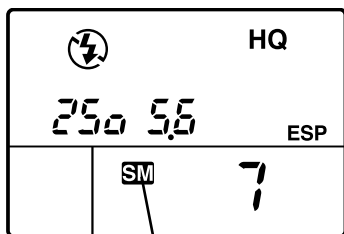
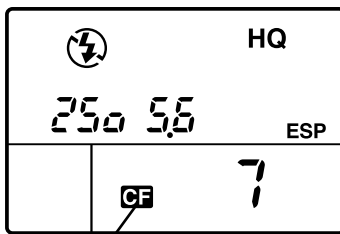
注意

・カメラの設定を変更する場合はインターバル撮影を解除してください。
（インターバル撮影中にカメラの設定を変更するとインターバル撮影が解除されることがあります。また、設定の変更ができないことがありますが故障ではありません）
・電池がなくなるとインターバル撮影が解除されます。別売のリチウムポリマ電池やＡＣアダプタのご使用をお勧めします。
・カメラは屋内の直射日光が当たらない場所に設置し、三脚などでしっかり固定してください。直射日光がレンズに当たるとカメラ内部のＣＣＤが故障するおそれがあります。
・２４時間連続運転等、過酷な条件でのご使用はお避けください。
・カメラを長時間設置して風景などを撮影する場合、構図に太陽が長時間入ってしまい、ＣＣＤを損傷することがありますのでご注意ください。
・短い間隔で長時間のインターバル撮影を行うとフラッシュ等の劣化が著しくなります。これにより生じた不良は保証の対象外ですので、ご使用にあたってはご注意ください。

画像を記録するカードを切り替える SM CF

P A S M

撮影した画像は、コントロールパネルに表示されているカードに記録されます。スマートメディアはSM、コンパクトフラッシュはCFと表示されます。
記録するカードは選ぶことができます。

1 SM/CFボタンを押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを回します。
コントロールパネルでSMとCFが交互に切り替わります。

電源を入れたとき

自動的に前回記録したカードが選ばれます。
また、スマートメディア(SM)とコンパクトフラッシュ(CF)のどちらか一方だけがセットされてるときは、セットされている方が自動的に選ばれます。

コントロールパネルに「ーーー!」が点滅するとき

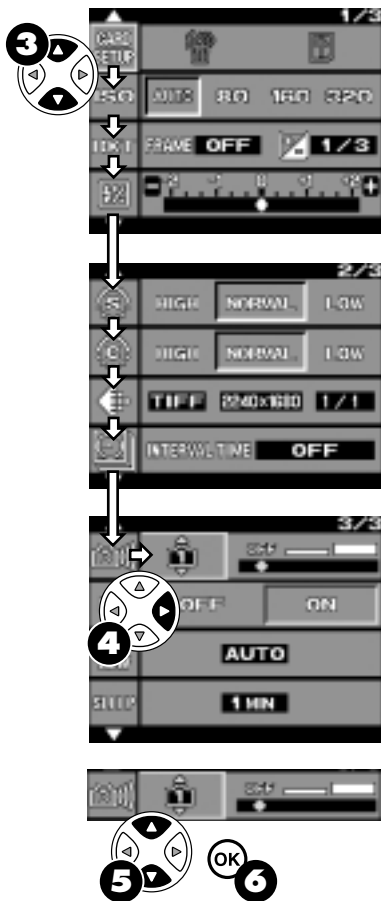
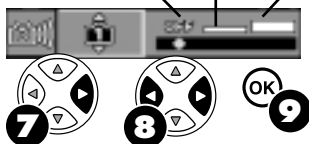
選んだカードが入っていません。カードを入れてください。

撮影　その他

シャッター音の種類と音量を設定する

メニューでシャッター音の種類と音量を設定できます。

シャッター音の種類は と の2種類から選択できます。

音量は3段階で選択できます。OFFを選択するとスピーカからの音は出なくなります。

1. モードダイヤルを撮影モード(P、A、S、M)に合わせます。
2. (メニューボタン)を押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。
3. 十字ボタンの▽または△を押して、緑の選択枠をに移動します。
4. 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を右へ移動します。
5. 十字ボタンの▽を押して、シャッター音の種類をとから選択します。
6. OKボタンを押します。

7 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を音量設定に移動します。

8 十字ボタンの◁または▷を押して、設定したい音量に■を移動します。

9 (OK)ボタンを押します。

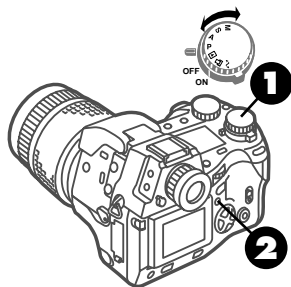
音の種類と音量が設定され、緑の選択枠がに移動します。
もう一度(OK)ボタンを押すとメニューが消えます。

こんなときに使います

撮影される人が次のポーズをとりやすいように、シャッターが切れたことを音で知らせます。
また、リモコン撮影でもシャッターが切れたことがわかって便利です。

ビープ音を鳴らす / 消す

P A S M

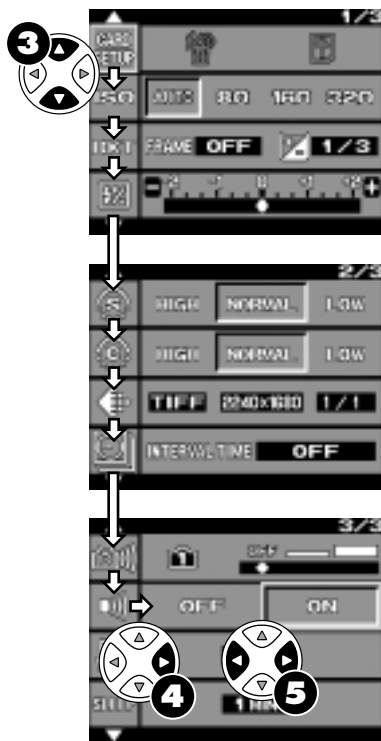
ピントが合ったとき（ピピッ）など、確認のために音が鳴ります。この音を消すことができます。

1 **モードダイヤルを撮影モード（P、A、S、M）に合わせます。**

2 **（メニューボタン）を押します。**
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 **十字ボタンの▽または△を押して、緑の選択枠をに移動します。**

4 **十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を右に移動します。**

5 **十字ボタンの◁または▷を押して、ビープ音を消すときはOFF、鳴らすときはONに緑の選択枠を移動します。**

6 **OKボタンを押します。**
選んだものが設定され、緑の選択枠がに移動します。
もう一度OKボタンを押すとメニューが消えます。

撮影直後に自動的に撮影画像を表示する

P A S M

撮影直後に、撮影した画像を自動的に液晶モニタに表示することができます。表示時間は、次の3つから選択できます。

OFF	表示しない
AUTO	カードに書き込んでいる間だけ表示する
5sec	5秒間だけ表示する

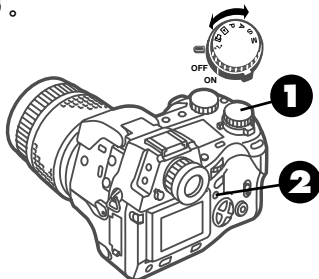
1. モードダイヤルを撮影モード（P、A、S、M）に合わせます。
2. （メニューボタン）を押します。
   液晶モニタにメニューが表示されます。
3. 十字ボタンの▽または△を押して、緑の選択枠をに移動します。
4. 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を右に移動します。
5. 十字ボタンの▽または△を押して、設定したい表示時間を表示させます。
6. OKボタンを押します。
   表示時間が設定され、緑の選択枠がに移動します。
   もう一度OKボタンを押すとメニューが消えます。

日付、時刻を設定する

カメラの時計を合わせます。撮影すると、その時計にしたがって日付と時刻が画像に記録されます。

年月日の順序は次の3種類から選択できます。

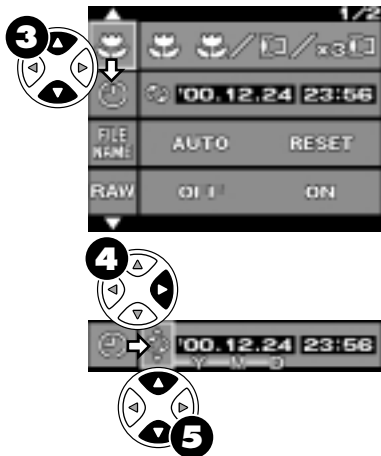
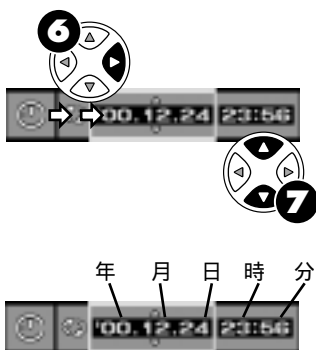
−D−M−Y	日.月.'年
−Y−M−D	'年.月.日.
−M−D−Y	月.日.'年

プリント予約のとき、日付を印刷する設定にすると、ここで設定した順序で印刷されます。

1 モードダイヤルを（カメラ設定/接続モード）に合わせます。

2 （メニューボタン）を押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 十字ボタンの▽または△を押して、緑の選択枠をに移動します。

4 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠をに移動します。
日付の下に「-Y-M-D」などの年月日の順序が表示されます。Yは年、Mは月、Dは日を表します。

5 十字ボタンの▽または△を押して、設定したい年月日の順序を表示させます。

6 **十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を日付の表示に移動します。**
年の上下に⇕が表示されます。

7 **現在の日時を、年（西暦年の下2桁）→月→日→時→分の順に設定します。**
十字ボタンの△を押すと増え、▽を押すと減ります。設定したらOKボタンを押すと、次の項目に移ります。
最後に分を設定してOKボタンを押すと、日付の順序と日時が設定され、緑の選択枠がに移動します。中止したいときは、(メニューボタン)を押してください。もう一度OKボタンを押すとメニューが消えます。

注意

撮影した画像を、パソコンの一般のソフトウェアを使って加工すると、日付情報を含む撮影情報が消えてしまいます。加工して保存するときは、同じファイル名で上書きしないようご注意ください。
CAMEDIA Master 2.5（別売）をお使いいただければ、画像を加工した後も撮影情報を失わずに保存できます。

スリープまでの時間を設定する SLEEP

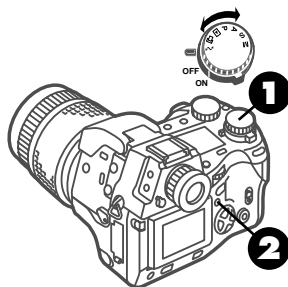
P A S M

撮影モード(P、A、S、M)のときは、何も操作をしないまま、設定した時間がたつと自動的に表示が消えてスリープ状態(電池節約状態)になります。
シャッターボタンの半押しなど、何らかのボタン操作をすると撮影可能な状態に復帰します。スリープ状態が1時間続くと自動的に電源が切れます。

OFF	スリープ状態にならない。 また、電源は自動的に切れない。
1MIN	**1分でスリープ状態になり、 1時間後に電源が切れる。**
2MIN	2分でスリープ状態になり、 1時間後に電源が切れる。
5MIN	5分でスリープ状態になり、 1時間後に電源が切れる。
10MIN	10分でスリープ状態になり、 1時間後に電源が切れる。

電源が切れたときは、パワースイッチをOFFにして、もう一度ONにすると電源が入ります。

注意

スリープ状態になると、液晶モニタとコントロールパネルの表示が消えます。
ACアダプタを接続しているときは、電源が自動的に切れることはありません。

❶ モードダイヤルを撮影モード(P、A、S、M)に合わせます。

❷ (メニューボタン)を押します。

液晶モニタにメニューが表示されます。

❸ 十字ボタンの▽または△を押して、緑の選択枠をに移動します。

❹ 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を右に移動します。

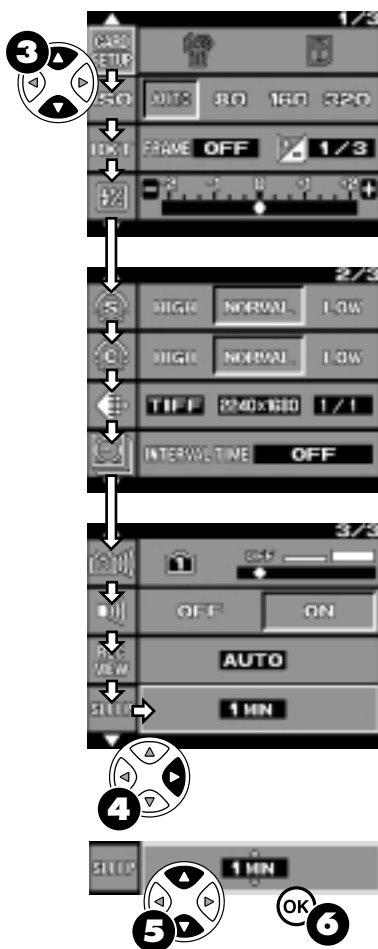
❺ 十字ボタンの▽または△を押して、設定したい時間を表示させます。

OFF、1MIN、2MIN、5MIN、10MINのいずれかを選びます。

❻ OKボタンを押します。

選んだ時間が設定され、緑の選択枠がに移動します。

もう一度OKボタンを押すと、メニューが消えます。

撮影 その他

設定を元に戻す（リセット）⚡+

Ｐ Ａ Ｓ Ｍ

⚡（フラッシュモードボタン）と（画質モードボタン）を同時に押すと、カメラの設定を初期状態（出荷時の状態）に戻すことができます。

この操作を行うと次の設定になります。

ドライブモード	1コマ撮影（連写、セルフタイマー、リモコンのどれでもない状態）
測光	デジタルESP
ホワイトバランス	オート
露出補正	±0
フラッシュ	オート発光
画質	HQ
液晶モニタのメニューで行った設定	P.173をご覧ください

ただし、この操作を行っても、次の設定は変わりません。

電池の種類

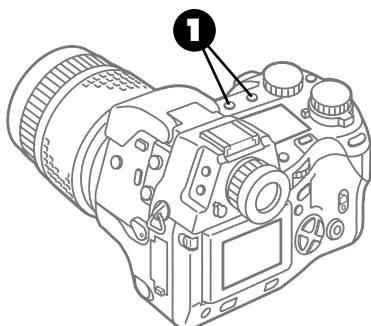
記録するカードの選択

日時

年月日の表示の順序

ズーム

モードダイヤルで設定したモード

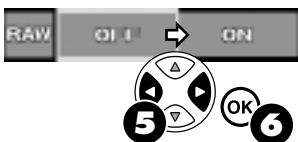
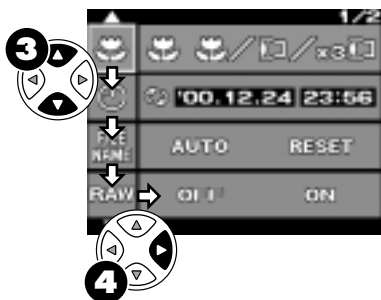
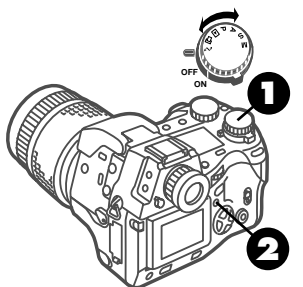
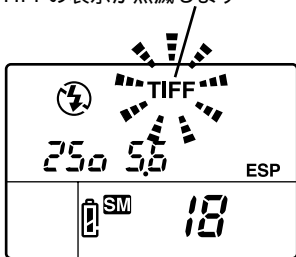
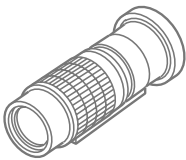
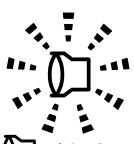
フォーカスモード（AF/MF）

1 **⚡（フラッシュモードボタン）と（画質モードボタン）を同時に押します。**

カメラの設定が出荷時の状態に戻ります。

RAWデータ撮影 RAW

CCD(撮像素子)からの生出力を10bit/チャンネルのデータで記録するように設定できます。記録された画像データ(RAWデータ)は拡張子「.orf」のファイルとして記録され、CAMEDIA Master 2.5(別売)で表示することができます。(特殊ファイルなので、一般のアプリケーションでは画像を表示できません)
CAMEDIA Master 2.5を使うと、カメラと同じ画像補正処理を自動的に行って、RAWデータを復元表示することができます。
ファイルサイズは、約7.6MBになります。

注意

RAWデータ撮影の設定は電源を切っても記憶されています。使用しないときはメニューでOFFに設定しなおしてください。
RAWデータ撮影のときは、縮小した大きさの画像(サムネイル画像)が液晶モニタに表示されます。もし、意図しないでRAWデータ撮影になっていたときは、メニューでOFFに設定してください。誤って撮影したRAWデータは、CAMEDIA Master 2.5(別売)(→P.180)で表示することができます。

RAWデータ撮影に設定するとTIFFの表示が点滅します

1. **モードダイヤルを（カメラ設定/接続モード）に合わせます。**
2. **（メニューボタン）を押します。**
   液晶モニタにメニューが表示されます。
3. **十字ボタンの▽または△を押して、緑の選択枠をに移動します。**
4. **十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を右に移動します。**
5. **十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠をONに移動します。**
   RAWデータ撮影を中止したいときは、緑の選択枠をOFFに移動してください。
6. **OKボタンを押します。**
   選んだ設定になり、緑の選択枠がに移動します。
   コントロールパネルでTIFFが点滅します。
   もう一度OKボタンを押すとメニューが消えます。
7. **モードダイヤルを撮影モード（P、A、S、M）に合わせて、撮影します。**

コンバージョンレンズ（別売）を使う

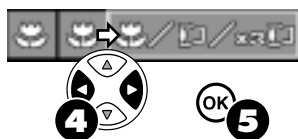
このカメラには、次のコンバージョンレンズを取り付けることができます。
コンバージョンレンズを使うときは、カメラのズームを合わせ、コントロールパネルにが表示された状態にしてからお使いください。表示に応じて、カメラは、ピントや露出の合わせかたを、コンバージョンレンズに合ったものに変えます。が表示されていない状態で使うとピントや露出が合わなくなることがあります。

コンバージョンレンズ		ズーム位置	コントロールパネルの表示
種類	取り付け方法		
3×エクステンションレンズ テレ300プロ TCON-300 F2.8 f=420mm相当 フィルター径49mm 全面マルチコート	サポートアーム使用	TELE	が点滅する状態にします
1.45×テレエクステンションレンズ プロ TCON-14B F2.4 f=200mm相当 フィルター径86mm 全面マルチコート	ねじ込み	TELE	が点灯する状態にします
0.8×ワイドエクステンションレンズ プロ WCON-08B F2 f=28mm相当 フィルター径105mm 全面マルチコート	ねじ込み	WIDE	
マクロエクステンションレンズ プロf=35mm MCON-35 F2～F2.4 約49mm×約37mmまで撮影可能 フィルター径72mm 全面マルチコート	ねじ込み	WIDE～TELE	

注意

- 内蔵フラッシュは影ができたりする（けられが発生する）ので使用できません。
- PL（偏光）フィルタなど厚いフィルタを使用したり、フィルタの段重ねをすると、周辺が暗くなります。フィルタの取り付けは可能ですが、フィルタの性能および効果についての保証はできません。

●（マクロボタン）でを選ぶことができるようにする

出荷時の設定では、（マクロボタン）を押しながらメインダイヤルを回してもは選ぶことができないように設定されています。を選ぶことができるように設定を変えてください。

1. **モードダイヤルを（カメラ設定/接続モード）に合わせます。**

2. **（メニューボタン）を押します。**
液晶モニタにメニューが表示されます。

3. **十字ボタンのを押して、緑の選択枠を右に移動します。**

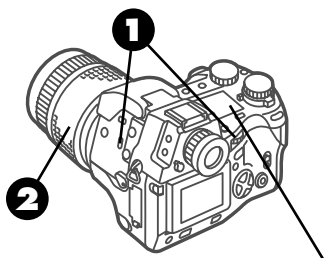
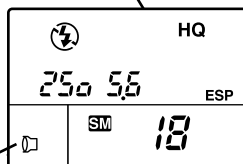
4. **十字ボタンのを押して、緑の選択枠をに移動します。**
コンバージョンレンズを使わないときは、を押して緑の選択枠をに移動します。

5. **ボタンを押します。**
選んだものが設定され、緑の選択枠がに移動します。
もう一度ボタンを押すとメニューが消えます。

●コンバージョンレンズを取り付けたら⌷を選ぶ

コンバージョンレンズを取り付けるときは、コントロールパネルに⌷が表示される状態にします。

1 ⌷(マクロボタン)を押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを回して、次のように設定します。

コンバージョンレンズの種類	コントロールパネルの表示
3×エクステンションレンズ テレ300プロ	⌷ 点滅
その他のコンバージョンレンズ	⌷ 点灯

2 コンバージョンレンズの種類にしたがって、ズーム位置を合わせます。(→P.133)

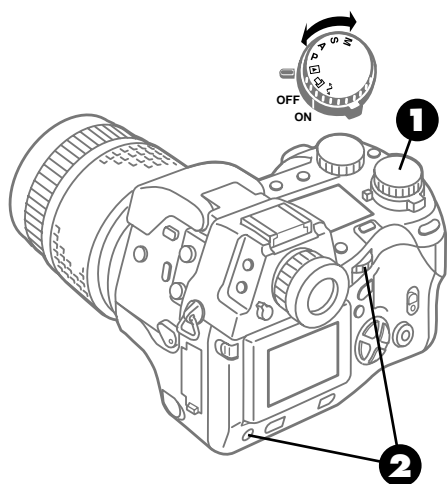
注意

- コンバージョンレンズを付けた後の合成Fナンバーはカメラの Fナンバーと同じですが、3×エクステンションレンズ テレ300プロのみ合成FナンバーがF2.8に変わります。F2.8以上でお使いください。
- コンバージョンレンズモードでは、AFはCCDによるピント合わせのみになります。コンバージョンレンズをつけた場合の撮影距離・撮影範囲等の詳細は、当社のホームページでご確認いただけます。
- コンバージョンレンズモードに設定しても、液晶モニタの撮影距離表示(→P.68)はコンバージョンレンズをつけないときの表示ですのでご注意ください。

再生　撮った画像を見る

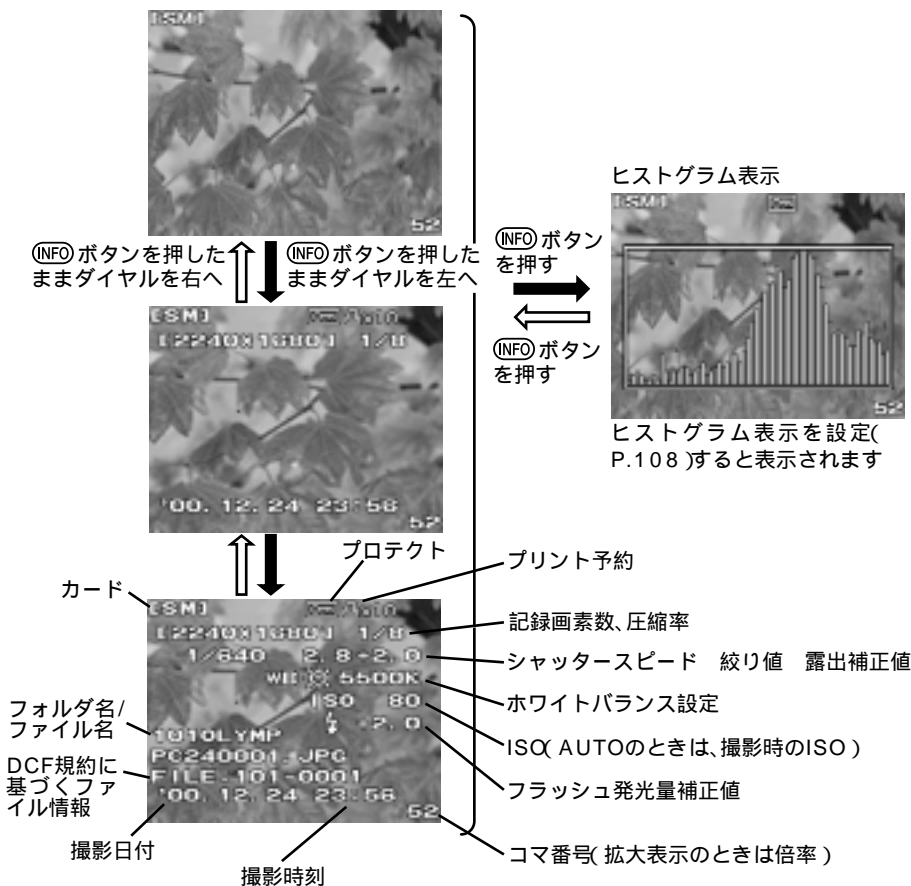
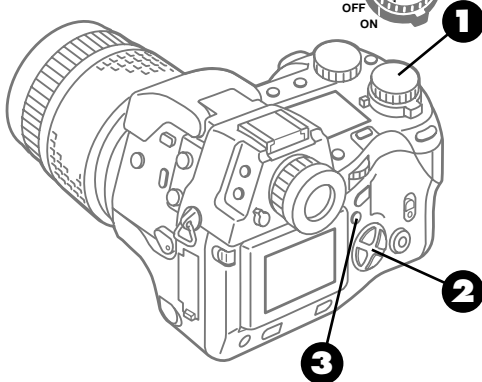
モードダイヤルを ▶（再生モード）に合わせると、撮影した画像を液晶モニタで見ること（再生）ができます。
モードダイヤルを撮影モード（P、A、S、M）にしているときでも、◎（液晶モニタボタン）をすばやく2回続けて押すと、同じように再生できます。
コマ送り、拡大表示、インデックス表示（一覧表示）の方法については、P.46をご覧ください。
この章では、再生時の撮影情報の表示、自動再生（スライドショー）、液晶モニタの明るさ、テレビでの再生について説明します。

撮影情報を表示する INFO

画質や撮影日時、シャッタースピード、絞り値などの撮影情報を、画像といっしょに液晶モニタに表示することができます。情報の表示のしかたには右ページの4つのパターンがあり、切り替えることができます。

1 モードダイヤルを ▶（再生モード）に合わせます。

モードダイヤルが、撮影モード（**P**、**A**、**S**、**M**）であれば、かわりに（液晶モニタボタン）をすばやく2回押しても再生モードにできます。

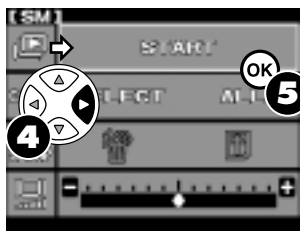
2 INFO（INFOボタン）を押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを回すと、次ページのように表示のパターンが切り替わります。

設定した表示のパターンは電源を切っても記憶されています。

注意

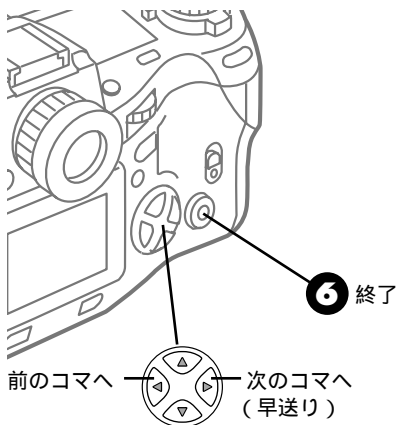
・撮影した画像を、パソコンの一般のソフトウェアを使って加工すると、日付情報を含む撮影情報が消えてしまいます。加工して保存するときは、同じファイル名で上書きしないようご注意ください。
CAMEDIA Master 2.5（別売）をお使いいただけば、画像を加工した後も撮影情報を失わず保存できます。
・画質（画質名）は表示されません。
・カード名とコマ番号は常に表示されます。

自動的に再生する（スライドショー）

カードに記録されている画像を、自動的に順番に表示することができます。現在選ばれている画像から順に約5秒間ずつ表示されます。最後の画像の後は1コマめからくり返します。

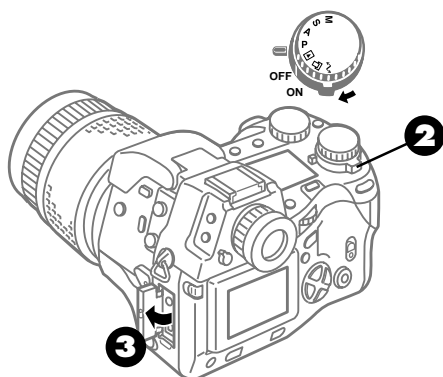
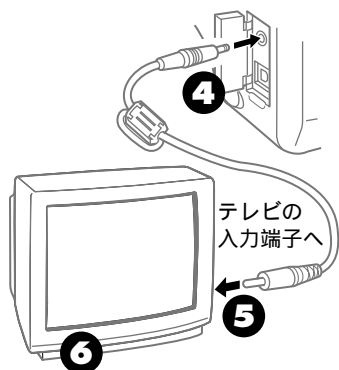
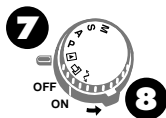
1. **モードダイヤルを ▶（再生モード）に合わせます。**
2. **十字ボタンを使って、表示を開始したいコマを表示します。**
   （拡大表示されているときは1コマ表示のスライドショーになります）
3. **（メニューボタン）を押します。**
   液晶モニタにメニューが表示されます。
   が緑の選択枠で囲まれています。

4 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠をSTARTに移動します。

5 ㊊ボタンを押します。
自動再生（スライドショー）が始まります。（十字ボタンの▷を押すと5秒待たずに次のコマを表示させることができます。◁を押すと前の表示に戻ります）

6 自動再生を終えるときは、㊊ボタンか▤ボタンを押します。

インデックス表示でのスライドショー

インデックス表示でスライドショーを行いたいときは、最初にメインダイヤルかサブダイヤルでインデックス表示にしておきます。

テレビに画像を表示する

付属のビデオケーブルでカメラとテレビをつなぐと、撮影した画像をテレビで見ることができます。ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。

1. **テレビの電源を切ります。**
2. **カメラのパワースイッチがOFFになっていることを確認します。**
   ONになっているときは、OFFにします。
3. **カメラのコネクタカバーを開けます。**
4. **ビデオケーブルの一方をカメラのビデオ出力端子に差し込みます。**
5. **ビデオケーブルのもう一方をテレビのビデオ入力端子に差し込みます。**
6. **テレビの電源を入れ、チャンネルをビデオ入力に合わせます。**
7. **カメラのモードダイヤルを▶（再生モード）に合わせます。**
8. **カメラのパワースイッチをONに合わせます。**
   テレビに、最後に撮った画像が表示されます。
   テレビで表示しているときは、液晶モニタには何も表示されません。

画像がテレビの中心からずれるとき

テレビの中にはこのように表示するものがあります。また、画像の端や隅が欠けて見えないことがあります。

画像のフチに黒い枠が表示されるとき

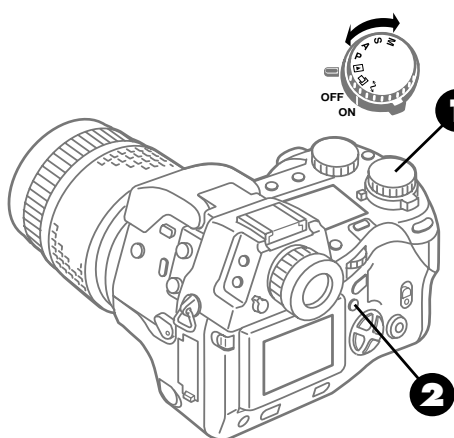
テレビの中にはこのように表示するものがあります。この現象が起きる状態でテレビからビデオプリンタに出力すると、黒い枠が目立つことがあります。

注意

テレビで表示している画像の明るさを、カメラで変えることはできません。

●他の画像の見方、インデックス表示（一覧表示）、拡大表示のしかた→P.46

液晶モニタの明るさを変える

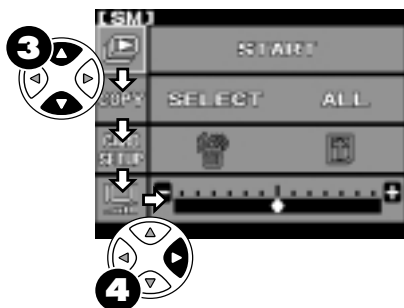
液晶モニタの表示の明るさを調整できます。

1. **モードダイヤルを▶（再生モード）に合わせます。**

2. **（メニューボタン）を押します。**
液晶モニタにメニューが表示されます。

3. **十字ボタンの▽または△を押して、緑の選択枠をに移動します。**

4. **十字ボタンの▷を押します。**
画像が表示され、明るさ調整モードになります。画像がないときはメニュー表示のままで明るさ調整モードになります。（撮影するか、画像が記録されているカードを入れて調整することをおすすめします）

5. **明るくしたいときは十字ボタンの▷を、暗くしたいときは◁を、適切な明るさになるまで押します。**

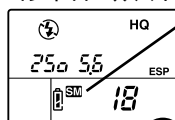
6. **OKボタンを押します。**
と目盛りが消えます。

画像の整理

ここでは、カードからカードへ画像をコピーする方法、カードの中の画像をすべて消す方法、カードをフォーマットする方法を説明します。
カードの中の画像を１枚だけ消す方法はP.51、プロテクトする（消せないようにする）方法はP.50をご覧ください。

画像をもうひとつのカードにコピーする COPY

スマートメディアとコンパクトフラッシュを両方セットしているときは、その一方からもう一方へ画像をコピーすることができます。元のカードに入っている画像は消されずに残ります。

●カードの中の画像をすべてコピーする

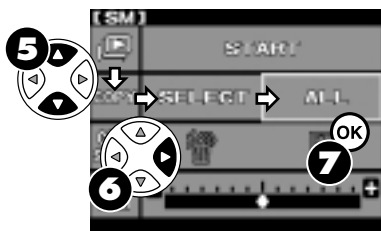
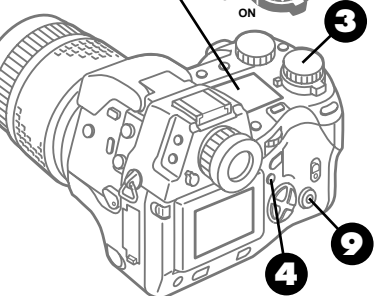
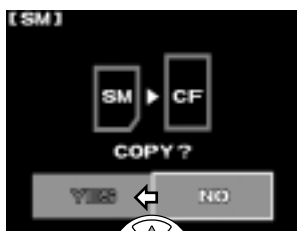
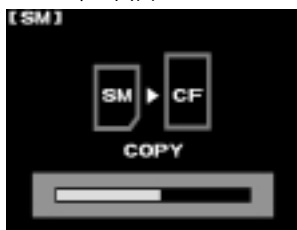
コピー先のカードに十分な空きがあれば、コピー元のカードの中の画像をすべてコピーすることができます。

1 コピー元とコピー先のカードを入れます。
（カードの入れかた→P.30）

2 コピー元のカードがコントロールパネルに表示されていないときは、表示を変えます。
SM/CFボタンを押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを回します。
スマートメディアはSM、コンパクトフラッシュはCFと表示されます。

3 モードダイヤルを ▶（再生モード）に合わせます。
最後に撮った画像が表示されます。

4 (メニューボタン)を押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

5 十字ボタンの▽または△を押して、緑の選択枠をCOPYに移動します。

6 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠をALLに移動します。

スマートメディアからコンパクトフラッシュにコピーするときの画面

コピー中の画面

7 **ⓄⓀボタンを押します。**
「COPY ?」と表示されます。
コピー元とコピー先を確認してください。
逆になっているときは、NOのままⓄⓀボタンを押して、❷の操作からやりなおしてください。

8 **十字ボタンの◁を押して、緑の選択枠をYESに移動します。**

9 **ⓄⓀボタンを押します。**
コピー中の画面が表示され、コピーが行われます。
コピーが終わると、最初に表示されていた画像が表示されます。

コピーできないとき

●NO CARDと表示されたとき
コピー先のカードが入っていません。入れてください。
●CARD FULLと表示されたとき
コピー先のカードの空きが足りません。コピー先のカードの空きを増やすか、「選んだ画像をコピーする」(→P.148)にしたがって必要な画像だけコピーしてください。
●WRITE PROTECTと表示されたとき
コピー先のカードにライトプロテクトシールが貼られています。新しいカードと交換してください。

コピーしたファイルのフォルダとファイル名

コピー先に新しいフォルダが作られ、新しいファイル名でコピーされます。ファイル作成日時(タイムスタンプ)は、コピー元の撮影日時と同じになります。

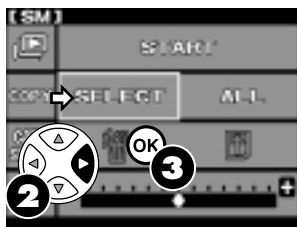
このカメラ以外で撮った画像のコピー

このカメラはDCF形式(→P.194)で画像を記録します。
このため、DCF形式で記録された画像のみコピーできます。他の形式で記録された画像はコピーできません。

注意

電源を切ったり、モードダイヤルを変更したり、カードカバーをあけたりするとコピーが途中終了してしまいます。再開はできません。

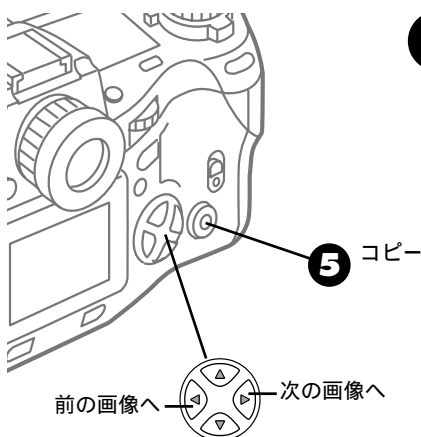
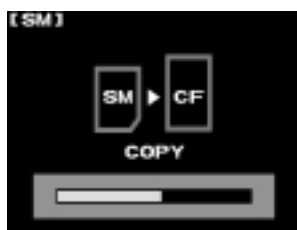
●選んだ画像をコピーする

カメラに入れた2種類のカードの間で、画像を1コマずつコピーすることができます。

1 **「カードの中の画像をすべてコピーする」(→P.146)の❶～❺の操作を行います。**
COPYが緑の選択枠で囲まれます。

2 **十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠をSELECTに移動します。**

3 **OKボタンを押します。**
画像が表示されます。

4 **十字ボタンの◁▷を押して、コピーしたい画像を表示します。**

5 **OKボタンを押します。**
コピー中の画面が表示され、コピーが行われます。
コピーが終わると、最初に表示されていた画像が表示されます。
コピーの操作を終了するときは、(メニューボタン)を押します。

コピー中の画面

コピーできないとき

●NO CARDと表示されたとき

コピー先のカードが入っていません。入れてください。

●CARD FULLと表示されたとき

コピー先のカードの空きが足りません。コピー先のカードの空きを増やしてください。

●WRITE PROTECTと表示されたとき

コピー先のカードにライトプロテクトシールが貼られています。新しいカードと交換してください。

コピーしたファイルのフォルダとファイル名

コピー先で最大のフォルダ番号のフォルダに、新しいファイル名でコピーされます。

フォルダがないときは、新しいフォルダが作られます。

ファイル作成日時(タイムスタンプ)は、コピー元の撮影日時と同じになります。

このカメラ以外で撮った画像のコピー

このカメラはDCF形式(→P.194)で画像を記録します。

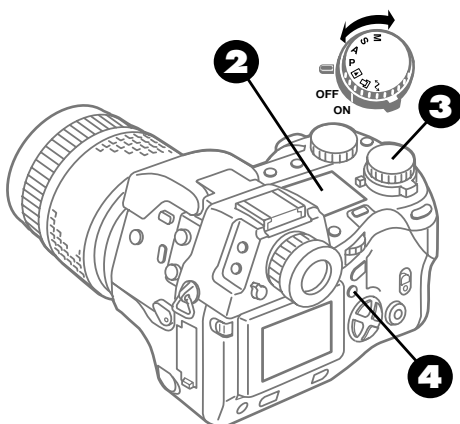
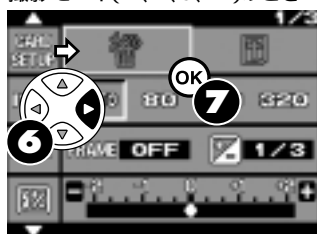
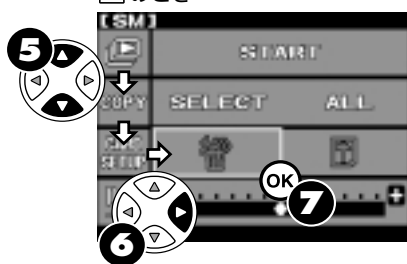
このため、DCF形式で記録された画像のみコピーできます。他の形式で記録された画像はコピーできません。

注意

電源を切ったり、モードダイヤルを変更したり、カードカバーをあけたりするとコピーが途中終了してしまいます。再開はできません。

画像を全コマ消去する

P A S M ▶

カード（スマートメディア、コンパクトフラッシュ）に記録されている画像をすべて、一度に消すことができます。

撮影モード（P、A、S、M）のとき

▶のとき

1 画像を消去したいカードをセットします。
（カードの入れかた→P.30）

2 画像を消去したいカードがコントロールパネルに表示されていないときは、表示を変えます。
SM/CFボタンを押しながら、メインダイヤルかサブダイヤルを回します。
スマートメディアはSM、コンパクトフラッシュはCFと表示されます。

3 モードダイヤルを撮影モード（P、A、S、M）か、▶（再生モード）に合わせます。

4 （メニューボタン）を押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

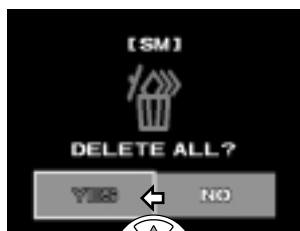
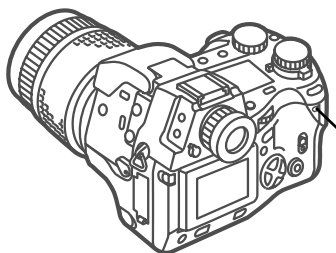
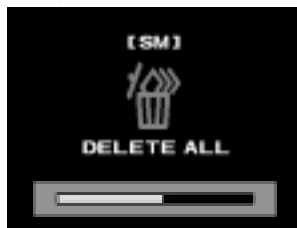
5 モードダイヤルを▶にしたときは、十字ボタンの▽または△を押して、緑の選択枠をに移動します。

6 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠をに移動します。

7 OKボタンを押します。
「DELETE ALL？」と表示されます。

消去中の画面

8 **十字ボタンの◁を押して、緑の選択枠をYESに移動します。**

9 **OKボタンを押します。**
消去中の画面が表示され、消去が行われます。プロテクトされている画像は消去されずに残ります。
消去中はカードアクセスランプが点滅し、消去が終わると消えます。

カードアクセスランプ
消去中は点滅し、消去が終わると消えます。

消去できない画像

プロテクトされている画像は消去できません。プロテクトされている画像を消去したいときは、プロテクトをはずして（→P.50）から消去するか、カードをフォーマットして（→P.152）ください。
DCF形式（→P.194）で記録された画像以外は消去されません。他の形式で記録された画像を消去したいときは、1コマずつ消去する（→P.51）か、カードをフォーマットして（→P.152）ください。

注意

500枚の画像を消去するのに数秒かかります。
カードアクセスランプが点滅中は決して電源を切ったり、モードダイヤルを回したり、カードカバーを開けたりしないでください。

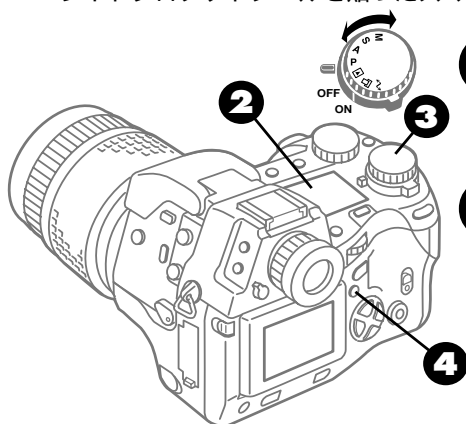
●1枚ずつ消す方法→P.51

カードをフォーマットする

P A S M ▶

パソコンなど他の機器でフォーマットされたカードや、他社製のカードは、フォーマット形式が異なる場合があります。お使いになる場合は、あらかじめこのカメラでフォーマットしてください。
フォーマットすると、カードに記録されている画像などはすべて消去されます。大切な画像はパソコンなどに保存しておきましょう。
ライトプロテクトシールを貼ったスマートメディアはフォーマットできません。

撮影モード（P、A、S、M）のとき

▶のとき

1 フォーマットしたいカードをセットします。
（カードの入れかた→P.30）

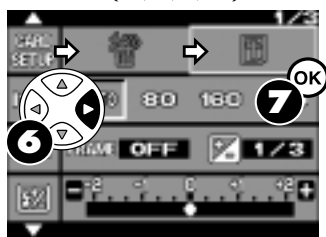
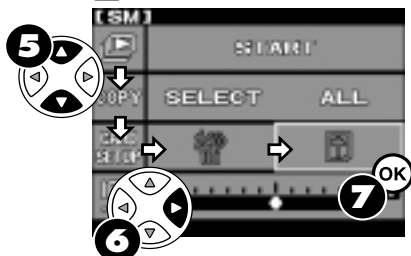
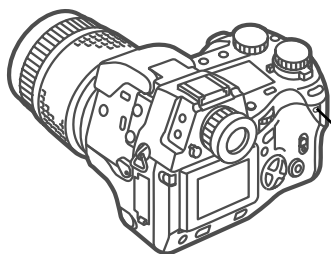
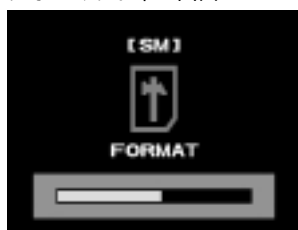
2 フォーマットしたいカードがコントロールパネルに表示されていないときは、表示を変えます。
SM/CFボタンを押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを回します。
スマートメディアはSM、コンパクトフラッシュはCFと表示されます。

3 モードダイヤルを撮影モード（P、A、S、M）か、▶（再生モード）に合わせます。

4 ▤（メニューボタン）を押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

5 モードダイヤルを▶にしたときは、十字ボタンの▽または△を押して、緑の選択枠を に移動します。

6 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を に移動します。

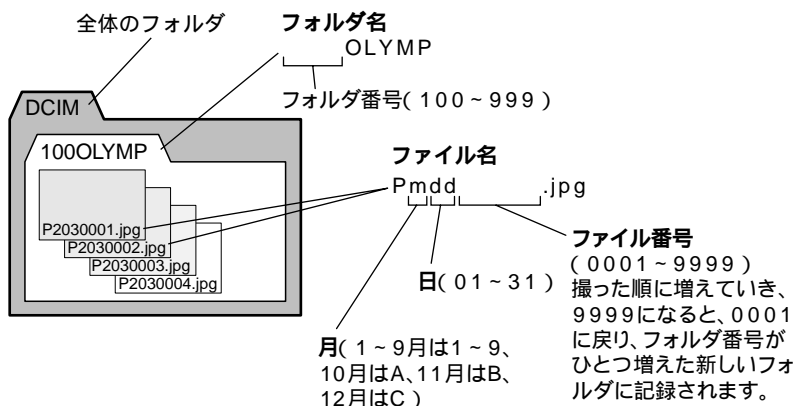
7 **OK ボタンを押します。**
「FORMAT？」と表示されます。

8 **十字ボタンの◁を押して、緑の選択枠をYESに移動します。**

9 **OK ボタンを押します。**
フォーマット中の画面が表示され、フォーマットが行われます。プロテクトされていた画像も含めて、すべての画像がなくなります。
フォーマット中はカードアクセスランプが点滅し、フォーマットが終わると消えます。

フォーマット中の画面

カードアクセスランプ
フォーマット中は点滅し、フォーマットが終わると消えます。

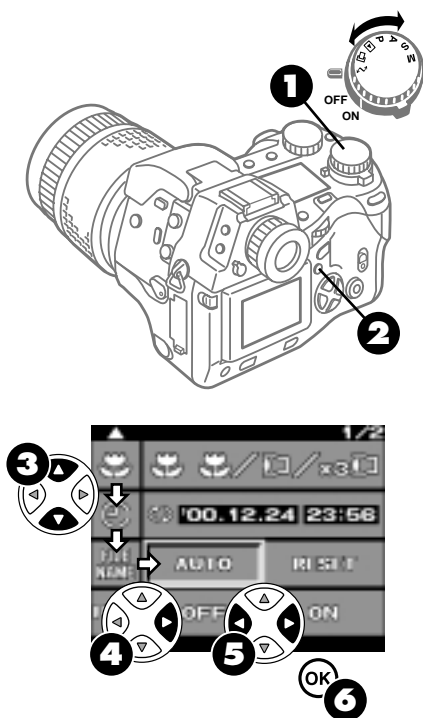
注意

カードをフォーマットするには数秒かかります。
カードアクセスランプが点滅中は決して電源を切ったり、モードダイヤルを回したり、カードカバーを開けたりしないでください。

ファイル名の付けかたを切り替える

撮影した画像は、カードに記録されるときに、ファイル名が付けられ、フォルダに入れられます。
ファイル名とフォルダ名は、図のように付けられます。

カードを入れ替えたり、切り替えたときの番号の付けかたには、RESETとAUTOの2種類の設定があります。出荷時は、AUTOに設定されています。

RESET
新しく撮った画像には、カードの中のファイル番号の次のファイル番号が付けられます。カードの中にファイルがないと、0001からファイル番号が付けられます。

AUTO
そのカメラで最後に撮った画像の次のファイル番号が付けられます。したがって、何枚かのカードを入れ替えながら使ったり、カードを切り替えながら使っても、ファイル名が重複しません。
記録しようとするカードの中に、最後に撮った画像のファイル番号よりも大きいファイル番号の画像があるときは、そのカードの中のもっとも大きいファイル番号に続いた番号が付けられて記録されます。

1. モードダイヤルを（カメラ設定/接続モード）に合わせます。

2. （メニューボタン）を押します。
   液晶モニタにメニューが表示されます。

3. 十字ボタンの▽または△を押して、緑の選択枠をに移動します。

4. 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を右に移動します。

5. 十字ボタンの◁または▷を押して、緑の選択枠をAUTOかRESETに移動します。

6. OKボタンを押します。
   ファイル番号の付けかたが設定され、緑の選択枠がに移動します。
   もう一度OKボタンを押すとメニューが消えます。

注意

- カードの中にOLYMPフォルダがない場合は、新しくOLYMPフォルダが作成され、そこに記録されます。
- フォルダ番号が999、ファイル番号が9999になると、それ以上画像を撮れなくなります。カードを交換してください。（→P.30）

プリント予約

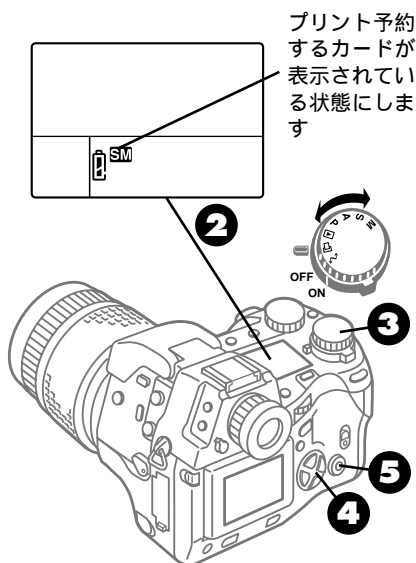
このカメラで撮影した画像は、DPOF(→P.166、194)対応プリンタや、DPOF対応のプリントショップでプリントすることができます。
この章では、DPOF対応プリンタやプリントショップでプリントするための、プリント予約の方法を説明します。

プリントする画像を選び枚数を予約する

プリント予約する画像を選んで、プリントする枚数を画像ごとに指定することができます。

指定したプリント枚数はカードに記憶されます。

DPOF対応のプリンタやプリントショップでプリントすると、記憶されているプリント枚数にしたがってプリントされます。

1枚のカードにつき、予約できる画像数は最大998コマです。1コマにつき10枚までプリント予約できます。

1 プリント予約するカードをセットします。

（カードの入れかた→P.30）

2 プリント予約するカードがコントロールパネルに表示されていないときは、表示を変えます。

SM/CFボタンを押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを回します。

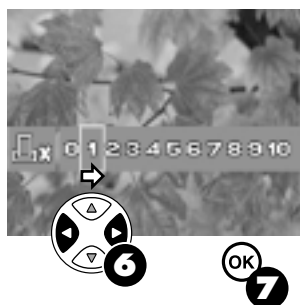
スマートメディアはSM、コンパクトフラッシュはCFと表示されます。

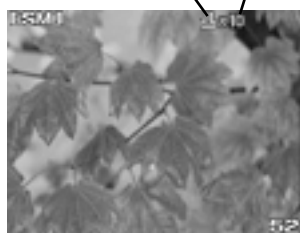
3 モードダイヤルを（プリント予約モード）に合わせます。

最後に撮った画像が液晶モニタに表示されます。

4 プリント予約する画像を表示します。

インデックス表示（一覧表示）でも選択できます（→P.49）。十字ボタンの◁▷△▽を押してプリント予約する画像に緑の選択枠がついた状態にします。

プリントする枚数を指定する

プリント予約マーク

プリントする枚数

5 **OKボタンを押します。**

0～10の数字が表示されます。

6 **十字ボタンの◁または▷を押して、緑の選択枠をプリントしたい枚数に移動します。**

7 **OKボタンを押します。**

プリント予約した画像にマークが表示され、×の右にプリントする枚数が表示されます。

他の画像もプリント予約したいときは、❹の操作からくり返してください。

カードのほとんどの画像を1枚ずつプリント予約するとき

先にすべてをプリント予約して(→P.160)、それから1枚ずつ予約枚数を変更したほうが簡単です。

プリント予約を解除するには

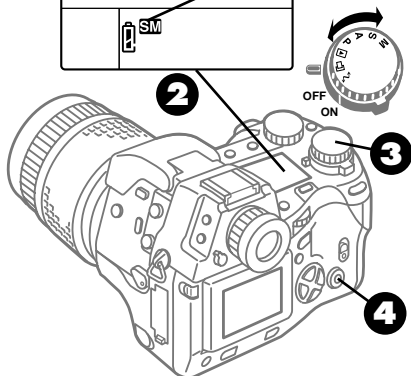
プリント予約するときと同じように操作し、プリントする枚数で「0」を選びます。

●全部をまとめて解除する方法→P.161

注意

- RAWデータ撮影した画像はプリント予約できません。
- DPOF対応プリンタの対応レベルは機種によって異なるため、予約どおりにプリントできないことがあります。(→P.166)

カードの中のすべての画像をプリント予約する

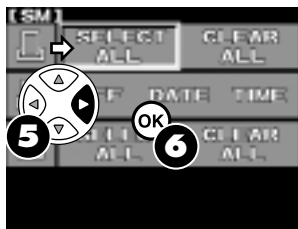
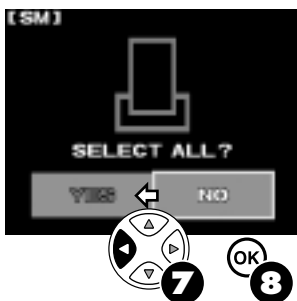
カードに記録されているすべての画像が1枚ずつプリントされるように予約をすることができます。

1 プリント予約するカードをセットします。
（カードの入れかた→P.30）

2 プリント予約するカードがコントロールパネルに表示されていないときは、表示を変えます。
SM/CFボタンを押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを回します。
スマートメディアはSM、コンパクトフラッシュはCFと表示されます。

3 モードダイヤルを（プリント予約モード）に合わせます。
最後に撮った画像が液晶モニタに表示されます。

4 （メニューボタン）を押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

5 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠をSELECT ALLに移動します。

6 OKボタンを押します。
「SELECT ALL？」と表示されます。

❼ 十字ボタンの◁を押して、緑の選択枠をYESに移動します。

❽ ⓞⓚボタンを押します。
プリント予約中の画面が表示されます。
プリント予約が終わると、最初に表示されていた画像が表示されます。

全コマ予約する前に行ったプリント予約は

この操作(全コマ予約)を行うと「プリントする画像を選び枚数を予約する」(→P.158)で行ったプリント予約はすべて1枚ずつの設定になります。

全コマ予約後に撮影した画像は

この操作(全コマ予約)を行った後で撮影した画像は、プリント予約されません。予約に追加したい場合は、予約をしなおしてください。再度、全コマ予約を行った場合、予約後に撮影したものだけでなくすべての画像に対して予約処理が行われます。

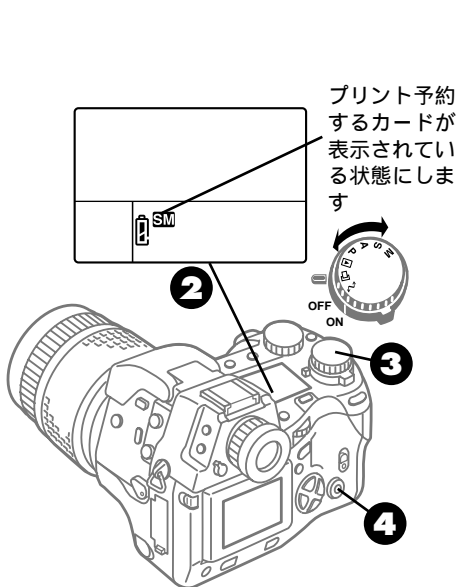
すべての画像のプリント予約を解除するには

❺の操作で、緑の選択枠をCLEAR ALLに移動します。
あとは同じように操作します。

注意

- カードの中の画像数が多いと、予約処理に時間がかかることがあります。
  予約中に電源が切れたり、カードカバーを開けたりすると途中で終了してしまいます。予約する前に電池残量が十分な電池と交換するか、ACアダプタをご使用ください。
  途中で終了した場合は、やりなおしてください。
- RAWデータ撮影(→P.131)した画像はプリント予約できません。
- DPOF対応プリンタの対応レベルは機種によって異なるため、予約どおりにプリントできないことがあります。(→P.166)

インデックスプリントを予約する

カードに記録されているすべての画像のインデックスプリントを行うように予約できます。

1 インデックスプリントを予約するカードをセットします。
（カードの入れかた→P.30）

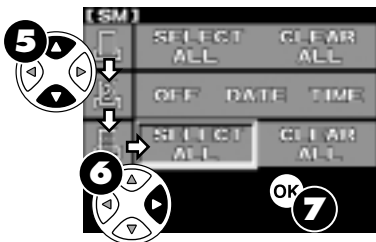
2 インデックスプリントを予約するカードがコントロールパネルに表示されていないときは、表示を変えます。
SM/CFボタンを押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを回します。
スマートメディアはSM、コンパクトフラッシュはCFと表示されます。

3 モードダイヤルを（プリント予約モード）に合わせます。
最後に撮った画像が液晶モニタに表示されます。

4 （メニューボタン）を押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

5 十字ボタンの▽または△を押して、緑の選択枠をに移動します。

6 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠をSELECT ALLに移動します。

7 OKボタンを押します。
「SELECT ALL？」と表示されます。

8 十字ボタンの◁を押して、緑の選択枠をYESに移動します。

9 OKボタンを押します。
プリント予約中の画面が表示されます。プリント予約が終わると、最初に表示されていた画像が表示されます。

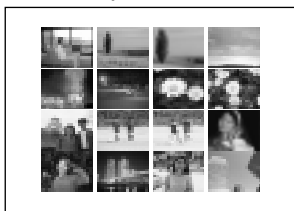
インデックスプリント予約後に撮影した画像は

メニューのマークに「！」がつきます。予約後に撮った画像もインデックスプリントしたいときは、予約の操作をやりなおしてください。

インデックスプリント予約を解除するには

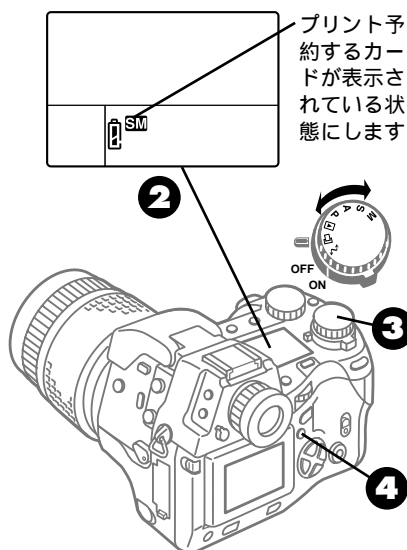
❻ の操作で、緑の選択枠をCLEAR ALLに移動します。あとは、同じように操作します。

インデックスプリントとは

インデックスプリントとは図のように複数の画像を並べたプリントです。1枚のプリントに出す画像の数はプリンタによって異なります。

注意

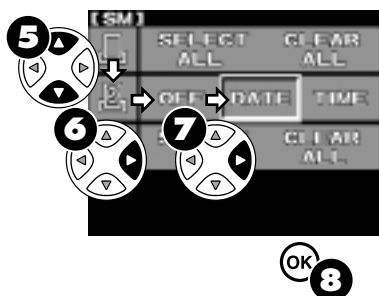
- カードの中の画像数が多いと、予約処理に時間がかかることがあります。
  予約中に電源が切れたり、カードカバーを開けたりすると途中で終了してしまいます。予約する前に電池残量が十分な電池と交換するか、ACアダプタをご使用ください。
  途中で終了した場合は、やりなおしてください。
- RAWデータ撮影(→P.131)した画像はプリント予約できません。
- DPOF対応プリンタの対応レベルは機種によって異なるため、予約どおりにプリントできないことがあります。(→P.166)

撮影日時のプリントを予約する

プリント予約した画像をプリントするときに、撮影した日付か時刻のどちらかをプリントするように予約することができます。画像ごとに指定することはできません。カード内のすべての画像に設定されます。

1 プリント予約するカードをセットします。
（カードの入れかた→P.30）

2 プリント予約するカードがコントロールパネルに表示されていないときは、表示を変えます。
SM/CFボタンを押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを回します。
スマートメディアはSM、コンパクトフラッシュはCFと表示されます。

3 モードダイヤルを（プリント予約モード）に合わせます。

4 （メニューボタン）を押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

5 十字ボタンの▽または△を押して、緑の選択枠を　に移動します。

6 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を右へ移動します。

7 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠をDATE（日付）かTIME（時刻）に移動します。

日付、時刻のプリントを解除したいときは、OFFに移動します。

8 OKボタンを押します。

選んだものが設定されます。

もう一度OKボタンを押すとメニューが消えます。最後に撮った画像が表示されます。

注意

・DPOF規格の制限上、日付（年月日）か時刻（時分）のどちらかのみプリント予約できます。両方をプリントすることはできません。

・カードの中の画像数が多いと、予約処理に時間がかかることがあります。
予約中に電源が切れたり、カードカバーを開けたりすると途中で終了してしまいます。予約する前に電池残量が十分な電池と交換するか、ACアダプタをご使用ください。
途中で終了した場合は、やりなおしてください。

・DPOF対応プリンタの対応レベルは機種によって異なるため、予約どおりにプリントできないことがあります。（→P.166）

・インデックスプリントには、撮影日時はプリントされません。

オリンパス製プリンタでのプリントについて

オリンパス製プリンタのDPOF対応は次のとおりです。

オリンパス製プリンタのDPOF対応

機種名	選択コマ（1枚）	選択コマ（指定枚数）	トリミング	回転	日付	インデックス
P-330 *1	○	×	×*3	×*3	×*4	×*4
P-330N *2	○	○	○*3	○*3	×*4	×*4
P-400	○	○	○*3	×*3	×*4	×*4
P-150	DPOFに対応していません					
P-300	DPOFに対応していません					

*1 1MBまでのJPEG画像をプリントできます。
ビデオ出力端子に接続してプリントすると、画質が粗くなります。
スマートメディアを使ってプリントする場合、1枚のスマートメディア内でプリント可能なのは256枚までです。それ以上の画像は認識できません。また、プリント予約でインデックスプリント、日時、2枚以上の枚数指定をカメラで設定しても無効になります。

*2 20MBまでのTIFF画像、10MBまでのJPEG画像をプリントできます。
スマートメディアを使ってプリントする場合、1枚のスマートメディア内でプリント可能なのは999枚までです。それ以上の画像は認識できません。

*3 プリンタの機能で、画像の回転やトリミングができるものもありますが、このカメラでは、それらの予約はできません。

*4 日付・インデックスはプリンタで指定して出力できます。

パソコンに読み込む

カメラをUSBケーブル(別売)でパソコンに接続すると、カードの中の画像をパソコンのハードディスクにコピーしたり、プリンタでプリントしたりすることができます。
また、カード用のアダプタを使ってカードの中の画像をパソコンに読み込む方法もあります。
画像のファイル名の付けかたについては、P.154をご覧ください。

カメラとパソコンを直接接続して画像を読み込む

カメラとUSB端子を持つ下記のパソコンを専用USBケーブル(別売)(→P.180)で接続して、カメラにセットしたカードからパソコンに画像を読み込むことができます。

●Windows 2000がインストールされているDOS/V機(PC/AT互換機)
●Mac OS 9がインストールされているApple Macintosh

接続するための専用USBケーブルが必要です。

●Windows 98、Windows 98 Second Editionがインストールされている DOS/V機(PC/AT互換機)

接続するための専用USBケーブルと、USBドライバが必要です。

USBドライバは、CAMEDIA Master 2.5(別売)に含まれています。また、オリンパスのホームページから最新版をダウンロードすることができます。

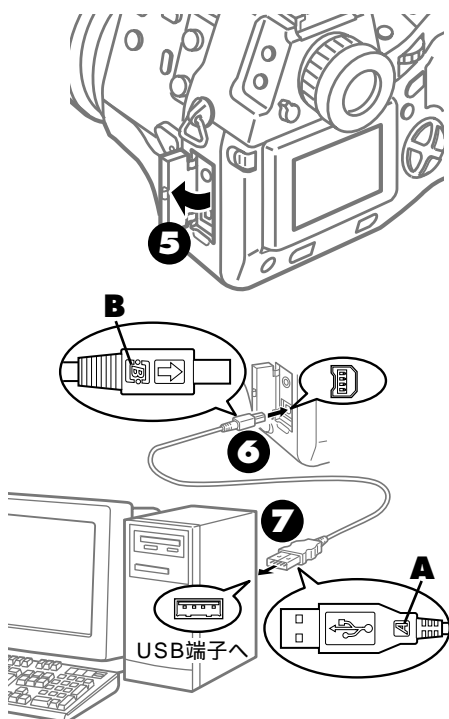
●Mac OS 8.6がインストールされているApple Macintosh

接続するための専用USBケーブルが必要です。
USB Mass Storage Support1.3.5が必要です。
USB Mass Storage Support についてはアップルコンピュータ社にお問い合わせください。

初めてパソコンと接続したときは

初めてパソコンと接続したときは、パソコンがUSBドライバを読み込む動作を始めます。Windows 2000以外ではドライバの入ったディスクを要求してきますので、USBドライバの取扱説明書に従ってインストールして下さい。

注意

・パソコンがUSB端子を備えていても次の環境での動作保証はできませんのでご注意ください。
　Windows 95からWindows 98にアップグレードしたパソコン
　Windows 95、Windows NT4.0
・お使いのパソコンでUSBの動作が保証されていることを確認してください。
　パソコンの環境については、各パソコンメーカーにお問い合わせください。
・Mac OSならびにUSB Mass Storage Supportのアップグレードバージョンについての動作保証はできませんのでご注意ください。
・ハブとパソコンの相性によって、カメラをハブ経由で接続すると動作が不安定になることがあります。この場合は、パソコン本体のUSBポートに直接接続してください。

カードを入れ替えたときは

カメラにセットしたカードを切り替えたときや、カードを入れ替えたときは、エクスプローラなどで、再度ドライブ(カード)を開いて情報が更新されたことを確認してください。

注意

・パソコンがハングアップすることを防止するため、カメラの電源を切ってから、パソコンと接続したり切り離したりしてください。パソコンがハングアップした場合はパソコンを再起動してください。

・カードをパソコンでフォーマットすると、動作保証できません。カメラのメニューでフォーマットしてください。(→P.152)

1. **ご使用のパソコンが、Windows 2000がインストールされていないDOS/V機(PC/AT互換機)の場合は、あらかじめUSBドライバをインストールします。**
   インストールのしかたは、CAMEDIA Masterのインストールガイドをお読みください。

2. **ACアダプタを接続します。****(→P.27)**
   パソコンと接続するときはACアダプタのご使用をお勧めします。

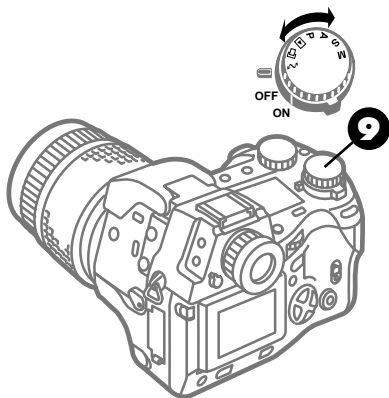
3. **パソコンに読み込みたい画像が入っているカードを選びます。**
   (カードの選びかた→P.121)
   パソコンと接続中はカードを切り替えることはできません。切り替える場合は、一度USBケーブルを取り外す必要があります。(→P.171)

4. **パソコンに接続する前に、カメラの電源を切ります。**

5. **カメラのコネクタカバーを開けます。**

6. **USBケーブルのプラグ部に「B」と刻印されている側を、カメラのUSB端子に差し込みます。**

7. **USB接続ケーブルのプラグ部に「A」と刻印されている側を、パソコンのUSB端子に差し込みます。**

8. **パソコンに接続した後、カメラの電源を入れます。**

9 カメラのモードダイヤルを（カメラ設定/接続モード）に合わせます。

パソコンでは、カメラで選択されているカードを、ハードディスクのようにひとつのドライブと認識します。通常はリムーバブルディスクとして表示（*）されます。
カード内の画像は、Windowsのエクスプローラなどでファイルとして扱うことができます。
ファイル（画像）をコピーしたり移動しているときは、絶対にUSBケーブルを抜かないでください。

*OSにより、表示されるまでに数十秒かかる場合があります。

●パソコン接続時のカードの取り出し

パソコンが誤動作する場合がありますので、カードを取り出すときは、必ず次の手順で操作してください。（誤動作から回復するには、USBケーブルを接続しなおすかパソコンを再起動する必要があります）

●Windows 98、Windows 2000の場合

「マイコンピュータ」のドライブアイコン（リムーバブルディスク）を右クリックして「取り出し」を選択し、カメラのカードアクセスランプが消えていることを確認してから、カードカバーを開けて取り出してください。

●MacOSの場合

デスクトップのドライブアイコンを「ゴミ箱」に捨てるか、「特別」メニューから「取り出し」を選択し、カメラのカードアクセスランプが消えていることを確認してから、カードカバーを開けて取り出してください。

●パソコン接続時のUSBケーブルの取り外し

●Windows 98、MacOSの場合

カメラのカードアクセスランプが消えていることを確認してから、カメラの電源を切り、USBケーブルを取り外してください。

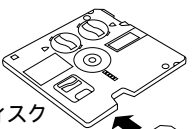
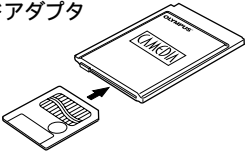
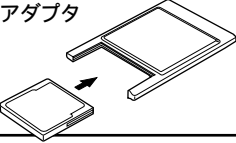
●Windows 2000の場合

次の(A)または(B)の手順で取り外してください。

(A)タスクバーの をクリックする方法

①タスクバー(パソコンの画面右下)に表示されている「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」(下図の円の部分)のアイコンを左クリックします。
②ドライブを停止するメッセージが表示されたら、メッセージを左クリックします。
③安全に取り外しできることを伝える「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。
④USBケーブルを取り外します。

(B)タスクバーの をダブルクリックする方法

①タスクバー(パソコンの画面右下)に表示されている「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」(下図の円の部分)のアイコンをダブルクリックします。
②ハードウェアの取り外し画面が表示されたら、ハードウェアデバイスの一覧でカメラを左クリックして選択し、「停止」ボタンをクリックします
③安全に取り外しできることを伝える「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。
④USBケーブルを取り外します。

注意

・誤動作の原因になりますので、パソコンと接続中(特に通信中)は、むやみに電源を切ったり入れたり、また、カメラのモードダイヤルを変えたりしないでください。
・カメラ設定/接続モードで長時間ご使用になるときは、ACアダプターのご使用をお勧めします。
・ACアダプターをご使用にならない場合は、接続前に電池の残量が十分にあることを確認し、カメラのスリープをOFFに設定します(→P.128)。ただし、この状態で放置すると電池がなくなります。使用後にパワースイッチで電源を切ってください。

パソコンに読み込むその他の方法

カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むには、次のような方法があります。
USB端子をもたないパソコンや、USB機能が保証されていないパソコンをご使用のときもカードに保存されている画像をパソコンに取り込むことができます（スマートメディア/リーダ・ライタ　MAUSB-2を除く）。それぞれの機器の最新の情報については、当社カスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

カードの種類	使用できる機器	使用できるパソコン
スマートメディア	フロッピーディスクアダプタ FlashPath MAFP-2N	3.5型（インチ）フロッピーディスクドライブをもつパソコン
	PCカードアダプタ MA-2	PCMCIAカードスロットをもつパソコン
	スマートメディア/リーダ・ライタ MAUSB-2	USB端子をもつパソコン
コンパクトフラッシュ	PCカードアダプタ	PCMCIAカードスロットをもつパソコン
	「LEXAR MEDIA」コンパクトフラッシュをお使いになると、USB端子のあるパソコンには、専用接続ケーブル（Jump Shotケーブル）を使って直接データをパソコンに取り込むことができます。	

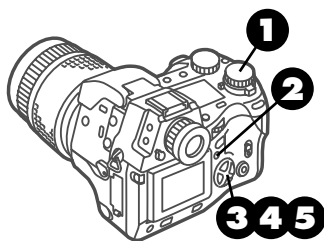
注意

・パソコンの動作環境やスマートメディアの記憶容量等により、ご使用になれない場合があります。ご使用の前にお確かめください。
・お取り扱いについては各機器の取扱説明書をお読みください。

液晶モニタのメニュー

カメラの設定や、カードのフォーマットは、液晶モニタのメニューを使って行います。

液晶モニタのメニュー

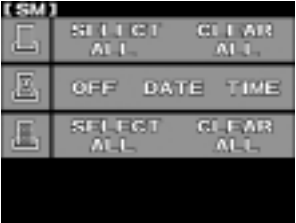
液晶モニタのメニューで、カメラの設定を行ったり、カードのフォーマットなどを行ったりすることができます。
メニューには、モードダイヤルが、撮影モード(P、A、S、M)のときのメニュー、▶(再生モード)のときのメニュー、凸(プリント予約モード)のときのメニュー、(カメラ設定/接続モード)のときのメニューの4種類があります。

1 モードダイヤルでモードを選びます。

2 (メニューボタン)を押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 十字ボタンの▽を押して、緑の選択枠を下へ動かし、メニュー項目を選びます。
△を押すと上へ戻ります。

4 十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を右に動かします。

5 十字ボタンを使って、設定値を選んだり、目盛りを動かしたりします。
設定を変更せずに中止するときは、ボタンを押します。
撮影モード(P、A、S、M)のときは、メニューを表示したままでも撮影できます。撮影するとメニューが消えますが、ボタンを押すと、このときのメニューを表示できます。設定を変えながら撮影するのに便利です。

6 OKボタンを押します。
設定値を選んだときは、その設定値がへこんで表示されます。緑の選択枠は左のメニュー項目に戻ります。
もう一度OKボタンを押すと、メニューが消えます。

撮影モード（P、A、S、M）のメニュー

画面	項目	出荷時の設定（⚡と㊉を押した後の設定）	参照ページ
1/3	CARD SETUP カード（スマートメディア、コンパクトフラッシュ）の全コマ消去とフォーマット	—	P.150 P.152
	ISO 撮影感度の設定	AUTO	P.83
	BKT オートブラケット撮影（露出を変えて3枚ずつ撮影する）の設定	OFF	P.81
	フラッシュ発光量補正	±0EV	P.90
2/3	シャープネス（鮮鋭度）	NORMAL	P.106
	コントラスト（階調）	NORMAL	P.107
	画質の記録画素数と圧縮率	P.103の❶の表を参照	P.103
	インターバル撮影（一定時間ごとに自動的に撮影する）	OFF	P.118
3/3	シャッター音の種類と音量（大、小、無音）	OFF	P.122
	ビープ音（有、無）	ON	P.124
	REC VIEW 撮影後の画像表示	OFF	P.125
	SLEEP スリープ	1MIN（1分）	P.128

▶（再生モード）のメニュー

画面	項目	出荷時の設定 ⚡と㊥を押した後の設定	参照ページ
START	スライドショー（自動コマ送り表示）	–	P.140
COPY　SELECT　ALL	カードからカードへの画像のコピー	–	P.146
CARD SETUP	カードの全コマ消去とフォーマット	–	P.150 P.152
− ＋	液晶モニタの明るさ	±0　＊	P.144

（プリント予約モード）のメニュー

画面	項目	出荷時の設定 ⚡と㊥を押した後の設定	参照ページ
SELECT ALL　CLEAR ALL	全コマプリント予約、解除	–	P.160
OFF　DATE　TIME	日付・時刻プリント予約	OFF　＊	P.164
SELECT ALL　CLEAR ALL	全コマインデックス（一覧）プリント予約、解除	–	P.162

（カメラ設定/接続モード）のメニュー

画面	項目	出荷時の設定 ⚡と㊥を押した後の設定	参照ページ
1/2	（マクロボタン）で（コンバージョンレンズ）を選べるようにするかどうかの設定	＊	P.133
'00.12.24　23:58	年月日の表示順	年.月.日　＊	P.126
	日付、時刻の設定	［⚡と㊥を押しても変わりません］	P.126
FILE NAME　AUTO　RESET	カードを交換してもファイル名が重複しないようにする（AUTO）か、カードの中のファイル番号を連番にする（RESET）かの設定	AUTO　＊	P.154
RAW　OFF　ON	RAWデータ撮影（画像調整を無効にして撮影する）	OFF　＊	P.131
2/2　OFF　ON	ヒストグラムを表示するかどうかの設定	OFF　＊	P.108

＊⚡と㊥を押しても変わりません。

おもな仕様
別売品
画像ファイルの互換性
困ったときは
アフターサービスについて
操作上のトラブル
画像の出来がよくない
エラー表示一覧
お問い合わせ窓口
用語解説
索引

おもな仕様

形式	レンズ固定式一眼レフレックス方式デジタルカメラ(記録・再生型)
記録方式	デジタル記録、JPEG方式、DCF準拠、TIFF(非圧縮)/DPOF対応
記録媒体	3V(3.3V)スマートメディア 4MB、8MB、16MB、32MB、64MB コンパクトフラッシュ(Type I、Type II 準拠。マイクロドライブ非対応)
記録コマ数	約8枚(HQモード、8MBカード使用時)
消去	1コマ消去、全コマ消去
撮像素子	2/3型(インチ)原色フィルタ 400万画素(総画素数)
記録画素数	2240×1680ピクセル 1600×1200ピクセル 1280×960ピクセル 1024×768ピクセル 640×480ピクセル
ホワイトバランス	TTLフルオート/プリセット7段階/ワンタッチ
レンズ	オリンパスレンズ9～36mm、F2.0～2.4、11群14枚 (35mmフィルム換算35mm～140mm相当)
フィルタ径	62mm
測光方式	デジタルESP測光、中央重点測光、スポット測光
露出制御方式	プログラム/絞り優先/シャッタースピード優先/マニュアル
絞り	WIDE:F2.0～11、TELE:F2.4～11
シャッタースピード	2秒～1/640秒 bulb(30秒リミッター付き)、8秒～1/640秒(マニュアル設定時)
露出補正	±3EV(1/3EVステップ)
撮影範囲(レンズ正面から)	**通常モード** 0.6m～∞ **マクロモード** 0.2m～0.6m
ファインダ	一眼レフ方式、視野率95%、Wide 0.42倍、Tele 1.60倍
液晶モニタ	1.8型(インチ)TFTカラー液晶 撮影時:ファインダ像表示 再生時:画像表示(1コマ表示、インデックス表示、拡大表示)
モニタ画素数	約118,000画素

フラッシュ充電時間	約7秒(常温時、新品電池(CR-V3)使用)
フラッシュ撮影範囲(レンズ前面から)	(ISO80)WIDE 0.6m〜6.3m/TELE 0.5m〜5.2m
フラッシュモード	オート発光(低輝度時自動発光、逆光時自動発光)、赤目軽減発光、強制発光(閉じたときは、発光禁止)、スローシンクロ、後幕シンクロ
オートフォーカス	デュアルオートフォーカス
検出方式	コントラスト検出方式/アクティブAF方式
焦点調節範囲	通常モード時:0.6m〜∞、マクロモード時:0.2m〜0.6m
セルフタイマー	約12秒
外部コネクタ	DC入力端子、USB端子、ビデオ出力端子
日付・時刻	画像ファイル情報内に記録 情報表示および専用プリンタで日付時刻印刷可能
自動カレンダー機能	2030年まで自動修正
プリント予約	DPOF準拠(枚数設定、インデックス設定、日付時刻設定)
RAWデータ出力機能	10ビットAD出力データ(「.orf」ファイル形式)、ICCプロファイル非添付
インターバル撮影	インターバル時間:1分〜24時間
カレンダー用電源	マンガンリチウム2次電池(取り外し不可)
使用環境　温度	0〜40℃(動作時)/−20〜60℃(保存時)
湿度	30〜90%(動作時)/10〜90%(保存時)(結露しないこと)
電源	リチウム電池パックCR-V3 2本、または、単3ニッケル水素電池4本、または、単3アルカリ電池4本、または、単3ニッカド電池 4本、または、リチウムポリマ電池 (単3マンガン電池、単3リチウム電池は使用できません) ACアダプタ(C-7AC)
大きさ	幅128.5mm×高さ103.5mm×奥行き161mm(突起部含まず)
質量	1050g(カード/電池/レンズキャップ別)

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

別売品

専用外部フラッシュ（FL-40）

専用フラッシュブラケット（FL-BK01）

専用ブラケットケーブル（FL-CB01～04）

コンバージョンレンズ

0.8×ワイドエクステンションレンズ プロ（WCON-08B）
マクロエクステンションレンズ プロf＝35mm（MCON-35）
1.45×テレエクステンションレンズ プロ（TCON-14B）
3×エクステンションレンズ テレ300プロ（TCON-300）
サポートアーム（TCON-SA2）

リモコン（RM-1）

リモートケーブル（RM-CB1）

カメラケース（セミハードケース）（CS-1SH）

ACアダプタ（C-7AC）

ニッケル水素電池関連品

ニッケル水素電池（B-03NH16）
ニッケル水素電池の専用充電器セット（BU-40SNH）

リチウムポリマ電池セット（B-30LPS）

リチウムポリマ電池（B-10LPB）
パワーバッテリホルダ（B-HLD10）
リチウムポリマ電池充電器（B-20LPC）

スマートメディア（8MB/16MB/32MB/64MB）

「LEXAR MEDIA（レキサーメディア）」コンパクトフラッシュ（16MB～256MB）

パソコン接続キット（C-9KU）

CAMEDIA Master 2.5（C-90PJ2と同一品です）
専用USBケーブル

CAMEDIA Master 2.5（C-90PJ2）

画像表示・加工用ソフト
USBドライバ（Windows 98/98SE）

PCカードアダプタ（MA-2） 64MBスマートメディアまで対応

フロッピーディスクアダプタFlashPath（MAFP-2N） 64MBスマートメディアまで対応

スマートメディア/リーダ・ライタ（MAUSB-2）

プリンタ（P400/P330N）

2000年8月現在

各機器の詳細や動作環境についての最新情報は、当社カスタマーサポートセンターまでお問い合わせいただくか、当社ホームページでお確かめください。

画像ファイルの互換性

このカメラで撮影した画像を他のオリンパスデジタルカメラで再生・印刷する場合、および他のオリンパスデジタルカメラで撮影した画像をこのカメラで再生する場合は、以下の制限がありますのでご注意ください。

このカメラで撮影した画像を他のカメラで再生・印刷する

対応状況	機種名
液晶モニタ再生が可能*[1]	C-3030ZOOM、C-3000ZOOM、C-2500L、C-2100 Ultra Zoom、C-990ZOOM、C-960ZOOM、C-860L*[2]、C-21T.commu
液晶モニタ再生とダイレクトプリントが可能*[3]（P-300/P-150接続時）	C-2020ZOOM、C-2000ZOOM、C-920ZOOM、C-21
非対応	C-1400XL、C-1400L、C-1000L、C-900ZOOM、C-840L、C-830L、C-820L、C-420L

*[1] 画像サイズによっては、サムネイル再生のみになります。
*[2] TIFFは再生できません。
*[3] カメラで正常に1コマ再生できる画像のみダイレクトプリントが可能です。

他のカメラで撮影した画像をこのカメラで再生する

対応状況	機種名
静止画のみ 液晶モニタ再生が可能*[1] （動画再生は不可能）	C-3030ZOOM、C-3000ZOOM、C-2500L、C-2020ZOOM、C-2100 Ultra Zoom、C-2000ZOOM、C-1400XL、C-1400L、C-1000L、C-990ZOOM、C-960ZOOM、C-920ZOOM、 C-900ZOOM、C-860L、C-840L、C-830L、C-820L、C-420L、C-21、C-21T.commu

*[1] 画像サイズによっては再生できない場合があります。

●アフターサービスについて

保証書は、お買い上げになった販売店から「販売店名・お買い上げ日」などが記入されたものをお受け取りください。記入もれがあったときは、ただちにお買い上げになった販売店へお申し出ください。また、保証書は、保証内容をよくお読みになって大切に保管してください。

この製品のアフターサービスについては、お買い上げになった販売店か裏表紙のオリンパスサービスステーションにご相談ください。
万一故障した場合はお買い上げになった販売店か裏表紙のオリンパスサービスステーションにご相談ください。
取扱説明書などにしたがったお取り扱いによって、この製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満一か年間、「保証書」の記載内容に基づいて無料修理いたします。

保証期間経過後の修理などは原則として有料です。また、運賃などの費用はお客様にご負担願います。
この製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後も5年間を目安に当社で保有しておりますので、この期間は原則として修理をお受けいたします。期間後でも修理できることがありますので、お買い上げになった販売店、または裏表紙のオリンパスサービスステーションにお問い合わせください。

この製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。
この製品は日本国内向けのため、海外での修理受け付けができません。万一外国で故障、不具合が生じた場合は、持ち帰って日本国内のオリンパスサービスステーションまでご依頼ください。

この製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用や撮影によって得られる利益の喪失など）については補償しかねます。

●操作上のトラブル

何も操作ができない。表示されない。

チェックポイント	対処	参照ページ
パワースイッチの白い目盛りは、ONに合っていますか？	パワースイッチを回して、白い目盛りをONに合わせてください。	P.32
電源を入れたまま1時間以上経過していませんか？（スリープ状態が1時間続くと電源が切れます）	パワースイッチを一度OFFにして、もう一度ONにしてください。	P.128
電池は正しい向きに入れてありますか？	正しい向きに入れなおしてください。	P.22
電池は切れていませんか？	新しい電池を入れてください。リチウムポリマ電池やニッケル水素電池などの充電式電池を使っているときは、充電してください。	P.22
温度が低くありませんか？（寒いと電池の性能が一時的に低下します）	新しい電池をポケットなどで暖めてから使ってください。	——

シャッターボタンを押しても、撮影できない。

チェックポイント	対処	参照ページ
コントロールパネルで「0」とが点滅している	カードの残り容量がなくなりました。カードを交換するか、いらない画像を消すか、画像をパソコンなどに読み込み、全コマ消去してください。 フォルダ番号が999、ファイル番号が9999になると、カードの残り容量があっても撮影できなくなります。画像をパソコンなどに読み込み、全コマ消去してください。	P.35
コントロールパネルでが点灯している	電池を交換してください。（カードアクセスランプが点滅しているときは、点滅しなくなるまで、待ってから交換してください）	P.33
コントロールパネルにが表示されている	連続して撮影し、が4つになると撮影できなくなります。カードへの書き込みが進み、3つになるとまた撮影ができます。しばらくお待ちください。	P.40
ファインダでが点滅している	内蔵フラッシュの充電中です。が点灯するまでお待ちください。	P.44
モードダイヤルが、（再生モード）、（プリント予約モード）、（カメラ設定/接続モード）になっていませんか？	撮影モード（P、A、S、M）にしてください。	P.70
カードは入っていますか？	カードを入れてください。	P.30
カードにプロテクトシールが貼られていませんか？	新しいカードに入れなおしてください。	P.30

液晶モニタにファインダと同じ映像が表示されない。

チェックポイント	対処	参照ページ
（液晶モニタボタン）ボタンは押しましたか？	ボタンを押さないと表示されません。押してください。	P.37
モードダイヤルが (再生モード)、（プリント予約モード）、（カメラ設定/接続モード）になっていませんか？	撮影モード（P、A、S、M）にしてください。	P.70
を2回押して再生モードにしましたか？	再生モードのとき、液晶モニタには再生画像が表示されます。ボタンを押して撮影のモードに戻してください。	P.46
コントロールパネルに線以外のものが表示されていますか？ 何か操作はできますか？	「何も操作ができない。表示されない。」をご覧ください。	P.183

液晶モニタで画像を再生できない。

チェックポイント	対処	参照ページ
液晶モニタに「NO　CARD」と表示されている。	カメラにカードが入っていません。入れてください。	P.30
液晶モニタに「NO　PICTURE」と表示されている。	カードに画像が1枚も入っていません。画像の入っているカードを入れるか、撮影してください。	P.190
モードダイヤルを（再生モード）にしましたか？または、撮影モード（P、A、S、M）にして、（液晶モニタボタン）をすばやく2回押しましたか？	モードダイヤルを モードにするか、撮影モード（P、A、S、M）にして、ボタンをすばやく2回押してください。	P.46
コントロールパネルに線以外のものが表示されていますか？ 何か操作はできますか？	「何も操作ができない。表示されない。」をご覧ください。	P.183

内蔵フラッシュが光らない。

チェックポイント	対処	参照ページ
フラッシュは起きていますか？	（フラッシュボタン）を押して、フラッシュを起こしてください。	P.44
被写体は明るくありませんか？	被写体が明るいと、フラッシュは光りません。フラッシュを使いたいときは強制発光にしてください。	P.86

液晶モニタが見にくい。

チェックポイント	対処	参照ページ
暗い。	明るさを調節してください。	P.144
太陽の光があたっている。	手などで太陽の光をさえぎってください。	——

パソコンと接続したがデータを転送できない。

チェックポイント	対処	参照ページ
ケーブルは正しく接続されていますか？	正しく接続してください。	P.168
コントロールパネルに線以外のものが表示されていますか？ 何か操作はできますか？	「何も操作ができない。表示されない。」をご覧ください。	P.183
USBドライバは、正しくインストールされていますか？	USBドライバのインストールマニュアルにしたがってインストールし、カメラが認識されているか確認してください。	P.168

●画像の出来がよくない

画像がボケている。ピントが合っていない。ぶれている。

チェックポイント	対処	参照ページ
ピントが合いにくい被写体ではありませんでしたか？	「ピントが合いにくい被写体のとき」にしたがって、撮りなおしてみてください。	P.66
シャッターボタンを押すはずみで、カメラを動かしませんでしたか？	シャッターボタンを押すときにカメラ全体を動かしてしまうと、ぶれてしまいます。これを手ぶれ、またはカメラぶれといいます。両手でしっかりと持ち、脇をしめて、ゆっくりとシャッターボタンを押してみてください。	P.38
ピントを合わせたいものが、AFターゲットマークからはずれていませんでしたか？	ピントは画面中央のAFターゲットマークの部分にあるものに合います。ピントを合わせたいものを中央にして撮るか、フォーカスロックして撮ってください。	P.38 P.65
レンズが汚れていませんか？	「お手入れと保管」にしたがって、きれいにしてください。	P.18
マクロの設定は正しいですか？	被写体までの距離が20～60cmのときは、コントロールパネルに🌷が表示された状態にしてください。 60cm以上のときは、🌷も▯も表示されていない状態にしてください。 コンバージョンレンズを取り付けているときは、▯が表示された状態にしてください。	P.42 P.133
セルフタイマ撮影で、カメラの前に立ってシャッターボタンを押しませんでしたか？	カメラの前に立ったときのあなたにピントが合ってしまいます。ファインダをのぞきながらシャッターボタンを押してください。	P.113
ファインダで⚡が点滅していませんでしたか？	被写体が暗いとぶれやすくなります。フラッシュを使ってください。	P.44

画像が明るすぎる。

チェックポイント	対処	参照ページ
コントロールパネルにが表示されていませんか？	が表示されているときは、明るくてもフラッシュが光ります（強制発光）。を消すか、フラッシュを閉じてください。	P.86
とても明るいものが画面に入っていませんでしたか？	露出補正するか、明るいものが画面に入らないようにしてください。	P.79
中央部に暗いものがありませんでしたか？	どの測光方法でも、暗いものが中央にあると全体が明るくなります。測光方法をデジタルESP測光（ESP）か中央重点測光（）に変えてみるか、スポット測光（）にして、露出を合わせたいものを中央にして露出をロックしてから撮ってください。	P.78

画像が暗すぎる。

チェックポイント	対処	参照ページ
ファインダでが点滅していませんでしたか？	が点滅しているときは、明るさが足りません。フラッシュを使ってください。	P.44
とても明るいものが中央にありませんでしたか？	どの測光方法でも、明るいものが中央にあると、全体が暗くなります。測光方法を、デジタルESP測光（ESP）か中央重点測光（）に変えてみるか、スポット測光（）にして、露出を合わせたいものを中央にして露出をロックしてから撮ってください。	P.78 P.80

画面の一部が欠けてしまった。

チェックポイント	対処	参照ページ
レンズに指やストラップがかかっていませんでしたか？	かからないようにして撮ってください。	P.36

色がおかしい。

チェックポイント	対処	参照ページ
照明の色ではありませんか?	フラッシュを起こし、強制発光(コントロールパネルにが表示された状態)にして、撮ってください。	P.86
プリセットホワイトバランスの設定は合っていますか?	何をどのように撮りたいかによって設定しなおして撮ってください。	P.102

日付が正しくない。

チェックポイント	対処	参照ページ
最初に日付の設定をしましたか?	購入して最初に使うときは、日付、時刻の設定をしてください。	P.126
電池が切れてから1か月以上たっていませんか?	電池が切れてから約1か月で日付などの設定は出荷時の状態に戻ります。設定しなおしてください。	P.126

液晶モニタのメニューで何を設定したかわからなくなった。

チェックポイント	対処	参照ページ
メニューのうち、へこんで表示されているのが現在の設定です。	現在の設定をひとつずつ確認してください。	P.174
すべての設定を、元の設定に戻しますか?	とを同時に押して元の設定に戻し、設定しなおすことができます。	P.130

人の目が赤く写る。

チェックポイント	対処	参照ページ
暗い場所でフラッシュを使って人物や動物を撮ると、網膜の毛細血管がフラッシュの光を反射して、目が赤く写ることがあります。	個人差が大きく、周囲の明るさなどにも影響を受けます。赤目軽減()に設定すると、発生頻度を大幅に減少できます。	P.86

エラー表示一覧

カードなどに問題が起きると、コントロールパネルや液晶モニタにエラーメッセージが表示されます。
カードに関するエラーメッセージが表示されたときは、カードをカメラから取り出して入れなおしてみてください。それでもエラーメッセージが表示されるときは、下表にしたがって対処してください。

ファインダの表示	コントロールパネルの表示（点滅）	液晶モニタの表示	エラーの意味	対処
CArd oP	-O-	CARD COVER OPEN	カードカバーが開いています。	カードを入れて、カードカバーを閉じてください。
CArd E	-E-	CARD ERROR	そのカードで、撮影、再生、消去はできません。	カードの金属部分をクリーニングペーパーでふいてからもう一度入れなおしてください。それでもなおらないときは、このカードは使えません。フォーマットしてください。 フォーマットするとカード自体は使えるようになることがありますが、カードに入っている画像はすべて消えます。
CArd --	---	NO CARD	カードが入っていません。	カードを入れてください。
CArd F	-F-	UNFORMATED CARD	カードがフォーマットされていないか、こわれています。	カードをフォーマットしてください。フォーマットすると、カードに記録されている画像はすべて消えます。十字ボタンの左側を押してYESを選び、OKボタンを押すと、フォーマットされます。
CArd P	-P-	WRITE PROTECT	カードにライトプロテクトシールが貼ってあるか、フォルダにRead only設定がされているか、再生専用のカードなので、撮影、消去、初期化はできません。	ライトプロテクトシールをはがすか、再生専用の設定を解除してください。それでもなおらないときは、カードに何らかの異常が発生しているので、画像をパソコンに転送するか、カードを2枚入れているときは、もう1枚のカードにコピーしてから、カードをフォーマットしてください。
（表示なし）	000	NO PICTURE	画像が入っていないので、再生できません。	画像が入っているカードを入れるか、撮影してください。

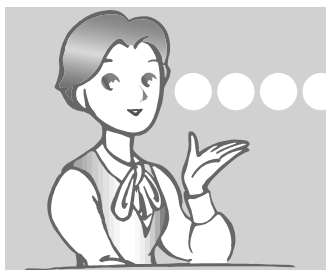
ファインダの表示	コントロールパネルの表示（点滅）	液晶モニタの表示		エラーの意味	対処
CArd 0	0（撮影可能枚数が0になったので、これ以上撮影できません）	CARD FULL（カードがいっぱいです。残りの容量がありません）*1	撮影のとき	カードの残り容量がなくなったので、これ以上撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消すか、画像をパソコンなどに転送してから全コマ消去してください。
			撮影のとき	画像のフォルダ番号が999、ファイル番号が9999になったので、これ以上撮影できません。	カードを交換するか、画像をパソコンなどに転送してから全コマ消去してください。
（表示なし）		CARD FULL	プリント予約のとき	カードの残り容量がなくなったので、プリント予約やその変更を行えません。（プリント予約を行うと、カードにファイルが作られます）	カードを交換するか、不要な画像を消すか、画像をパソコンなどに転送してから全コマ消してください。
（表示なし）	-H-	（表示なし）		カメラの内部が異常に過熱しています。	時間をおいてから電源を入れなおしてください。
（表示なし）	（表示なし）	PICTURE ERROR		選んだ画像を再生できません。他の操作はできます。	カードの金属部分をクリーニングペーパーでふいてからもう一度入れなおしてください。それでもなおらないときは、このカードは使えません。
（表示なし）	（表示なし）	CAN NOT OPEN FILE	このカメラで撮った画像	選んだ画像を再生できません。他の操作はできます。	フォーマットするとカード自体は使えるようになることがありますが、カードに入っている画像はすべて消えます。
			他のカメラで撮った画像	このカメラでは再生できません。	撮影したカメラで再生してください。

*1
スマートメディアとコンパクトフラッシュはクラスタサイズ（書き込みの単位量）が違うので、同じ容量でも同じ量の画像が入らないことがことがあります。このため、1枚のカードに入っている画像をもう1枚の同じ容量の空のカードに全コマコピーしても、「CARD FULL」と表示されてコピーできないことがあります。この場合は、コピーする画像を減らすか、もっと容量の大きいカードにコピーしてください。

商品に関する技術的なお問い合わせ窓口

オリンパス光学工業株式会社カスタマーサポートセンター
〒192-8507　東京都八王子市石川町2951
TEL　0426-42-7499
FAX　0426-42-7486
オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jp/
受付日時　AM 10:00～17:00
（土・日・祭日・および当社休日を除く）

●お問い合わせいただく前に（お願い）

・より迅速、正確にお答えするために、お手数ですが次ページのサポート用カルテの内容をあらかじめご確認ください。
・FAXまたは郵便またはE-mailでお送りいただく場合は、所定の項目は必ずご記入ください。

送付先：オリンパス光学工業株式会社カスタマーサポートセンター

FAX 0426-42-7486

弊社整理番号：

サポート用カルテ

お名前	フリガナ	
連絡先 ご住所	□自宅　□会社 〒	ご連絡方法 □ FAX □ TEL □ E-mail

お問い合わせ日　年　月　日	お買い上げ日：　年　月　日
製品名（型番）	
シリアル番号 （製品底面に記載されています）	

パソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけくわしくご記入ください

●ご使用のパソコンの種類：
（メーカー・型番等）

●メモリの容量：

●ハードディスクの空き容量：

●OS名とバージョン：

●ご使用のパソコンのドライバ：

（Mac OSの場合）コントロールパネルや機能拡張の内容：

（Windowsの場合）コントロールパネル－デバイスマネージャーの内容：

●その他接続されている周辺機器名：

●問題のご使用アプリケーションソフト名：

バージョン：

●問題のご使用弊社ソフト名：

バージョン：

問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：
（より正確・迅速にお答えするために、できるだけくわしくご記入ください）

※FAXや郵便でのお問い合わせの際は、コピーしてご利用ください。

A-Z

AE(エーイー)　Automatic Exposure
自動露出。カメラに内蔵された露出計で自動的に露出を決める方式。このカメラには、絞りとシャッタースピードをカメラに任せる**P**(プログラムモード)、絞り値を決めてシャッタースピードをカメラに任せる**A**（絞り優先モード）、シャッタースピードを決めて絞り値をカメラに任せる**S**(シャッタースピード優先モード)の3種類があります。

A(絞り優先モード)　Aperture priority AE Mode
絞り値をユーザーが決めると、カメラがシャッタースピードを変化させ、適正な露出で撮影します。

CCD　charge coupled device
撮像素子。カメラの中で、レンズを通して受け取った光を電気信号に変換します。

DCF形式　Design rule for Camera File System
日本電子工業振興協会(JEIDA)で制定された画像ファイルに関する規格。

DPOF(ディーポフ)　Digital Print Order Format
スマートメディアやコンパクトフラッシュに記録した画像をプリントするときに、あらかじめ、どの画像を何枚プリントするか、インデックスプリントするか、日付や時刻をプリントするかなどをカードに記録するための規格。DPOF対応のプリンタやプリントショップでプリントできます。

EV(イーブイ)　Exposure Value
露出値。絞り値がF1、シャッタースピードが1秒のときをEV0とし、絞りを1段絞る、またはシャッタースピードを1段速くするごとに数値が1ずつ増加します。逆の場合は減少します。
また、EVは明るさとISO感度でも表すことができ、ISO感度が2倍になると、1EV増加し、1/2になると1EV減少します。

ICCプロファイル　International Color Consortium
各機器の色データ出力をデバイスインディペンデントカラー空間に変換するためのデータのことです。このような標準の色空間に変換することによって、各機器間のカラーマネージメントを実現します。

ISO感度
国際標準化機構(ISO)の規格で決められたフィルムの表示方法。通常「ISO 100」のように表記します。
数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光するようになります。このカメラは、感度を変えて撮影することができますが、その単位はISO感度を使っています。

JPEG(ジェイペグ)　Joint Photographic Experts Group
カラー静止画像の圧縮方式。このカメラで撮影した画像は、画質をSHQ、HQ、SQに設定するとJPEG方式でカードに記録されます。
パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト(ブラウザ)で見ることができます。

M(マニュアルモード)　Manual Mode
シャッタースピードと絞り値を自分で設定して撮影するモードです。

P(プログラムモード)　Program Mode
カメラが自動的に適正な絞り値とシャッタースピードを決めます。

RAWデータ
未加工のデータ。ホワイトバランス、シャープネス、コントラスト、色変換などの処理を行っていない、撮影したままのデータのことをいいます。当社が独自に開発したファイルなので、画像として表示するには専用のソフトが必要です。一般のソフトウェアで表示したり、DPOFでプリントすることはできません。拡張子は「.ORF」。

S(シャッタースピード優先モード)　Shutter speed priority AE　Mode
シャッタースピードをユーザーが決めると、カメラが絞り値を変化させ、適正な露出で撮影します。

TIFF(ティフ)　Tagged Image File Format
モノクロやカラーの画像データを保存するためのフォーマット。スキャナ用のアプリケーションやグラフィックス用のアプリケーションで扱うことができます。このカメラでは、圧縮しない画像のフォーマットに採用しています。

TTLコントラスト検出AF
レンズを駆動しつつCCDでとらえた画像のコントラストを検出し、それがピークになるところまでレンズを駆動することによりピント合わせを行う方式。正確なピント合わせができるが、時間がかかり、コントラストがほとんどないような被写体のピント合わせは難しい。このカメラは、アクティブAFで距離を測定した後で、さらにこのTTLコントラスト検出AFでピント合わせを行うハイブリッドAF方式によって、高速で正確なピント合わせを実現しています。

あ

赤目現象
フラッシュを使って人物や動物を撮影したときに、目が赤く写ってしまう現象。瞳孔を通して網膜の血管に反射したフラッシュの光が写ってしまうことによって起きます。暗い場所では瞳孔が開くので起きやすく、レンズとフラッシュの間の距離が短い場合にも起きやすくなります。逆に、明るい場所で撮るときや、外部フラッシュを使うときは、起きにくくなります。「赤目軽減モード」にすると、赤目現象を軽減させることができます。

アクティブAF
被写体に赤外光を投射し、その反射光を光位置検出センサで検出し、三角測距の原理により被写体までの距離を測定する方式。この距離データを用いることで、このカメラは、従来のTTLコントラスト検出AFによるピント合わせ時間を大幅に短縮します。

圧縮率
画像などのデータの内容を一部省略してファイルサイズを小さくすることを、圧縮するといい、圧縮によって小さくなる割合を圧縮率といいます。実際の圧縮率は、画像によって変わるので、このカメラで画質として設定する圧縮率はあくまで目安とするためのものです。

色温度
光源の色を表すための指標。絶対温度の単位K(ケルビン)で表します。プランクの放射則にしたがった理想的な黒体を熱していくと、温度によって、暗赤色から、オレンジ、黄色、白、青白色と、発光する色が変わっていくので、その色を絶対温度で示すことができます。ただし、蛍光灯のように実際の温度と色温度が異なることもあります。プリセットホワイトバランスのときは、色温度を使って光源の色を設定します。

か

合焦
ピント合わせを行って、被写体にピントが合った状態。

けられ
レンズ鏡筒やレンズフードなどの影になって、フラッシュの光が届かず、撮影画面の一部が暗くなってしまうこと。レンズ鏡筒やレンズフードなどによって、レンズに入る光がじゃまされて、画面の隅が写らないことをいう場合もあります。

ゴースト
太陽などの非常に明るいものを撮影したときに、その光と対照的な位置に現れる影。レンズ内部での再反射によって起きます。

コンパクトフラッシュ
小型のフラッシュメモリカード。このカメラでは、画像を記録するのに使います。

さ

シャープネス
画像の輪郭の鮮鋭度、鮮明さのことです。

絞り
レンズを通して入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど少なくなります。最小の絞り値にすることを絞りを開放にするといい、絞り値を大きくすることを絞り込むといいます。絞りを開放にすることで、ボケの効果を使って遠近感を表現することができます。

スポット測光
ファインダの中央のごく一部を測光する測光方式。このカメラでは、ファインダのスポット測光エリアマークの範囲内を測光します。被写体の特定の部分に露出を合わせることができるため、明暗差の大きい被写体を撮影するときなどに適しています。

スマートメディア
フラッシュメモリをベースにした、厚さ0.76mmの記録用メディア。画像を記録するのに使われ、3V(3.3V)用と5V用があります。このカメラで使用できるのは3V(3.3V)用です。

た

中央重点測光
画面中央部の被写体を中心に広い範囲で測光する測光方法。通常の撮影に適していますが、画面の中に極端に明るい所や暗い所があると、全体の露出が、そちらに影響されることがあります。

デジタルESP測光　Digital Electro Selective Pattern
分割測光素子によって周辺部と中心部を個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

は

ハレーション
極端に強い光を撮影したときに、その光が、撮影画面のその光以外の部分に影響をおよぼすこと。

1コマ撮影
シャッターボタンを1回全押しすると、1枚の画像が撮影されること。

フォーカス
→ピント

被写体
撮影する人物、風景、静物など。

ピント
焦点。フォーカス。
ポイント・オブ・フォーカスのポイント(オランダ語でピュント)がなまってできたといわれる日本だけの俗語。画像でもっとも鮮明な像を結ぶ位置。ピントより手前にあるもの、ピントより先にあるものは、ピントから離れるほど像がぼけていきます。ピントが合っていないことを俗にピンボケといいます。

フォーマット
①画像や文書の形式。このカメラの画像の形式はTIFF、JPEG、RAWデータの3種類。
②初期化のこと。このカメラではスマートメディアやコンパクトフラッシュを初期化することをフォーマットといいます。

フレア
レンズ面やカメラの内部で反射した光によって、画面の一部、または全体の明るさが変わったり、シャープさが低下したりすること。

ま

マクロ撮影
接写。被写体に近づいて撮影すること。このカメラでは、20cm〜60cmの距離にある被写体をマクロモードで撮影します。最短撮影距離は20cmで、ズーム位置(ズームの倍率)が変わっても変化しません。

マニュアルフォーカス(MF)
自分でフォーカスリングを回してピントを合わせること。

ら

連写
シャッターボタンを全押しし続けている間、連続して何枚もの画像が撮影されること。このカメラでは、連写できるように設定すると1回に4枚まで連写できます。

露出
CCD(撮像素子)に入る光の量。絞り値とシャッタースピードの組み合わせで調節します。この組み合わせを、被写体の明るさに応じて自動的に決めることをAE(自動露出)といいます。

露出補正
AEで決まった露出を変化させ、補正すること。増やす場合をプラス補正、減らす場合をマイナス補正といいます。

索引

た

な

は

ま

や

ら

わ